

Yanaginogosho Site

The 78th and 79th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2018

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第153集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第153集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第78・79次発掘調査概報

2018

岩手県教育委員会



岩手県文化財調査報告書第153集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第78・79次発掘調査概報

2018

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の土著として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が「吾妻鏡」に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来岡いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は漏れてしまいましたが、平成24年に暫定リストに登録されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を継続していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指考委員会の先生方、文化庁記念物課、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成30年3月

岩手県教育委員会
教育長 高橋嘉行

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成28・29年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成28年5月15日から11月30日、平成29年4月17日～9月30日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。
S A : 塀・柱列 S B : 掘立柱建物 S C : 道路状遺構 S D : 溝・堀
S E : 井戸・井戸状遺構 S G : 園池 S K : 土坑・柱穴の一部 S X : その他
S I : 竪穴住居 P : 柱穴
例：78SK1 第78次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書に係る編集・執筆は生涯学習文化財課柳之御所担当で協議の上、櫻井友輝・村上拓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の掘土観察、遺物の色調観察、「新版標準土色帖」を参考にした。
8. 自然科学分析については株式会社加速器分析研究所への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
安達訓仁 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川貞紀 島原弘征 鈴木弘太 高橋千品
七海雅人 羽柴直人 本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 (50音順：敬称略)
岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉文化遺産センター
文化庁記念物課
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	1
3 平成28年度・平成29年度の調査	5
II 調査内容	9
1 78次調査	9
(1) 調査の概要	9
(2) 検出遺構	9
(3) 出土遺物	29
2 79次調査	51
(1) 調査の概要	51
(2) 検出遺構	51
(3) 出土遺物	60
III 自然科学分析	63
IV 総 括	67
1 調査成果の概要	67
2 堀跡周辺の様相	67
3 ま と め	72
V 付章 高館跡9次調査の概要	73
1 高館跡の概要と調査計画	73
2 高館跡9次調査の概要	75

図 版 目 次

図版 1	遺構 (78次調査) 調査区全景	図版17	遺物 (78次調査) かわらけ⑦
図版 2	遺構 (78次調査) 21SD1	図版18	遺物 (78次調査) かわらけ⑧
図版 3	遺構 (78次調査) 21SD1-78T1断面状況	図版19	遺物 (78次調査) かわらけ⑨
図版 4	遺構 (78次調査) 21SD1-78T2断面状況	図版20	遺物 (78次調査) かわらけ⑩・ 国産陶器①
図版 5	遺構 (78次調査) 21SD1-78T2	図版21	遺物 (78次調査) 国産陶器②
図版 6	遺構 (78次調査) 21SD1-78T3	図版22	遺物 (78次調査) 国産陶器③
図版 7	遺構 (78次調査) 21SD1-78T4	図版23	遺物 (78次調査) 国産陶器④
図版 8	遺構 (78次調査) 21SD2	図版24	遺物 (78次調査) 輸入陶磁器・瓦
図版 9	遺構 (78次調査) 21SD2-78T5	図版25	遺物 (78次調査) 木製品類①
図版10	遺構 (78次調査) 78SD1	図版26	遺物 (78次調査) 木製品類②
図版11	遺物 (78次調査) かわらけ①	図版27	遺構 79次調査
図版12	遺物 (78次調査) かわらけ②	図版28	遺構 79次調査
図版13	遺物 (78次調査) かわらけ③	図版29	遺構 79次調査
図版14	遺物 (78次調査) かわらけ④	図版30	遺構 79次調査
図版15	遺物 (78次調査) かわらけ⑤	図版31	遺物 79次調査国産・輸入陶磁器類
図版16	遺物 (78次調査) かわらけ⑥		

挿 図 目 次

図 1	遺跡位置図	2	図18	21SD1出土土器類実測図 6	36
図 2	調査区位置図	6	図19	21SD1出土土器類実測図 7	37
図 3	78次調査遺構配置図 (1/200)	10	図20	21SD1出土土器類実測図 8	38
図 4	21SD1平面図 (1/100)	11	図21	21SD1出土土器類実測図 9	39
図 5	21SD1断面図 1 (78T1)	13	図22	21SD1出土土器類実測図10	40
図 6	21SD1断面図 2 (78T2)	15	図23	21SD2その他遺構出土土器類実測図 1	42
図 7	21SD1-T2上留め材	17			
図 8	21SD1断面図 3 (78T3)	18	図24	21SD2その他遺構出土土器類実測図 2	43
図 9	21SD1断面図 4 (78T4)	20			
図10	21SD2周辺平面図	22	図25	出土遺物実測図 (瓦)	43
図11	21SD2断面図 (78T5)	23	図26	21SD1出土木製品類実測図 1	45
図12	78SK1・78SD1平面・断面図	28	図27	21SD1出土木製品類実測図 2	46
図13	21SD1出土土器類実測図 1	31	図28	21SD1出土木製品類実測図 3	47
図14	21SD1出土土器類実測図 2	32	図29	21SD1出土木製品類実測図 4	48
図15	21SD1出土土器類実測図 3	33	図30	21SD1出土木製品類実測図 5	49
図16	21SD1出土土器類実測図 4	34	図31	21SD1出土木製品類実測図 6	50
図17	21SD1出土土器類実測図 5	35	図32	79次調査遺構配置図 (1/200)	52

図33	79SX1平面図	55	図42	柳之御所遺跡の橋跡	71
図34	断面図1	56	図43	高館跡調査位置	74
図35	断面図2	57	図44	T1遺構平面図	76
図36	断面図3	58	図45	T1遺構断面図	77
図37	79次調査出土土器類実測図1	61	図46	T2・3平面図	79
図38	79次調査出土土器類実測図2	62	図47	T2・3断面図	80
図39	暦年校正年代グラフ(参考)	66	図48	T4平面図	81
図40	78次調査区人為層分布	69	図49	T4断面図	82
図41	柳之御所遺跡整地層分布	70	図50	T5平面・断面図	84

挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査指導委員名簿	3
表2	平成28・29年度指導委員会協議事項	3
表3	発掘調査年次計画	4
表4	21SD1堀跡 78T1~78T4トレンチ 土層対応表	21
表5	21SD2堀跡 78T5トレンチ 土層対応表	26
表6	78次調査出土遺物数量表	29
表7	79次調査出土遺物数量表	60
表8	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	65
表9	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年校正用 ^{14}C 年代、校正年代)	65
表10	柳之御所遺跡堀跡に関わる橋と推定位置	72
表11	高館跡の調査計画	73
表12	78次遺物観察表(かわらけ)	86
表13	78次遺物観察表(国産陶器)	90
表14	78次遺物観察表(輸入陶磁器)	95
表15	78次遺物観察表(瓦)	95
表16	78次遺物観察表(木製品)	96
表17	79次遺物観察表(国産陶器)	99
表18	79次遺物観察表(輸入陶磁器)	102

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、経度・緯度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて筋間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

この遺跡は本格的な発掘調査の開始以前から奥州藤原氏に関連する内容をもつことが想定されていたが、多くは北上川の洪水等により削平を受けて失われたものと考えられていた。そのため、遺跡は一閃遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われることとなった。調査開始以前の予想に反して、調査当初より多くの遺構、遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構・遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して筋間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽藍御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍の内容が確認されている。伽藍御所跡は地名から「吾妻鏡」に記載される伽藍御所に比定する見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸域や火川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉に関連する遺跡の分布範囲が周辺に広がるのが明らかになり、検討が行われてきている。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を、3カ年ずつ計画を立て進めている（表3）。

平成28年度調査（78次）及び平成29年度調査（79次）は第7次3カ年計画にあたる。第7次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。第6次計画から続いて、遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進んでいる。

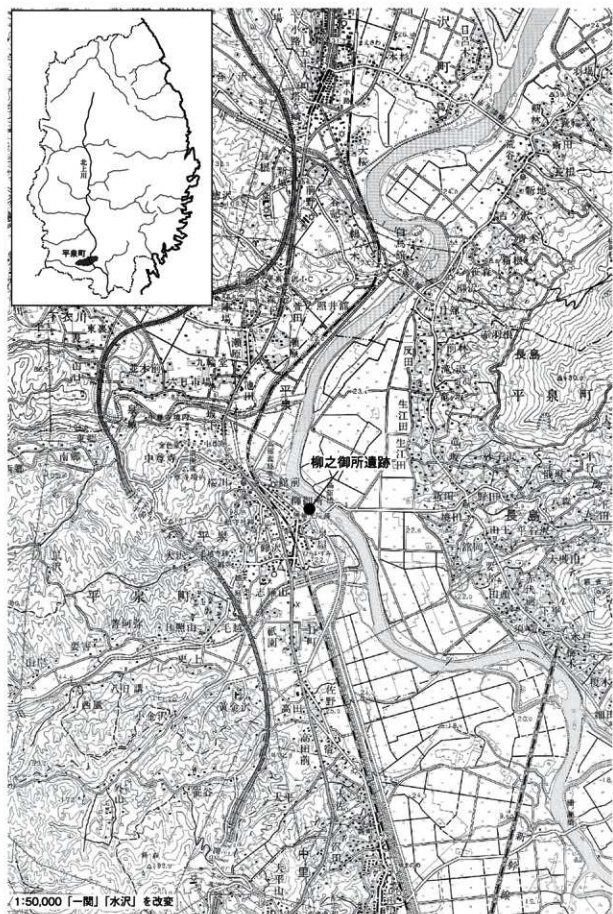


図1 遺跡位置図

これまでの計画と今後の計画については表3に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表1)。平成28年度・平成29年度の委員会・専門部会は表2の通り開催した。

表1 平泉遺跡群調査指導委員会名簿

(平成28年4月現在、役職は当時)

氏名	役職	専門部会
人阿田寛夫	東北大学名誉教授	整備
速藤セツ子	メビウスの会事務局	整備
○岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
板井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学名誉教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
岡宮 治良	南平泉町商工会事務局長	整備
田中 百雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
○田辺 征夫	奈良国立大学特任教授	遺構
玉井 哲雄	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ○委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表2 平成28・29年度指導委員会協議事項

	回	日時	内 容
平成28年度	遺構・整備・保存管理部会	28.7.15	今年度の調査整備の内容について 平泉遺跡群の調査整備について(無量光院跡の整備)
	第1回委員会	28.9.15～16	今年度の調査について 今年度の整備について(植栽、看板等について) 無量光院跡の調査状況、整備計画について
	遺構・整備・保存管理部会	29.1.10	今年度の整備工事について 去年度以降の整備計画について 無量光院跡の調査状況、整備計画について
平成29年度	第2回委員会	29.2.17	今年度の整備について 今後の柳之御所遺跡の整備計画について 無量光院跡の調査状況、整備計画について 平泉遺跡群の今年度の調査成果について
	ガイダンス施設整備検討部会	29.5.17	基本計画について 日次構成・基本理念・事業活動計画・施設計画
	第1回委員会・部会	29.6.28	今年度の調査 今年度の整備 ガイダンス整備計画について 整備基本計画の改定について 無量光院跡の調査・整備について
	第2回委員会	29.8.29～30	今年度の調査について 今年度の整備について(植栽、看板等について) 整備計画の改定について 無量光院跡の調査状況、整備計画について
	ガイダンス施設整備検討部会	29.10.20	基本計画について 日次構成・基本理念・事業活動計画・施設計画
	遺構整備部会	29.11.2	発掘調査の内容 整備計画の改定について
	ガイダンス施設整備検討部会	29.12.12	基本計画について 施設計画・展示計画・管理運営計画について
	ガイダンス施設整備検討部会	30.1.23	基本計画について 展示計画・管理運営計画・次年度以降のスケジュールについて
	第3回委員会	30.2.9	今年度の整備について 今後の柳之御所遺跡の整備計画について 無量光院跡の調査状況、整備計画について 整備計画の改定について・ガイダンス計画について

表3 発掘調査年次計画

	年次	調査回数	調査内容等	調査面積	調査期間	備考	
第1次2か年次計画	平成10年度 第49次		・堀内堀跡内の中心建物群、特に堀内建物である南北棟4間9間42S11(28S11と一部重複)の東側地区の解明。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助	
			・23次調査時の23S12堀跡の延長確認。				
			・23SA31柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。				
	平成11年度 第50次		・48S11建物跡の延長確認と所属時期の検討。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助	
			・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。				
			・1階9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。				
平成12年度 第52次		・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸長状況の追跡。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助		
		・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀跡の時期及び伸長状況の把握。					
		・堀内地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。					
第2次2か年次計画	平成13年度 第53次		・祭祀遺構周辺域の解明。	3,100㎡	5月11日 ～11月18日	国庫補助	
			・無証穴跡との対峙地域の解明。				
			・堀外地区から延長すると想定される道路遺構の解明。				
	平成14年度 第56次		・中心建物群の北側地区の解明。	1,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・中心建物群を囲むと想定される堀跡の検出。				
			・堀外地区から延長すると想定される道路遺構の解明。				
平成15年度 第57次		・現存する微高地状の高まりの性格把握。	1,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助 ※発掘関係子委員会		
		・北上川跡地域の状況把握。					
		・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と張り施設を伴った溝の追跡。					
第3次2か年次計画	平成16年度 第59次		・北上川右岸域での大規模な堀跡の把握。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・遺跡を二分する外堀の追跡。				
			・旧池跡の規模と造成時期の把握。				
	平成17年度 第64次		・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・高台南側部分半円形遺構の遺構分布の確認。				
			・中心建物群の規模と周囲関係の解明。				
平成18年度 第65次		・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助 ※発掘関係子委員会		
		・北上川経道地域の状況把握。					
		・園池の構造及び規模と造成時期の把握。					
第1次2か年次計画	平成19年度 第68次		・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。				
			・既調査で把握されている検出の道路調査。				
第3次2か年次計画	平成20年度 第69次		・堀内内部のトイレ状遺構の分布。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・遺跡北端部の堀の延長確認。				
	平成21年度 第70次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会
				・堀内北端部の構造確認。			
				・堀内北端部の構造確認。			
平成22年度 第72次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				
平成23年度 第73次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				
第6次2か年次計画	平成24年度 第74次		・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				
	平成25年度 第75次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会
				・堀内北端部の構造確認。			
				・堀内北端部の構造確認。			
平成26年度 第76次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				
平成27年度 第77次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				
第7次計画	平成28年度 第78次		・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	5月15日 ～11月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				
平成29年度 第79次			・堀内北端部の構造確認。	1,100㎡	4月17日 ～9月30日	国庫補助 ※発掘関係子委員会	
			・堀内北端部の構造確認。				
			・堀内北端部の構造確認。				

※ ※ 第51次・33次・34次・38次・60～63次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

3 平成28年度・平成29年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課(平成29年度より生涯学習文化財課、文化スポーツ部文化振興課併任)〉

総括課長	松下 洋介 (H29.3.31まで)
総括課長	佐藤 公一 (H29.4.1より)
主幹兼世遺産担当課長 (H29.4.1より文化振興課)	佐藤 嘉広
文化財専門員	千葉 正彦
主査	湖上 恭子 (H29.3.31まで)
主査	女鹿 光介 (H29.4.1より)
文化財専門員	大岡 真人 (H29.4.1より)
文化財専門員	櫻井 友梓

〈(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長	中村 英俊 (H29.3.31まで)
所 長	佐々木 一成 (H29.4.1より)
主任文化財専門員	村上 拓

(2) 調査区的位置と調査目的

78次調査(平成28年度)

平成28年度調査(78次)は遺跡の南端部周辺の未調査範囲を主な対象とした(図2)。今回の調査範囲は近年まで宅地等として利用され、これまで未調査で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、78次調査の対象とした範囲の周辺は、これまで多くの調査が行われている地区でもある。遺跡の南端部は、柳之御所遺跡の緊急調査が開始された21次調査(昭和63年³⁾)および23次調査(平成元年⁴⁾)で周囲が調査されたほか、69次調査(平成20年)と70次調査(平成21年)及び76次調査(平成26年度)、77次調査(平成27年度)で周囲の調査を行っている。このほか、近接して平泉町教育委員会が小規模な調査を行った範囲も所在する。これらの調査で内側の堀跡(21SD1)や外側の堀跡(21SD2)、関連する遺構(21SX4)が確認されているほか、伽藍之御所跡の方向へ伸びる橋跡の遺構も確認されている。また、より北側の56次調査(平成15年度)、75次調査(平成25年度)で確認されている堀跡との中間部分に位置する。

今回の調査目的のひとつは堀跡の位置と内容の確認である。調査範囲は遺跡を囲む堀跡のうち、これまで調査が行われてきた南端部と猫間が堀跡周辺の間の未調査の範囲にあたる。堀跡の位置については地形の観察などから推察されてきたが、明確な位置については不明な部分も残されていた。そこで位置の確定のため一部について走行方向を確認することをひとつの目的とした。また、76次調査で確認した堀跡周辺の整地等に由来する人為的な土質の崩壊土層の延長と性格の検討も目的のひとつとしているほか、猫間が堀跡方向への地形の様相や遺構の分布状況の確認も目的とした。堀跡については時期や規模について課題が残り、それらの検討の材料を得ることも目的とする。

もうひとつの目的は、堀内部の範囲にあたる堀跡に近接する平坦な範囲について遺構の分布等が不明なことから、これらの様相の把握を目的としている。特に、堀跡に沿った平坦な地形部分での遺構の把握とこの周囲の性格検討のための材料を得ることを目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等の把握を目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を

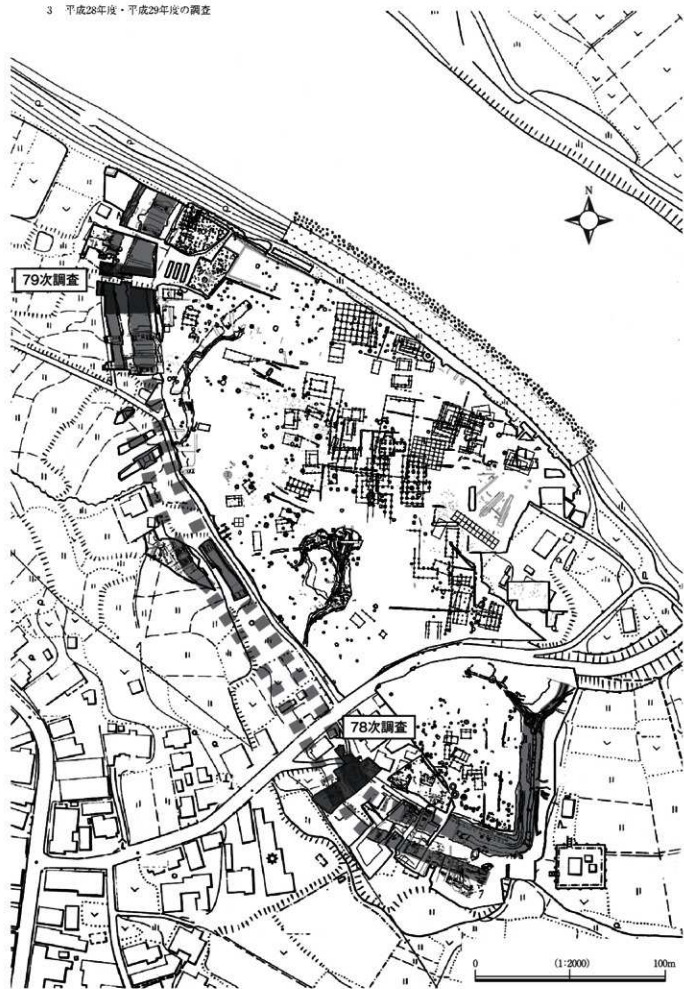


図2 調査区位置図

行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

79次調査（平成29年度）

平成29年度調査（79次）は遺跡の北端部周辺にあたる、堀外部と内部の接する範囲を主な対象とした（図2）。73次調査（平成23年度）及び74次調査（平成24年度）の調査範囲に挟まれた範囲にあたる。それぞれの調査では2条の堀跡の位置と走行方向を確認している。しかし、近年まで宅地として利用されたこともあり地形の改変を受けており、橋などの施設や明確な道路遺構などの痕跡は希薄であった。

この周間は堀内部で見つかった道路遺構の延長付近に位置し、堀外部で見つかった道路遺構の延長が想定できること、旧来の地形を想定した場合に丘陵の頂部が延長される範囲にあたることなどから、道路遺構やそれらの接点にあたりと想定できる。また、73次調査及び74次調査でも橋等の遺構の有無の確認を目的としたものの、それぞれの調査範囲の間に一部未調査の範囲が残っていた。そのため、今回の調査では堀跡に関連する遺構や、特に橋などの導入施設の有無を検討する材料を得ることを目的として両調査区の間を中心に調査区を設定し、調査を実施した。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである(岩手県埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第X系(旧日本測地系)をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し(北は、西に0°11'振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点(0, 0)となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させてY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を採用し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばY軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。

また、本遺跡では大規模な調査の開始以降に宮城県東部地震や東日本大震災により大きな変動を受けている。その後に行った再測量において当該遺跡内での座標変動とその数値を改めて確認している。ただし、柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を示すことが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため現在の調査においても現地においては旧日本測地系の座標を基準として設定しており、発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局地座標で行う。

局地的な調査継続としては上記のように考えられるものの、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきている。それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握することで対応できるように努める。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、表土の厚さが確認できている範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲の一部については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査（検出作業）を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構においては遺構の年代把握や遺物検討のために、半蔵等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構においても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真は適宜35mm判カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査回数である78・79を付して上記遺構略号を使用した（例、78SK〇〇）。既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号（既調査で命名）を本書においても使用している。具体的には2条の大規模な堀跡については既調査で確認されている遺構と同一であることから78次調査においては、21SD1、21SD2の遺構名称を継続して用いる。同様に、79次調査については72SD1、72SD2の遺構名称を継続して用いる。

整理作業

78次調査 野外調査終了後の平成28年11月1日から平成29年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原因を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

79次調査 野外調査終了後の平成29年10月1日から平成30年1月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原因を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、各次の調査で検出した遺構と既知の遺構でも精査の際に半載した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

78次調査 普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった9月24日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

79次調査 普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった9月2日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。 (櫻井)

Ⅱ 調査内容

1 78次調査

(1) 調査の概要

78次調査区は、平成26年度に実施した第76次調査区の北西にあたる。西側の100mほどの位置は75次調査の範囲で、78次調査区は両者の間になる。また、平泉町教育委員会によって住宅開発に伴う小規模な調査が行われている位置とも隣接する（第46次調査・平成6年）。本来の地形は、南側は猪岡ヶ淵跡の低地へと下がる地形で遺跡堀内部の平坦な地形と変化する位置である。公有地化以前の状況は宅地で調査前の現況地形は平坦に造成されている。調査対象面積は約800㎡である。

78次調査区は、南区は遺跡を囲む2条の堀跡（21SD1・21SD2）が位置するとみられる範囲で、これまでの調査で確認されている整地層などの土層の分布状況を確認し、周囲の遺構状況を把握することを目的としている。

調査区内はいずれの範囲も宅地造成時の削平などによる地形の改変が著しい。特に調査区の南側は2mほどの現代の厚い盛土層が確認された。検出面までの層序は、地点によって層の有無や層厚の差はあるが、基本的には同様である。調査区内の基本層序は下記の通りである。

I 表土層・盛土層

Ⅱ 調査区南の低地部分で確認できる黒褐色から灰褐色の土層で、12世紀代の遺物を含む。12世紀以降の堆積層。

Ⅲ 黒褐色の土層。12世紀とそれ以前の時期の旧表土にあたるが、多くの範囲では削平等により確認できない。過去の調査でも旧地形の標高が低い範囲などで確認されている。これらの土層は古代や縄文の土器を含み、それぞれに細分できる範囲もある。

Ⅳ 黄褐色の粘土層で、いわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。

なお、このうちⅡ・Ⅲ層は調査範囲全体では確認できず、調査範囲一部のみ確認できる。多くの調査範囲はⅣ層の上面にⅠ層の盛土層が堆積し、削平等の改変が行われたことがわかる。一部を除き、遺構の多くはⅣ層上面での検出となる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図3）。

- 堀跡 2条
- 整地層 2カ所
- 土坑 4個
- 柱穴 多数（12世紀以降のものを多く含む）

（櫻井）

(2) 検出遺構

① 堀跡

21SD1（図4）

【位置・検出状況・精査方法】 76-99グリッドを中心に北北西-南南東方向に走行する帯状範囲として検出した。内岸側プランは地山黄褐色上面において検出し、一方外岸側は、75-98グリッド以北で

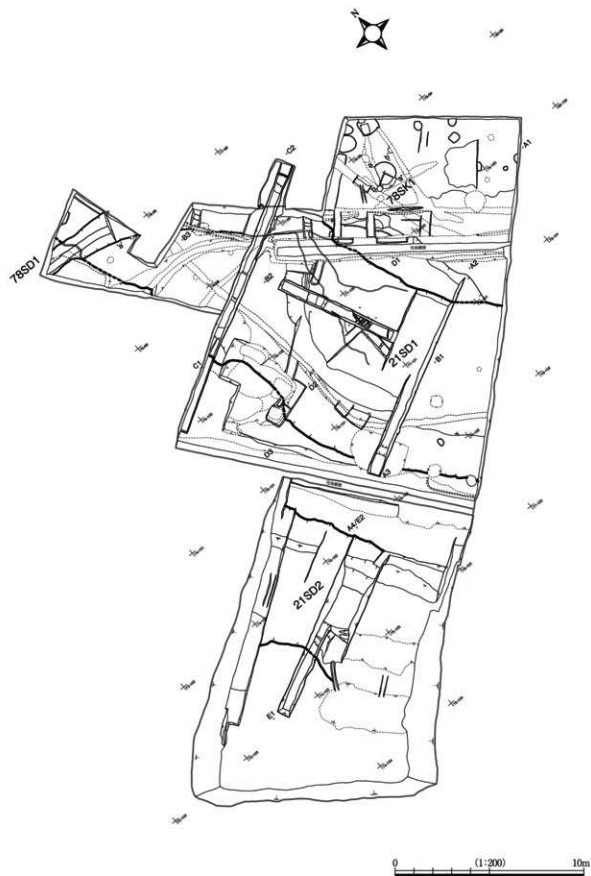


図3 78次調査遺構配置図 (1/200)

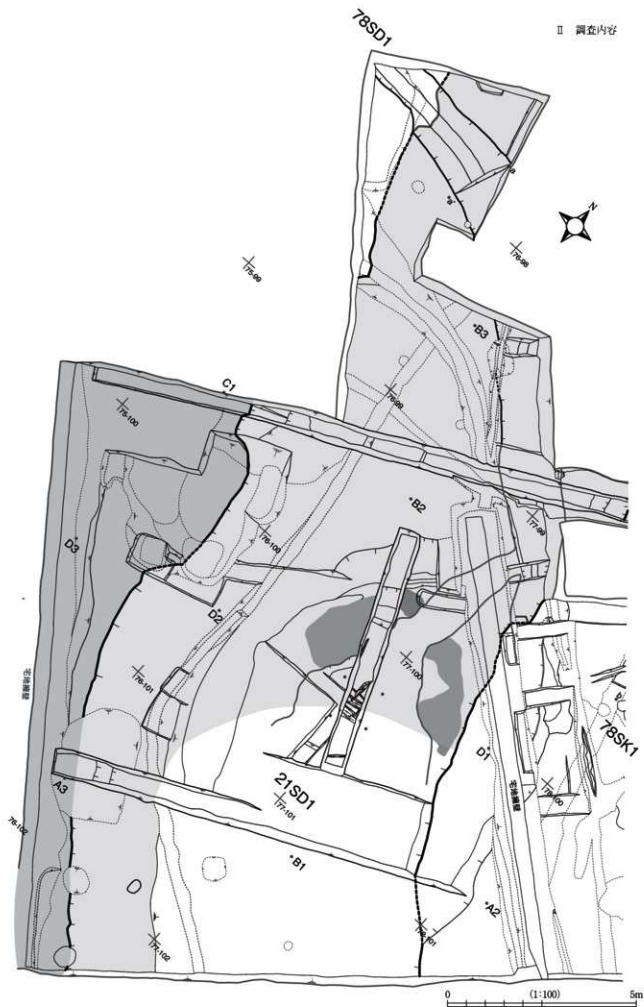


图4 21SD1平面图 (1/100)

は地山土層上位の自然堆積層である黒褐色土層、75-99グリッド以南ではこの黒褐色土層の上位に堆積する人為土層面を切った状態でそれぞれ確認した。確認面はいずれも後世の開田や宅地化に伴う削平面である。

既往調査では本遺構は遺跡南端部から北西方向に向かいごく緩い弧状をなして延伸することが把握されていたが、今次調査区内においては76-100グリッド付近から遺跡中央部側に向かってやや強く内湾する状況が看取された。また、プラン内の北半部及び南半部西縁に地山黄褐色土ブロックからなる人為土層の広がりが見出された。今次調査区における本遺構プラン内のうち、その面積の半分を僅に超える大規模なものであり、遺構内部の堆積状況は既往調査のそれと大きく異なることが予想された。そこで堆積状況の把握を主な目的として計4箇所のトレンチ（78T1～T4）を設定し、精査・記録に着手した。

なお、掘削土量（作業量）及び安全管理上の制約から、いずれのトレンチにおいても遺構底面には到達していない。観察可能な範囲において、層序の把握と堆積過程の解釈に資する情報を得ることに注力した。

【形状・規模】 確認面における上端幅は10.0m前後である。上述の通り、今次調査では遺構下部～底面の様相は未確認であるが、近接地点の既往調査では概ね逆台形の断面が確認されており、今次地点においても同様の形態を呈する可能性が高いと推測される。後掲トレンチ78T1・78T3・78T4では壁面上部を確認しており、内岸側で50°前後（最上部は外傾を強め約32°）、外岸側で40°前後の立ち上がりが見られた。

【人為土層の分布状況】 先述の通り、地山黄褐色土ブロック層の平面分布はプラン内部の過半を占め、特に76-100・77-100グリッド北半部から75-98・76-98グリッド南半部の範囲においては、両岸の間を完全に塞ぐ状況が観察された（以下「閉塞部」）。これよりさらに北側でも同様の土層が調査区北端まで連続し、プラン内の全面に広がりを見せているが、内岸側が調査区外にあるため閉塞部全体の北限は不明となっている。一方、閉塞部の南側でも外岸に沿って同様の人為土層が連続して分布する。確認面では外岸に沿って幅2.0～2.5mの帯状に検出され、調査区南端部に達している。

当該土層の堆積状況について概要を記せば、主に外岸側から供給された黄褐色地山土ブロック主体の人為土が、今次調査区の南北両端にわたる広い範囲で外岸側壁面を覆うように流し込まれ、続いて調査区中央付近から北部にかけては確認面に至るまでさらに厚く積み上げられて、両岸間を完全に閉塞するに至ったものと見ることが出来る。範囲の北限は不明だが、南限は後掲78T2トレンチ内で検出された丸太材付近と考えられる。これらの詳細は後段で述べる。

【埋土・堆積状況】 遺構内の堆積状況と所見について、以下、各トレンチ別に記述する。

◎78T1（断面A2-A3・図5）

77-101グリッド杭付近において、21SD1を横断するよう走行方向に直交させて設置したトレンチである。図右方が外岸側（西方）、図左方が内岸側（東方）である。確認面以下90cm（標高23.3m）前後まで掘り下げを行った。観察・記録した南壁断面は後掲21SD2の78T5北壁断面E1-E2の延長線上に設定したものであり、掲載した断面図は一方を表裏反転させた状態で連続する（セクションポイントA4とE2が同一点）。

1～5層は本遺構の埋土上部を切る堆積層である。近世以降の水田かそれに類するものと考えられる。上述の人為土による閉塞部の南側は一定の埋積後に凹地となり、それを拡大・整形して利用した痕跡とみられる。内岸側壁面上部及び外岸側人為土層上部を壊し「段」を生じさせている。

6～15層は、調査区北半部で本遺構を切り内岸沿いを並走する溝跡78SD1から77-99グリッド杭付近で分岐し、閉塞部の南側の凹地に流入した土層である。幾筋かの流水痕跡が重複して観察され、下

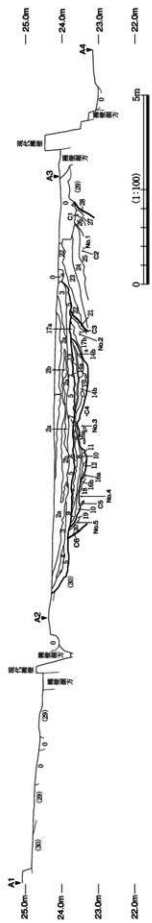
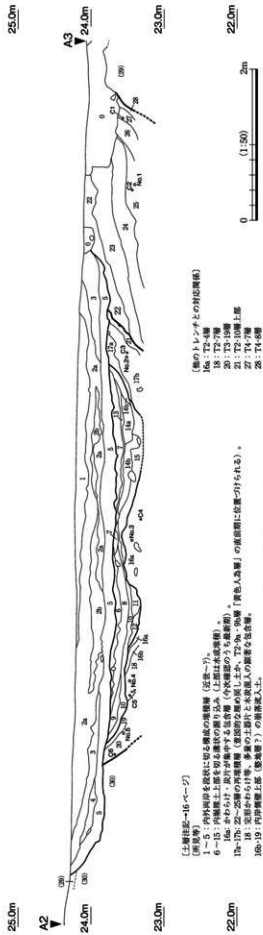


図5 21SD1 断面図1 (78T1)



(他のトレンチとの対応関係)
 16a: T2-4層
 18: T2-7層
 20: T2-10層上部
 21: T1-7層
 28: T1-8層

(土層柱記-16ページ)
 (断面等)
 1-5: 外河内田を段状に切る層成の地層群 (区画-7)。
 6-15: 河原上層を切る層状の層り込み (上部は水成層)。
 13a-17b: 22-25層の四角層群 (第15層を境に厚くはた、T2-6、9層「黄色土層」の最上部に位置づけられる)。
 18: 区画からけ等、多量の土砂片と水成層の層群を含む層。
 16b-19: 外河内田上部 (築地層?) の層群主体。
 20: 外河内田を貫通する包合層、かわらけ完形群とい、16a・18層に比して水成層入層はすつと少ない。
 21: 外河内田の戻し土の上層。
 22: 埋め戻し土の自然層群。
 25: 埋め戻し土の自然層群。
 26: 外河内の落土。
 27: (河・外)の崖面が同時堆積なら) 25層に対応される最古期落土に相当。
 28: 外河内田を貫通する層、土器層群の表層が侵入したものとみられる黒土を含むい粘土土。

位の21SD1埋土上部を切っている。かわらけ等遺物の混入量は比較的多いが小片・細片を主体としており、21SD1埋土由来の遺物が後の掘削等によって破砕、再堆積したものと考えられる。

16a層以下は21SD1本来の埋土である。16a層は多量のかわらけ小片と木炭細片の混入が目立つ黒褐色土層で周囲からの流入土と考えられる。上位が削平を受ける以前の遺構内上部堆積層に相当する。

これより下位の土層は、内岸側（図左）と外岸側（図右）で様相が大きく異なる。

内岸側では、間に地山土ブロック層（16b・19層）を挟みながら、黒褐色土（18・20層）が流入した様子を観察される。流入土層の上面にはそれぞれ遺物集中がみられ、完形に近いかわらけが多量に出土している。

一方、外岸側には厚い地山土ブロック層（22～24層）の堆積がみられる。確認面において外岸沿いに連続して観察された人為土層である。この土層の下位には内岸側18・20層に対比される可能性がある黒褐色土（25・27層）が堆積しているが、内岸側のそれとの併行（先後）関係を示す層位的根拠は得られていない。内岸側に比して遺物・木炭粒が著しく少なく、全体に粘土質を早することが相違点として指摘できる。この下位の26層に含まれる地山土ブロックは水平方向に潰れており、上位の人為土層（22～24層）の土圧によるとみられる。外岸側壁面に直に覆う28層は、黒色土を含まない明るい粘土質土層であり、構築直後の壁面に露出していた地山黄褐色土の再堆積あるいは風化した部分と考えられる。内岸側で壁面に直に覆う20層とは大きく異なっており、堆積開始段階には外岸側は表土の流入が抑制される環境であったことを示唆している可能性がある。加えて、20層に覆われる内岸側壁面が、後に再構築されたもの（例えば21層下面段階等）である可能性は留保しておかねばならない。

◎78T2（断面B1-B2・図6）

76-99～77-100グリッドにかけて、閉塞部の構成土層と、以南の埋土との層位関係を把握するため、21SD1に対し縦断方向に設定したトレンチである。北側（図右方）が閉塞部で、南端（図左端）で先掲78T1と直交する。幅約70cmの範囲を検出面以下170cm（標高22.6m）前後まで掘り下げ、トレンチ西壁面を記録した。

土層断面からは、閉塞部を構成する北側の層群が古く、その後、埋め残された南側低位部（本遺構内部）に土層が累積した様子が見て取れる。

18～28層は明色の地山土ブロック層で、閉塞部の主体を成す層群である。下部の28層は上部に比してブロックの径が大きくボソボソと締まりを欠くが、上部は10～20cmの厚さで順次緻密に土が積み上げられた状況が観察できる。概ね水平方向に延びる層界には旧表土ブロックも散見される（22・24・27層）。16・17層は水分を多く含み、乾燥すると収縮して空隙が生じるような黒褐～褐灰色の粘土で、層の外縁には酸化鉄斑の集積がみられる。このような性状は、一般的に木質腐食部にみられるものであり、構築過程における意図的な土留めまたは芯材等の痕跡である可能性を指摘できる。本層群の南縁は南側の遺構内部に向かって約50°の勾配でほぼ直線的に下る面を成している。以上の様相から、閉塞部の構築に際しては、まず28層以下が遺構内部に流し込まれた後、上部は入念な締め固めと整形を意識した積み上げが行われたと考えられる。

13～15層は上記構築土の崩落再堆積層とみられる。さらにこの上位にはかわらけの細片をわずかに含む黒褐色粘土質土（11・12層）の流入が観察されることから、上記の構築土と後述の新时期人為層（9a・9b層）との間には一定の時間差が想定される。

9a・9b層は、閉塞部の主体を成す先行18～28層に比して、より精選された地山土が用いられた新时期の人為土層である。下部（9b層）は大径のブロックを主体とし、上部（9a層）は緻密なブロック層となっている。9b層の下面には、樹皮・樹枝・茅束様の植物資材が敷かれており、本層下面南端

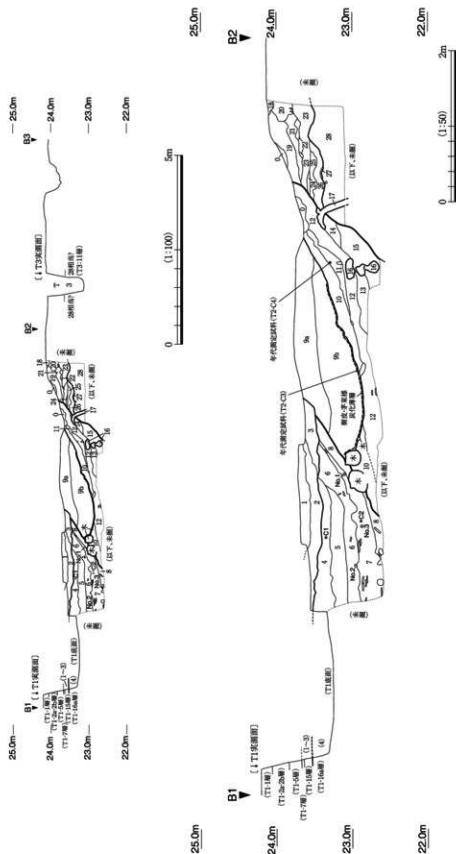


図6 21SD1 断面図2 (78T2)

〔土層記号→B1～B2〕

〔断面等〕

- 2・3：竹藪跡と土器を埋もれた溝跡及び土溝、水田溝跡。
- 4：堀内遺跡跡地(古溝)。かわらけは小片。
- 5・6：北原野土(旧遺跡)の遺構(土層)。
- 7・8：新代溝土(新代溝)の遺構(土層)。
- 9a-9b：新代溝土(新代溝)の遺構(土層)の遺構(土層)の遺構(土層)。
- 10-15：黒色土・アワガクが埋もれた土層(旧遺跡の遺構(土層)を覆う)。
- 16-18：旧遺跡の遺構(土層)を覆う土層。

〔他のトレンチとの対応関係〕

- 4：T1-16a層
- 7：T1-18層
- 10：T1-21層

【YG78-T1 南面 (SPA2-A3)】-2ISDI-

0 概況層

1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR5/4-7/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)下部に多量。しまり密。炭灰(径2-5mm)無微量。1・5層に似るが暗い。	
2a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR5/4-7/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)少量。2a層中に挟まる地山ブロック層。1層下部に似る。	
2b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR5/4-7/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-40mm)微量。2a・5層より黒味強い。	
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中		
4	2b層によく似る。					
5	10YR4/2-3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。炭灰(径2-5mm)無微量。全体に砂を含む2a層に比しやや明るい。	
6	10YR4/2-3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。10YR3/2黒褐色シルトブロック・10YR6/6-8/9明黄褐色砂質シルトブロック少量。	
7	10YR6/4-6/6	にぶい黄褐色-明黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭灰(径2mm)無微量。	
8	10YR3/2	黒褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。炭灰(径5-15mm)微量。トレンチ反対面では褐色砂の薄層と互層成す。水成堆積層。	
9	10YR4/2-3/3	灰黄褐色-暗褐色	砂	粘性弱	しまりやや疎。下部に小礫層中。水成堆積層。	
10	10YR4/1	暗褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。炭灰(径2-5mm)無微量。13層によく似る。水成堆積層。	
11	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。12層とブロック多量。かわかけ小片無微量。	
12	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR4/2-3にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量。10・11層より黒味強い。	
13	10YR4/1	暗褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。炭灰(径2-5mm)無微量。10層によく似る。水成堆積層。	
14a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。炭灰(径2-5mm)無微量。	
14b	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。10YR6/4-6/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土質シルトブロック(径10-40mm)やや多量。かわかけ小片無微量。	
15	10YR3/1	黒褐色	シルト	粘性中	しまり中。炭灰片(径10-20mm)微量。かわかけ小片無微量。	
16a	10YR3/1-2/1	黒褐色-黒色	シルト	粘性やや強	しまり中。円礫(径5-10mm)微量。炭灰片(径10-20mm)微量。かわかけ小片多量。全体に黒味強い。単造土層上の「水田耕土下位黒色土」とは本層。	
16b	19層によく似る。					
17a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/6-5/6明黄褐色-黄褐色シルトブロック(径10-20mm)少量。かわかけ小片多量。	
17b	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/6-5/6明黄褐色-黄褐色シルトブロック(径20-50mm)大量。炭灰片(径10mm)微量。ほら山趾ブロック層。	
18	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。水尻小片・かわかけ(定形-大形破片)が集中。16・20層に似る。	
19	10YR3/2-3/3	にぶい黄褐色-暗褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/6-5/6明黄褐色-黄褐色シルトブロック多量。	
20	10YR4/2-3/2	灰黄褐色-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭灰(径10mm)微(立立つ)。かわかけ(定形-大形破片)集中。	
21	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	しまりやや密。かわかけ小片無微量。	
22	10YR6/6-7/6	明黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。10YR4/3-3/4にぶい黄褐色-暗褐色シルトブロック微量。	
23	10YR6/6-7/6	明黄褐色	粘土質シルト	シルトブロック層	粘性中	しまり密。10YR4/3-3/4にぶい黄褐色-暗褐色シルトブロック少量(22・24層に比して多い)。
24	10YR6/6-7/6	明黄褐色	粘土質シルト	シルトブロック層	粘性中	しまり密。10YR4/3-3/4にぶい黄褐色-暗褐色シルトブロック微量。
25	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。水尻片(径10-20mm)微量。かわかけ小片無微量。	
26	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/6-7/6明黄褐色粘土質シルトブロック(径20-50mm)上部及び下部にやや多量。畚入ブロックは上方から5cmより水平方向に散らされている。	
27	10YR3/1-2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。炭灰(径2-5mm)微量。	
28	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。	
(29)	25YR7/3-7/4	灰黄色	シルト	粘性中	しまりやや密。地山構成層。(29)層の下位に堆積。	
(30)	10YR6/6-6/8	明黄褐色	砂質シルト	粘性弱	しまり密。地山構成層。(29)層の下位に堆積。	

【YG78-T2 西面 (SPB1-B2)】-2ISDI-

0 概況層

1	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/3粘土質シルトブロック(径10-30mm)やや多量。上部に礫(径20-50mm)かわかけ細片やや多量。全体に酸化層。赤味持つ。上面が水田耕土下面に相当か。
2	10YR3/1-2/2	暗褐色	粘土	粘性やや強	しまり中。厚層20mm以上の粘土及びフレック層が互層形成。水成堆積層。Tt-ホ10-13に似る。
3	10YR4/2-3/3	灰黄褐色-暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR6/3にぶい黄褐色シルトブロック(径10-15mm)多量。かわかけ小片無微量。
4	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭灰(径5-10mm)多量。かわかけ小片多量(小片主体)。単造土層上の「水田耕土下位黒色土」は本層。
5	10YR3/1-2/2	暗褐色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや密。10YR6/3-5/4にぶい黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)少量。炭灰(径5-10mm)無微量。
6	10YR4/1-3/1	暗黒黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまり中。10YR6/3-5/4にぶい黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)やや多量。炭灰(径5mm)無微量。
7	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや密。木質(茅草・小枝・樹皮灰)主体の泥炭層。略定形かわかけ・線器片・その他炭灰及び種籽等が集中。
8	10YR3/1	暗褐色	粘土	粘性強	しまり中。泥炭層の下部。混入物・遺物等ほとんど含まない。
9a	10YR6/4	にぶい黄褐色シルトブロック(径50-100mm)	10YR6/6-3/6灰褐色-にぶい黄褐色砂質シルト	粘性やや強	しまり密。円礫(径20-30mm)・白色砂子(径5mm・細粒岩片)微量。全体に砂質状(酸化)点状。
9b	10YR7/4-4/4	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径50-100mm)	10YR6/4-6/6にぶい黄褐色-明黄褐色粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-5/4にぶい黄褐色-暗褐色シルトブロック(径10-200mm)の厚ブロック層。粘性やや強。しまり密。10YR2/2黒褐色シルトブロック(径50cm)無微量。大形ブロックで構成される土層。
10	10YR4/1-3/1	暗黒黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径5-40mm)少量(上方からの圧により畚入ブロックは水平方向に散らされている)。炭灰片(径10mm)無微量。
11	10YR3/1-2/2	暗褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。円礫(径50mm)無微量。かわかけ小片無微量。
12	10YR3/1-3/2	暗褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-30mm)多量。
13	10YR3/1	暗褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)多量。
14	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径2-5mm)やや多量(細かいブロックが全体に入る)。
15	10YR3/1	暗褐色	粘土質シルト	粘性強	しまり中。10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-20mm)多量。13層によく似る。
16	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや疎。材質固か。
17	10YR2-4/1	灰黄褐色-暗褐色	粘土	粘性強	しまり中。硬。材質固か。礫・炭土層との層界がフレイ化。
18	10YR6/4-5/4	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性弱	しまり密。10YR7/4-7/6にぶい黄褐色-明黄褐色シルトブロック(径20-30mm)少量。10YR8/3-8/4浅黄褐色軟層(炭灰片)少量。
19	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR7/6-6/4明黄褐色-にぶい黄褐色シルトブロック(径10-50mm)少量。
20	19層に似るが、10YR7/6-6/4	明黄褐色	にぶい黄褐色シルトブロック	粘性中	しまり密。10YR7/6-6/4明黄褐色-にぶい黄褐色シルトブロック(径10-50mm)多量。
21	10YR3/3-4	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR7/3-6/3にぶい黄褐色シルトブロック(径10-50mm)多量。
22	10YR3/3-4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。
23	21層に似るが、10YR7/3-6/3	にぶい黄褐色シルトブロック	にぶい黄褐色シルトブロック	粘性中	しまり密。
24	22・23層と同じ。				
25	10YR4/2-3/3	灰黄褐色-暗褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-5/3にぶい黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径5-10mm)やや多量。
26	25層に似るが10YR6/3-5/3	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック	にぶい黄褐色粘土質シルトブロック	粘性中	しまり密。10YR6/3-5/3にぶい黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック(径10-50mm)の厚ブロック層。粘性やや強。しまりやや疎。ブロック径は20mm前後が主体。全体にボソソとしている。
27	22・24層と同じ。				
28	10YR4/2	灰黄褐色粘土質シルト	10YR6/3-6/4にぶい黄褐色粘土質シルト	粘性中	しまりやや疎。ブロック径は20mm前後が主体。全体にボソソとしている。

からは表皮のこのる太さ30cm近くの丸太材(クリか)が2本並列した状態で出土した(図7)。丸太材の内側には棒状材(枝)が立て掛けられ、9b層下面の植物質材はさらにその上位に乗り上げるように連続している。この様相から丸太材は閉塞部の南縁を規定する「土留め」であり、人為層下面に敷かれた樹枝・茅束様の植物質材は、土層下面の安定を目的に施されたものと推測される。この新期人為土層で形成された閉塞部の南縁壁面は、凹地に向かって30°強の勾配をもって一旦安定したとみられ、その上位は再び自然流入土層(8層)によって覆われている。

8層の上位には大量の植物遺体を含む泥炭層(7層)が形成されており、完形かわらけ・木質遺物等をはじめとする濃密な遺物集積がみられた。先掲78T1:18層に対比されるものである。

その後、上位には崩落土層(5・6層)を挟んで、多量のかかわりかけ小片と木炭粒を含む4層(78T1:16a層対比)が堆積する。本層以下が本遺構の本来の埋土であり、上位は後掲溝跡78SD1埋土に連続する2・3層(78T1:6-15層対比)に切られている。1層下面は本遺構の兩岸の肩を切る攪乱層(78T1:5層以上)の下面に相当する。

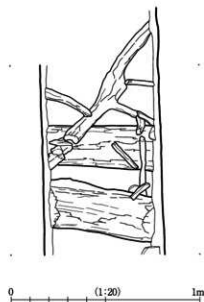


図7 21SD1-T2土留め材

◎78T3(断面C1-C2・図8)

75-99~77-98グリッドにかけて、21SD1に対し横断方向に設定したトレンチである。図右方が内岸側(東方)、図左方が外岸側(西方)である。前掲78T2の北側に位置しこれと直交方向に近接している。幅70cmの範囲を検出面以下130cm(標高22.7m)前後まで掘り下げ、トレンチ北壁面を記録した。

内岸側の壁面上部には地山土層(25層)の上位に旧表土層である暗色土層(22~24層)がみられ、本遺構はこれらを切って構築されている。外岸側では地山土層の上面はやや低くなっており、本来の地形は全体に猫間が猫間に向かって緩く傾斜していたことが理解される。

断面に観察される最も古い土層は、壁面を直に覆う流入土20・21層である。内岸側20層の上面には略完形かわらけ等の遺物集積がみられ、炭化物を多く含んだ黒味の強い19層がこれを覆う。自然流入による堆積はここまでで、その上位は兩岸の間に横断的に充填された人為土に厚く覆われている。

18層は埋め戻しの最初期に相当する。全体に暗色を呈し一見すると地山土ブロックを全体に含む自然崩落層のように見えるが、仔細に観察すると主体を占める暗色部もまた旧表土由来のブロックであることが確認できた。岸際の表土層もろとも掘り崩したものであろうか。この上位の17層は、逆に大径の地山土ブロック層となっている。本層まではやや乱雑な埋め戻しが行われた印象を受ける。これより上位は地山土ブロック主体の土層によって順次埋立てが進められている。11・13・15層の下面からは炭化した樹皮または茅の様な炭化した植物質が検出された。11層下面に特に顕著で、面的に密に敷き詰められた状況が認められる。充填土層の下面に意図的に敷かれたものであることは明らかであり、78T2トレンチ9b層下面のものと同様、土層下面の安定を目的に施されたものと推測される。

以上の人為的な土壌の供給は、まず外岸側から開始され(13~18層)、その後、中央部から内岸側の部分(5~12層)を埋め尽くしたことが分かる。層界には自然流入層が認められないことから、時間的断絶がほぼない一連の作業によるものである可能性が高い。

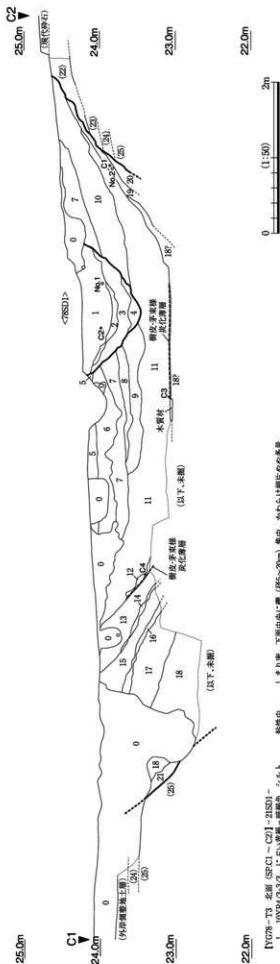


図 8 21SD1 断面図 3 (78T3)

1	107862-3	赤褐色	粘液中	しまり部、下部の色に濃 (厚5-20cm) 集り、中から片層状の砂多量。
2	107862-3	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の明褐色粘土質シルトプロック、107862-6の明褐色粘土質プロック (厚10-20cm) 多量。
3	107862-3	赤褐色	粘液中	しまり部、中から片層状の砂多量。
4	107862-3-4-4	赤褐色	粘液中	しまり部、中から片層状の砂多量、2層によく集る。
5	107862-3-4-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107872-3-6-4に多い黄褐色粘土質プロック (厚10-30cm) 大量、ほぼプロック層。
6	107862-2	赤褐色	粘液中	しまり部、107872-3-6-4に多い黄褐色粘土質プロック (厚10-30cm) 少量、2層に比べて全体に均一。
7	107862-2	赤褐色	粘液中	しまり部、2層の砂多量。
8	107862-2-3-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の赤褐色明褐色粘土質シルトプロック (厚20-40cm) 多量。
9	107862-2-3-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の赤褐色明褐色粘土質シルトプロック (厚20-40cm) 多量。
10	8層によく集る。			
11	107862-3-6-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の赤褐色明褐色粘土質シルトプロック (各厚20-30cm) 粘液中や濃 しまり部、ボツボツ・ザラザラした部、下面に礫状の炭化腐解付着 (12-17層下面のいずれか)。
12	107862-3-6-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の赤褐色明褐色粘土質シルトプロック (各厚20-30cm) 粘液中や濃 しまり部、ボツボツ・ザラザラした部、下面に礫状の炭化腐解付着 (12-17層下面のいずれか)。
13	107862-3-6-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の赤褐色明褐色粘土質シルトプロック (各厚20-30cm) 粘液中や濃 しまり部、ボツボツ・ザラザラした部、下面に礫状の炭化腐解付着 (12-17層下面のいずれか)。
14	107862-3-6-4	赤褐色	粘液中	しまり部、107862-6の赤褐色明褐色粘土質シルトプロック (各厚20-30cm) 粘液中や濃 しまり部、ボツボツ・ザラザラした部、下面に礫状の炭化腐解付着 (12-17層下面のいずれか)。
15	13層に同じ			
16	14層に同じ			
17	107862-2-6-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
18	107862-2-6-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
19	107862-2-6-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
20	107862-2-6-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
21	107862-2-6-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
22	107862-2-2-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
23	107862-2-2-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
24	107862-2-2-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。
25	107862-2-2-3	灰青褐色	粘土質シルト	しまり部、下部に礫状の炭化腐解付着、本層部の礫層多。

【参照】
 1-4: YGRSD1層上。
 5-18: 礫層部の入込層。礫層に自然産入土層なし。礫層部はほとんど連続して認められたが、作業単位の見解 (礫部) に礫物質の炭化腐解層を認める。工法に伴うか。
 19-21: 礫層部の自然産入土。
 20-21: 礫層部の自然産入土。

◎78T4 (断面D2-D3・図9)

75-100グリッド北半部に集中していた攪乱群(近世以降の改葬済み墓坑群とみられる)の壁面を利用して、外岸側壁付近の構造を観察・記録したトレンチである。図右方が外岸側(西方)、図左方が内岸側(東方)で、トレンチ南壁面を記録した。また、断面の東側延長上(内岸側への横断方向)の状況を併せて図示している(D1-D2間)。

2ISD1の外岸側壁面は8層下面で、その外側の9～13層が壁面上部を構成している。13層は地山黄褐色土層であるが、その上面は人為的な切土による平坦面となっている。この上位に改めて地山土ブロック主体の9～12層が積み上げられた様子が観察される。8層下面すなわち本遺構壁面が、これらの人為積土層を切っているのか、あるいは壁面構築のために積土を行ったのかについては判断の根拠を見出せなかった。

壁面を最初に覆う8層はやや明るい粘質土で、構築後一定期間は流入土による自然堆積が進んだものとみられる。今次調査区内においては、本層が外岸側プランに接して連続して分布することを確認している。この上位に堆積する7層には、角張った木炭片とかわらけ片が目立った集中が認められる。ごく薄い堆積ではあるが、下位と上位を隔する何らかのイベントを示す可能性に注意しておきたい。

この上位は再び厚い人為層に覆われている(1～6層)。先掲の他トレンチでも確認されている外岸側壁に連続する土層である。地山土ブロックの粗密等で細分したが、短期間に一連の作業によって形成されたものと考えられる。

セクションポイントD1-D2間は、確認面における土層の平面分布と、78T2の土層断面をもとに作図したものである。各破線は推定を示すが、線端が実線と接する点は上記観察に基づくものである。本トレンチ1～6層に相当する人為土層群の分布については、平面観察から少なくとも壁上端の内側3.8m付近までの広がりを確認した。下部はさらに対岸側に向かって潜り込んでいると推測される。また、図中「黄色土層」と示しているのは、78T2トレンチで確認した「新期人為層」(78T2:9a・9b層)である。先行の人為層群とその後の流入土層の上位に、入れ子状に堆積している。当該土層の平面分布範囲は、先掲78T2の土留め様の丸太材を「弦」とした半円形を呈するものとなっている。

【重複・先後関係】 既往調査の成果から、当初構築時期は後掲2ISD2堀跡のそれよりも新しいと考えられる。構築後、遺構内への土壌充填は二段階認められるが、両者の時間差の程度は根拠がなく不明である。これらの人為土充填により今次調査区北半部付近に閉塞部が形成される段階がある。この閉塞部の人為土層は、78SD1溝跡に切られている。

【放射性炭素年代測定試料】 78T1から6点(図5:C1～C6)、78T2から4点(図6:C1～C4)、78T3から4点(図8:C1～C4)、78T4から2点(図9:C1・2)の木炭細片を採取している。

このうち、78T2採取の2点につき測定を実施した。新期人為層9b層下面で採取したT2-C3は910±20yrBP(測定番号IAAA-161494)、その下位の11層中から採取したT2-C4は960±20yrBP(測定番号IAAA-161495)との結果を得ている。

【出土遺物】 図13～22

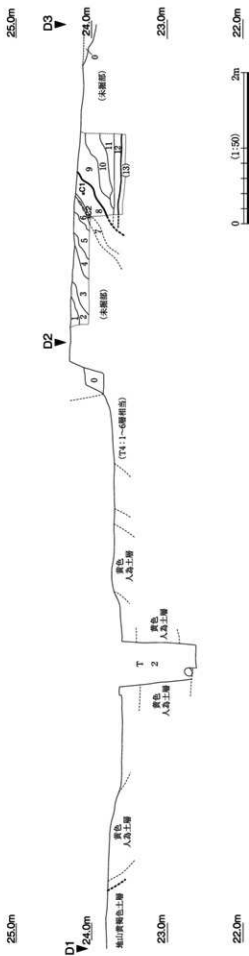


図 9 21SD1 断面図 4 (78T4)

- 【G78-T4 断面 (SPD2-D3)-21SD1-
- 1 107R4.3-3.4 25.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R6.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-20mm) 少量、しまり層、107R5.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルトのフロック (厚10-20mm) 少量、しまり層。
 2 107E2.2-3.3 24.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R5.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚20-100mm) や中質量、大きなフロック目立つ、しまり層。107R6.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-30mm) 少量、(層より多く6層より少ない)。
 3 107R4.3-3.4 24.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R5.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-30mm) 少量、(層より多く6層より少ない)。
 4 107R4.3-3.4 24.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R5.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-30mm) 少量、(層より多く6層より少ない)。
 5 107R4.3-3.4 24.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R5.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-30mm) 少量、(層より多く6層より少ない)。
 6 107R4.3-3.4 24.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R5.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-30mm) 少量、(層より多く6層より少ない)。
 7 107R5.3 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R6.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-20mm) 少量、10層よりやや中質(砂質シルトの混入多い)。
 8 107R5.3 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R6.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-20mm) 少量、10層よりやや中質(砂質シルトの混入多い)。
 9 107R5.4-5.6 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R6.3-6.4に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-20mm) や中質量、107R7.4-8.6に多い黄褐色粘土質シルトのフロック (厚10-50mm) や中質量、9層より黄褐色(層深い)。
 10 107R5.4-5.6 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R7.4-8.6に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-20mm) や中質量、107R7.4-8.6に多い黄褐色粘土質シルトのフロック (厚10-50mm) や中質量、9層より黄褐色(層深い)。
 11 107R5.4-5.6 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R7.4-8.6に多い黄褐色粘土質シルト (厚10-20mm) や中質量、107R7.4-8.6に多い黄褐色粘土質シルトのフロック (厚10-50mm) や中質量、9層より黄褐色(層深い)。
 12 107R7.6-8.6 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質 107R7.6-8.6 粘粒や中質、10層より黄褐色(層深い)。
 13 107R7.6-8.6 23.0m 黄色人工土層 粘粒や中質、10層より黄褐色(層深い)。

【参考写真】

- 1-6: 内層内に水害の人工物。
 7: 木炭片 - 中から中質量層。
 8: 土炭片層 - 内層上部を特徴する自然層 (層上の流出伴混雑層)。
 9: 10層より黄褐色(層深い)を特徴する黄褐色粘土質シルトのフロック (7層内層上)。
 12: 粘土質人工土層に黄褐色粘土質シルトの混入層。
 13: 上部を削り取された黄土土層。

表4 21SD1堀跡 78T1～78T4トレンチ 土層対応表

トレンチ	78T1 (sp.A2-A3)	78T2 (sp.B1-B2)	78T3 (sp.C1-C2)	78T4 (sp.D2-D3)	性格・所見等	
層 名	1-5	1			攪乱層(近世一)	
	6-15	2-3	1-4		溝跡78SD1	
	16a	4			21SD1 遺物包含(小細片主体)	
	17a-17b	5-6				
	18(~20?)	7			21SD1 遺物集中面(器形遺存度高)	
		8				
		9a-9b			21SD1 閉塞部充填土層(新)	
	21	10上部				
	22-24		18-27	5-10	1-6	21SD1 閉塞部充填土層(古)
			28	11-12		
				13-18		
		(~20?)		19		
		28		21		
			7	21SD1 遺物集中(器形遺存度やや高)		
			8			
			9-12	21SD1 外岸側壁面構成人為土層		
		22-24		旧表土~漸移層		
29-30		25	13	地山上層		

21SD2 (図10)

【位置・検出状況・精査方法】 先掲21SD1堀跡の構築面である微高地と猫間ヶ淵低位面の境界、段丘崖状の傾斜変換点に位置する。74-102グリッド付近を北北西-西南東方向に走行する帯状範囲として検出した。内岸側プランは地山黄褐色土層上位の自然堆積層である黒褐色土面で確認できたが、外岸側では、内岸側プランに平行して帯状に展開する地山土主体のブロック層範囲が観察されたものの、壁上端の位置が不明瞭であった。このため、走行方向に対して直交するトレンチ78T5を設定し、遺構内の堆積状況と併せて外岸側壁面の構造について確認を行うこととした。

なお、このトレンチは先掲21SD1-78T1断面(図5)に連続する位置に設定している。セクションポイントE2は78T1のA4と同地点を共有している。図11上半には78T1断面と本トレンチ断面を合成して示した。

【形状・規模】 断面に観察される上端幅は5.5m前後、底面幅は3.3~2.7m程である。本遺構は構築から廃絶に至る過程において数次の再掘削を受けており、上記は残存形態の数値、すなわち最大値を示している。内岸側壁面上端から底面までの残存深度は210cm(底面標高約20.8m)、壁面勾配は内岸側で56°前後、外岸側では40°前後である。

【埋土・堆積状況】<78T5>(断面E1-E2・図11)

78T5トレンチでは、まず堀跡本体部分に対し約2.0mの幅で遺構底面まで掘削をすすめた。これにより内岸側壁面と底面を確認したが、検出面でも判然としなかった外岸側については、明瞭な立ち上がりを見出すことができなかった。そこで外岸側壁面の構造を明らかにするためトレンチを延長し、堀本体埋土~低位面堆積層の連続断面を観察・記録した。以下、本遺構の構築から埋没に至る過程について、断面から読み取れる情報をもとに復元を試みたい。

まず、当該地点の本来の自然地形と土層に着目すると、地山構成上62層とその上位の黒褐色土61層が本遺構を境に急激に落ち込んでいるのがわかる。先述の通り、本遺構は右側の微高地面と左側の猫間ヶ淵低位面との境界部を選んで構築されている。

断面に観察される最も古い掘削面は60層下面である。この際に排出された旧表土(61層)と地山土(62層)は、低位面(図左半の61層上面)に土堤状に積み上げられている。この積土は、下部：暗色

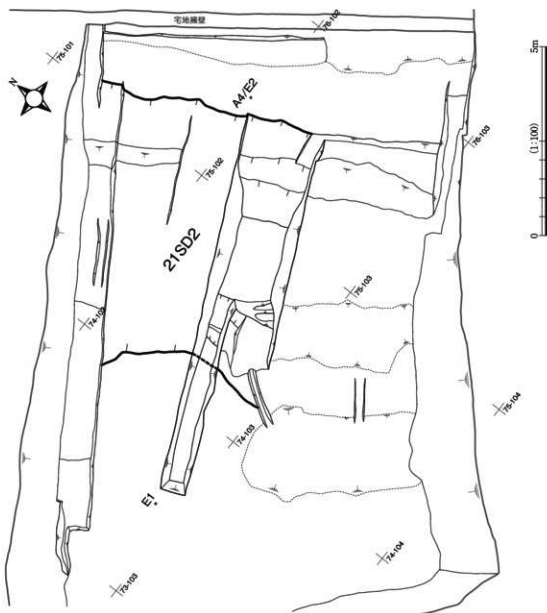


図10 21SD2周辺平面図

土ブロック主体の層群（53～58層）、中部：明色粘土ブロック主体（46～52層）、上部：両者の混合層（40～45層）の、3つの層群に大別できる。表土→地山土の順に掘削をすすめ、その排土を下位から順に積み上げた過程を反映していると考えられる。

この土塊状積土層に関連して注目されるのは、当該層群の右端から垂直に立ち上がる筋の薄層（37層）である。腐食した木質の痕跡とみられ、幅70cmのトレンチを横断し対向断面まで連続する状況が確認されている。外岸側の壁面となる土堤の構築に際し、板状材等を用いた補強や土留めを行った痕跡と推測される。土留め材の背後には34・35a・35b層等が充填され、さらに、当初掘削で低くなりすぎた壁面下端部にも土を補っている（36・60層）。これをもって外岸側壁面と底面の整形が完了し、25層下面を底面とする堰が機能を開始したものと考えられる。

はじめに底面を覆うのは水成の粘土層25層だが、その堆積はごく薄く、上位はすぐに崩落土層（24層）に覆われている。よって本段階の安定期間はごく短いものであったろう。外岸側ではこれに続く

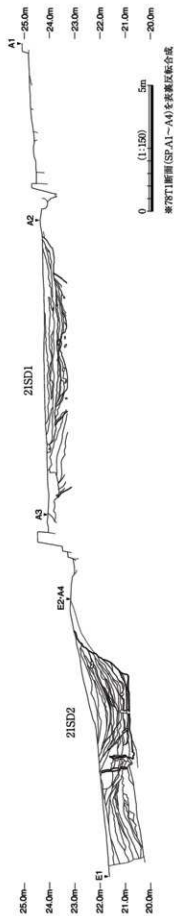
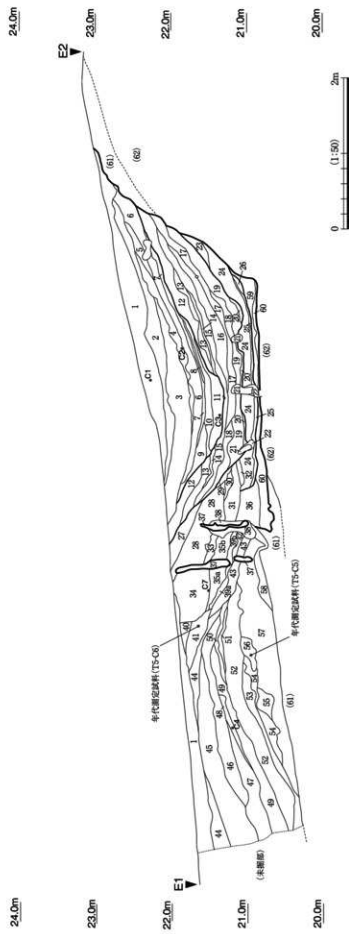


图10 21SD2断面图 (78T5)



[YGR-T5 北面 (SP-E1 - E2)] - 21SD2 -

① 雑草層

1	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。小礫 (径10mm) - 炭灰 (径5mm) - かわかけ細片それぞれ無微量。
2	10YR5/3-4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。小礫 (径10mm) - 炭灰 (径5mm) - かわかけ細片それぞれ無微量。1層に比しやや明るい。
3	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭灰 (径5-10mm) 無微量。下部は粘土質強い。
4	10YR7/4/1-にぶい黄褐色粘土 - 10YR6/6明黄褐色シルトのブロック層	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。内層部からの崩落または人為的。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。炭灰 (径5-10mm) 微量。
6	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭灰 (径2-10mm) 無微量。下部は粘土質。
7	6層に似る。6層との境界に灰白火山灰の薄層状。				
8	10YR6/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性弱	しまり中。火山灰の再堆積層。
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり中。灰白火山灰多量。
10	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。6-7層に似る。
11	10YR5/3-5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。炭灰 (径2-10mm) 微量 (下部に集中)。全体に火山灰含む。
12	10YR5/3-5/4	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。
13	10YR6/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。全体に火山灰多量。14層より黄味。
14	10YR7/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。ほぼ灰白火山灰。
15	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。層中に火山灰薄層が互層成す。
16	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。小礫 (径5-10mm) 無微量。下面に沿って10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
17	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。
18	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。下部に10YR5/3/1にぶい黄褐色砂・10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック多量。
19	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルトブロック - 10YR3/2黒褐色シルトブロック - 10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロックの混土層	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロックの混土層。粘性中 しまり密。
20	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
21	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。材質疎か。
22	21層 (材?) によって下方に押し下げられた24層土。				
23	10YR4/2-3/2	灰黄褐色-黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径5-10mm) やや多量。上下層間に比し黒味強い。
24	10YR4/1-3/2黒褐色-黒褐色粘土質シルトブロック - 10YR6/3-6/4/1にぶい黄褐色シルトブロック - 10YR4/2-3/2灰黄褐色-黒褐色粘土質シルトブロックの混土層	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。10YR6/3-6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロックの混土層。粘性中 しまりやや密。
25	10YR5/2-4/1	灰黄褐色-黒褐色	粘土	粘性強	しまり中。
26	10YR7/4-6/4	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR7/4-7/6/1にぶい黄褐色明黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
27	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径5-20mm) 少量。
28	10YR6/4-6/6	にぶい黄褐色-明黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR7/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
29	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4/1にぶい黄褐色シルトブロック (径5-10mm) 少量。
30	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR6/3-5/4/1にぶい黄褐色-にぶい黄褐色砂質シルトブロック (径10mm) 少量。
31	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR7/4-6/4/1にぶい黄褐色砂質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
32	10YR4/2-3/2灰黄褐色-黒褐色粘土質シルトブロック - 10YR5/3-5/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック - 10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロックの混土層 (各ブロックの径5-10mm)。粘性やや強 しまり密。	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR7/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) 下部に多量。しまり密。10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径5-15mm) 少量。10YR7/3/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径5-15mm) 微量。小礫 (径5-20mm) 無微量。
33	10YR4/2-3/3	灰黄褐色-暗褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。
34	10YR5/3-5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。
35a	34層によく似るが小礫含まず粘土質シルトブロック主体。				
35b	35aによく似るが山シロブロックの層状のみ。				
36	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトブロック - 10YR6/4/1にぶい黄褐色砂質シルトブロック - 10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロックの混土層 (各ブロック径5-20mm)。粘性中 しまりやや密。	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。
37	10YR5/2-5/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり中。材質疎か。トレンチ反対面に6ヶ位置に置かれる。
38	10YR6/2-6/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。37層 (材質疎?) の影響で黒味層が厚くなった部分。
39a	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) やや多量。全体に黒味強い。
39b	39a層に比して黒味が弱く全体に灰色戻す。				
40	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10mm) 少量。
41	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトブロック (径5-10mm) 微量。10YR5/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) やや多量。
42	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。
43	10YR6/3-5/3	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性中	10YR6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) やや多量。粘性やや強 しまり密。
44	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR7/4-6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-15mm) 少量。
45	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3/1にぶい黄褐色砂質シルトブロック - 10YR7/3/1にぶい黄褐色シルトブロック - 小礫 (径5-15mm) 各微量。
46	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロック (径5-30mm) やや多量。
47	10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック - 10YR4/2-4/2灰黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック - 10YR5/6黄褐色粘土質シルトブロックからなる混土層 (各径5-20mm)。淡黄色ブロック目立つ。	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR6/6明黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
48	10YR6/3-5/3	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。10YR6/3-6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) 少量。
49	10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック - 10YR5/3/1にぶい黄褐色砂質シルトブロック - 10YR5/6黄褐色粘土質シルトブロックの混土層 (各径5-10mm)。粘性やや強 しまりやや密。	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。62層 (地山構成層) からの混入土。
50	10YR6/4-5/4	にぶい黄褐色-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。
51	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR6/4/1にぶい黄褐色シルトブロック (径10-30mm) やや多量。
52	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) - 10YR7/6-6/6明黄褐色粘土質シルトブロック (径10-50mm) 下部に大形ブロック多い。
53	10YR5/2-5/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR4/2灰黄褐色粘土質シルトブロック (径5-15mm) 上部に多く含む。
54	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR7/3-6/3/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-40mm) 低位部に偏在。
55	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。10YR6/2-6/3灰黄褐色-にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径10-20mm) - 10YR6/6明黄褐色砂質シルトブロック (径10-30mm) 大量。
56	10YR6/6明黄褐色シルトブロック層。粘性中				しまりやや密。
57	10YR4/2-4/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。10YR6/3-6/4/1にぶい黄褐色粘土質シルトブロック (径20-40mm) やや多量。60層によく似る黒色ブロック主体の土層。
58	10YR6/2-6/3	灰黄褐色-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性強	しまりやや密。10YR3/2黒褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) 無微量。
59	10YR7/4-7/6	にぶい黄褐色-明黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。62層 (地山構成層) からの混入土。
60	10YR4/1-2/2黒褐色粘土質シルトブロック (径10-40mm) - 10YR4/1-4/2暗褐色灰黄褐色粘土質シルトブロック (径10-30mm) - 10YR6/4/1にぶい黄褐色シルトブロック (径10-30mm) の混土層。粘性中 しまりやや密。57層によく似る黒色ブロック主体の土層。全体に黒味強い。				
(61)	10YR7/1-2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭灰 (径2-5mm) 無微量。旧表土の自然堆積層。
(62)	10YR7/3-7/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。地山構成層。

大きな壁面崩壊が起こっている。内側の土留め材付近（38層周辺）では壁面が遺構内部に向かってやや大きく孕み、また、押し出された材の下端に引きずられて生じた土層の歪みが58層右半に観察される。この崩壊により、25層下面期の外岸側壁面は下端部付近（31・32層下面）まで壊されている。

崩壊部では土留め材の上部が露出した状態になったとみられ、ここに地山土（28層）等を充填し壁面の再構築が為されている。この新期の積土層群を壁面とした新たな遺台形築は、20層下面を底面として再度機能を開始している。20層下面段階の特徴の一つに、乱杭痕跡のような小規模凹凸（21・22層）を底面に持つ点が挙げられる。同様の事象は77次調査21SD2-77T1・同77T2トレンチの「層群④」下面でも観察されており、20層下面は同段階に対比されるであろう。

20層下面段階の掘を埋めるのは、周囲からの流入土及び遺構内部の流水に伴う堆積土からなる層群である（12～20層）。17層下面・15層下面等がそれぞれ先行土層を切りながら徐々に堆積が進み形成されている。このうち13～15層には灰白色火山灰の混入が特に顕著に見られた。本トレンチ周辺に良好に残存する古代の自然堆積層に火山灰層は認められないが、既往調査では築間ヶ淵上流部にその存在が確認されており、当該層群に含まれる火山灰は上流側から流下したものと考えられる。本層群はこのように断続的な複数の流水期を経て形成されていることが理解され、同様の特徴をもつ77次調査21SD2-77T1・同77T2トレンチの「層群⑤」に相当すると考えられる。

これらをさらに深く切っているのが後続の11層下面である。11層の下部には木炭小片の集中が観察された。量は多くないが、木炭粒の混入が目立つようになる本層以上の堆積層のそれに比較して、径が大きく角張っている点に注意したい。11層の上位は再び火山灰を含む砂質土層と粘土層が互層を成して埋積が進んでいる（5～10層）。ここに含まれる火山灰は先行土層の侵食に伴い壁面から流入した「再々」堆積のものであろう。本層群は主に11層の性状及び同層下面の標高から77次調査における「層群⑥」に対比されるものと考えられる。なお、今次調査における同層群の様相を勘案して、77次調査「層群⑥」の下限については、既報でその可能性を示唆したとおり、「21SD2-77T1：8層」または「12層」の下面が相当するものと解釈したい。

その後、6層上面の段階に至り、内岸側から地山黄褐色土ブロック層（4層）の流入が起こっている。図から読み取れるとおり、堆積面の標高は自然の地山土層62層よりも高く、遺構本体の壁面崩落によるものではない。内岸側から直接投入されたか、あるいはより高位に構築された内岸側壁上方の人為土層からの崩落か、いずれかの可能性が考えられる。先掲21SD1の外岸側、すなわち本遺構と21SD1との間には、切土・盛土・充填等、積極的な土地改変が確認されており、これらに併行または後続する時期に位置づけられるだろう。本層の上位は再び自然流入土（3層）に覆われるが、12世紀乃至その直後の可能性をもつのは本層までであり、さらに上位はかわかけの板細片や小礫等を含む新しい堆積層（中世後期以降）となっている。

【重複・先後関係】 既往調査の成果から、当初構築時期は21SD1より古い。外岸側壁面を構成する土堤状積土は25層下面段階に構築され、その後20層下面段階を経て順本体の埋没が進んでいる。土層性状等の対比から11層下面段階以降は21SD1に併行すると推測される。

【放射性炭素年代測定試料】 78T5の土層断面から7点（図11：C1～C7）の木炭細片を採取し、うち2点の測定を実施した。土堤状積土層の下部を構成する56層から採取したT5-C5は1230±20yrBP（測定番号1AAA-161493）、土堤状積土層上部41層のT5-C6は950±20yrBP（測定番号1AAA-161492）との結果を得ている。T5-C5の測定値が古いのは、縄文時代～平安時代前期に対比される自然堆積層61層に含まれていたものが掘削を受け、積土構築の初段階に積み上げられた結果として首肯できる。

【出土遺物】 図23

表5 21SD2堀跡 78T5トレンチ 土層対応表

層名	所見・性格等	77次トレンチ(21SD2-77T1-77T2)の層群との対比
1-2	自然堆積(近世～)	—
3	自然堆積	層群③上部
4	人為層またはその崩落層	層群②掘進人為層の崩落等か
5-10	水成堆積主体(火山灰含む)	層群③
11	角張った木炭小片目立つ	(既報で「砂質」としたのは火山灰の混入による)
11下面	先行堆積層をU字に切る面。人為も加わる	層群③下面※
12-20	自然堆積層(水成層挟む)。14-15は再堆積の火山灰層	層群①～⑤
20下面	逆台形堀(新)構築。下面に杭状凹凸	層群④下面
27-32	外岸側壁面(土境)再構築	—
31・32下面	外岸側壁面の崩壊。38のすみ・58のすみ	—
24-25	自然堆積(流入・崩落土)	層群①
25下面	逆台形堀(古)機能面	層群①下面
36・59・60	底面整形	
34・35a・35b	土留め材込込め土か	
40-45	外岸側壁面(土境)構築(上部)	
46-52	外岸側壁面(土境)構築(上部)	
53-58	外岸側壁面(土境)構築(上部)	
60下面	逆台形堀(古)構築面	

※ 今次成果を勘案し、77次層群③下面は77T1の8層下面または12層下面と改めたい。

※※層群②・③相当は、流失または掘削の影響が確認できていない。

② 土 坑

78SK1 (図12)

〔位置・検出状況・精査方法〕 78-99グリッドに位置する。削平面である地山黄褐色土層上面において、地山土ブロック主体の円形範囲として検出した。プラン中央にはかわかけ細片と炭化物を含む柱状の黒褐色土範囲が認められた。このことから、人形柱穴、特に既往調査で確認されている張出しを持つ柱穴に類する可能性を考慮して、まず南西部4分の1を精査し内部構造の確認を行った。結果、同種遺構にみられる特徴は見出されず、未掘部分については保存することとした。

〔規模・形状〕 一部の精査に止めたため全体形状は不明であるが、検出面における開口部径は140cm前後、底面径は100cm前後と推測される。底面までの残存深度は36cmである。壁は開口部付近までは直立して立ち上がり、底面は概ね平坦に整っている。

〔埋土・堆積状況〕 底面から検出面に至るまで、地山黄褐色土主体のブロック層が堆積している(2～6層)。本層群からは少量のかわかけ片が出土した。内部に自然流入層が認められないことや、本来の地山黄褐色土層上面よりもさらに上方から地山土ブロックが流し入れられていることから、掘削後削を置かずに入為的に埋め戻された可能性が高いと考えられる。なお検出面において柱状を呈していた1層は、精査の結果、2層以下を切る小ビットであることが確認された。本層は多量の木炭細片とかわかけ小片を含む黒褐色土である。多量の木炭が生成する事象に起因する堆積層と考えられ、類似土層は付近に広く点在することから、他遺構との対比に有用な土層と思われる。

〔重複・先後関係〕 南西部上端がより古期の溝状遺構(未精査)を切っている。また、中央上部を新期ビット(1層)に、西端部を新期ビット(時期不明)に切られている。

③ 溝 跡

78 SD1 (図12)

〔位置・検出状況・精査方法〕 調査区北端部、75-97グリッド付近において、21SD1埋土を横断し概ね東-西方向に走行する帯状の暗褐色土範囲として検出した。検出面は後世の開田または宅地化に伴う削平面である。75-97グリッド南西部で21SD1外岸側からその内部へ向かって交差し、弧状に湾曲して北西-南東方向に向きを変えつつ21SD1閉塞部の上部を走行する。さらに77-99グリッドで21SD1内岸の外側に並走するように延伸し、同グリッド南東部で21SD1上部に重複する新期掘り込みに切れ途絶している。また、同グリッド北西部では水口状の開田部から21SD1閉塞部南側の凹地内に分岐・連続する状況が観察される。精査は調査区北端部75-97グリッドのみを完掘し、他は部分的な小トレンチによる確認にとどめた。

〔規模・形状〕 調査区北端部から21SD1内岸沿いに並走して溝状を呈する部分の全長は19m強で、最も良好に残存する21SD1-78T3断面付近では、上端幅175cm前後、残存深度85cmを測る。完掘した75-97グリッド付近では、下部は幅30cmほどの平坦な底面から両壁が短く直立して箱形を呈し、壁面中部から上部にかけてはやや大きく外傾して立ち上がり、全体が壘研状の形態を成している。分岐先の凹地内(21SD1-78T1と21SD1閉塞部との間)では明瞭な掘り込みは認められず、低位部に流入・堆積した状況を示している。

底面標高に着目すると、調査区北部西端で23.2m、同東端・断面a-a'付近で23.3m、21SD1-78T3との交点で23.5mと、北西側に向かって低くなっている。また凹地内では、分岐点からごく緩い傾斜で下り、21SD1-78T1付近で23.3mとなっている。このことから、21SD1内岸側の高位面から、調査区北西側の窪間が低位面方向、及び21SD1閉塞部南側の凹地へ向けた導水(排水)が意図された可能性がある。

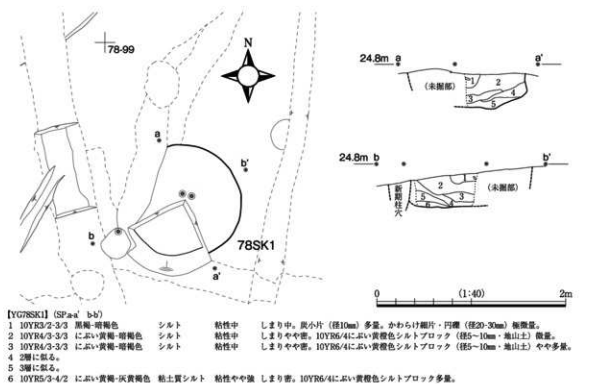
〔埋土・堆積状況〕 埋土の主体はふい黄褐色土～暗褐色土である。地山土ブロックで構成される21SD1閉塞部と重複する範囲ではやや明るい土色を呈し、一方、分岐して同閉塞部南側の凹地と重複する部分では黒味を強めている。各地点における壁面構成層からの流入土が埋土の主体を成すためであろう。

埋土中部には径5～20cmの礫の集中が認められた。この礫の分布は分岐先の凹地内においても21SD1埋土上部攪乱層(21SD1-78T1:3層)の下位に連続している。21SD1-78T1:6～15層(図5)が本遺構の埋土に相当する。これらの礫群は、いわゆる「暗渠」に伴うものに類似するが、礫間に空隙や酸化鉄の集積等は認められず、礫群上位の埋没後にその機能を果たし得たかは疑わしい。下部の堆積が一定程度進んだ段階に遺構内に入り、その後再び上位を自然流入層に覆われていることから、むしろ道路等、周辺構造物からの二次的な転落による可能性が高いと思われるが、本来の構築面は後世の削平で失われており、礫群の由来については不明とせざるを得ない。

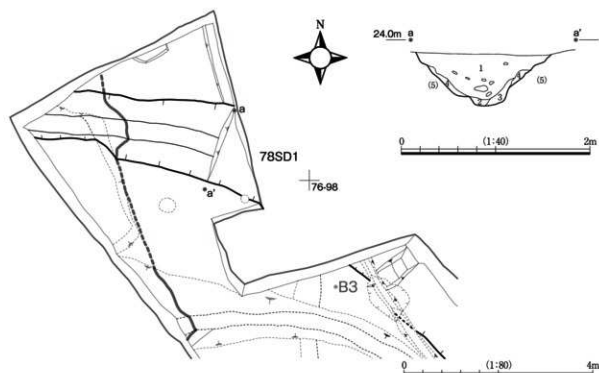
なお、埋土にはかわかけ片を主体とする比較的多量の12世紀遺物が含まれていたが、これらは他の扶雑物と共に土層中に混在するものであり層界への集中は見られなかった。よって周辺の地表や準積層に含まれる遺物が、二次的に遺構内部に堆積したものと考えられる。

〔重複・先後関係〕 21SD1閉塞部の構成土層を切り、上部を後世の攪乱層下面に切られている。

(村上)



78SK1



78SD1

図12 78SK1・78SD1平面・断面図

(3) 出土遺物

出土遺物は総重量のうち、かわらけが337,200.7gと最も多く、次いで陶磁器類が9,082.9gと多い。陶磁器類は国産陶器が8,960.2gで、輸入陶磁器は122.7g出土している。この他に瓦が1,696.8g、このほか、木製品や時期不明の金属品類などがある。

今回の調査区内では、近世以降の表土及び盛土層を除去した直下で遺構検出面にあたる土層が確認される範囲が多く、遺構検出面において出土した遺物も多くは遺構の平面プラン内からの出土である。これらも含めて、掘削の土層や12世紀以降の水田に由来する土層からの出土遺物が多い。21SD2が位置する南側の調査区では、表土を除去した直下に遺構検出面にあたる土層が確認された範囲が多いが、一部に12世紀以降の包含層等の出土資料もある。掲載した資料は図示可能なものだが、遺構精査時に設定したトレンチからの出土資料である。それ以外の多くは形状の復元できない資料で、細片も多く遠跡機能時以降に堆積した資料である。

なお、かわらけは概ね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（大宰府市教育委員会2000）を参考している。

表6 78次調査出土遺物数量表

		かわらけ	国産陶器	輸入陶磁器	瓦
21SD1	T1	173,161.6	4,250.6	46.8	872.2
	T2	85,399.4	1,921.3	30.1	486.0
	T3	4,609.0	130.7	17.1	27.6
	検出面等	2,371.6	227.1	14.3	207.5
21SD2	T5	401.0	0.0	0.2	
	検出面等	845.1	0.0		
78SD1		28,728.4	812.5	5.7	84.2
78SK1		71.0	0.0		
表土・カクラン	73-102	545.8			
	73-102・103	27.5			
	74-102		6.8		
	74-103	183.9	128.0	1.7	
	75-97	4,350.5			
	75-99	63.0			
	76-98	3,472.9	47.8		
	76-99	2,089.4	166.2		
	77-99	14,506.7	241.2	2.4	
	78-99	1,228.6			
	78-100	31.7	5.5		
	78-100・101	400.5			
	79-99	26.4	1.2		
	77・78-99	96.0			
	95-97		111.2		
その他	14,590.7	910.1	4.4	19.3	
合計		337,200.7	8,960.2	122.7	1,696.8

① 土器・陶磁器類

21SD1出土遺物（図13～22）

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが265,541.6g、国産陶器が6,529.7g、輸入陶磁器が108.3g出土しており、このうちかわらけ218点、国産陶器158点、輸入陶磁

器16点を図示した(1~392)。ただし、出土資料全体のうちの多くは検出面や上層の12世紀以降の堆積とみられる上層からの出土である。中層以上の資料は12世紀代の遺跡廃絶後の堆積とみられ、遺物の多くも遺跡が廃絶した前後からの自然の流入とみられる。以下では、トレンチごとに出土資料のうち図示したものの特徴を中心に基本的に下層から記述する。

78T1出土土器類 (図12~18)

1~5・130・230は25層からの出土遺物である。25層は厚い人為堆積土の下層にあたる自然堆積土層である。1・2はロクロかわらけの大皿、3は手づくねかわらけの小皿、4・5は手づくねかわらけの大皿である。2は打ち欠きの可能性がある。4は内面に漆が付着する。5は内面に墨書が確認できるが、線が1条のみで木米の墨書は不明である。130は常滑産の甕類体部である。230は25層出土の白磁甕類の体部片である。

6~12は20層からの出土遺物である。20層は自然堆積の土層で、遺物がまがもって出土している。6はロクロかわらけの小皿、7はロクロかわらけの大皿である。小皿はやや口径の大きい器形だが、7は器高の低い皿形に近い器形をとる。8は手づくねかわらけの小皿、9~12は手づくねかわらけの大皿である。11は比較的口径と器高の大きい大型の器形だが、それ以外は口径14cm以下の器形で口径が小さい特徴である。

13~24は18層からの出土遺物である。人為層の上層に堆積した自然堆積土層で、遺物が集中して出土している。13はロクロかわらけの大皿である。器高が4cmを超える比較的高い器形をとる。14~18は手づくねかわらけの小皿、19~24は手づくねかわらけの大皿である。小皿は口径が9cm前後にまとまる。大皿は19は口径が15.3cmと人型の器形で体部外面のナデ調整も2段に行われる。20~24は口径14cm以内の器形が多い。なお、ここまでの上層からはかわらけ類は一定量出土するものの陶器類はきわめて少ない。

25~45・131・132・231~234は17b層からの出土遺物である。17b層は自然堆積土で12世紀以降の流入と見られる。26・27はロクロかわらけの大皿である。25は端部が打ち欠きの可能性がある。28~32は手づくねかわらけの小皿、33~45は手づくねかわらけの大皿である。231は青磁甕類の頸部片、232は青磁碗類の口縁部片である。いずれも龍泉窯系青磁である。233は中国陶器の甕類の体部、234は白磁碗類の口縁部である。手づくねかわらけの大皿は口径が14cm以下と小さい器形が多くを占め、一部に口径14cmを超える器形の資料が少量含まれる。この特徴は12世紀代でも後半の傾向と捉えられる。131・132は渚美産陶器である。

46~126は16a層からの出土遺物である。16a層は21SD1の遺構埋土としては上位の堆積で、自然堆積土層である。46~52はロクロかわらけの小皿、53~57はロクロかわらけの大皿である。48は底部がやや高く高台状になる。大皿は器形の全体が把握できる資料は少なく、立ち上りの形状などからはいずれも器高が高い資料ではなく皿状の器形をとる資料とみられる。57~74は手づくねかわらけの小皿、75~116・119~121は手づくねかわらけの大皿である。小皿では外面のナデなどの調整が精緻なものも含まれるが、いずれも小形の器形をとる。大皿は多くは口径14cm以下の資料で、さらに口径13cm以下の小形の器形が多数を占める。口径が比較的大きい資料でも器高が低く、皿形の器形である。122・123は内面に墨書が確認できるが、いずれも文字などの判読できるものではない。124~126は内折れかわらけである。133~146は16a層出土の同産陶器類で、甕類の体部片が多い。格子文や縦長格子文の押印をもつ資料がある。129は柱状高台の高台部で、上層からの出土資料である。

147~154は6~15層出土の、155~229は5層以上出土の同産陶器類である。これらは21SD1の本来の埋土より上層にあたり、新期の遺構の堆積もしくはそれ以降に堆積した土層とみられる。多くは甕

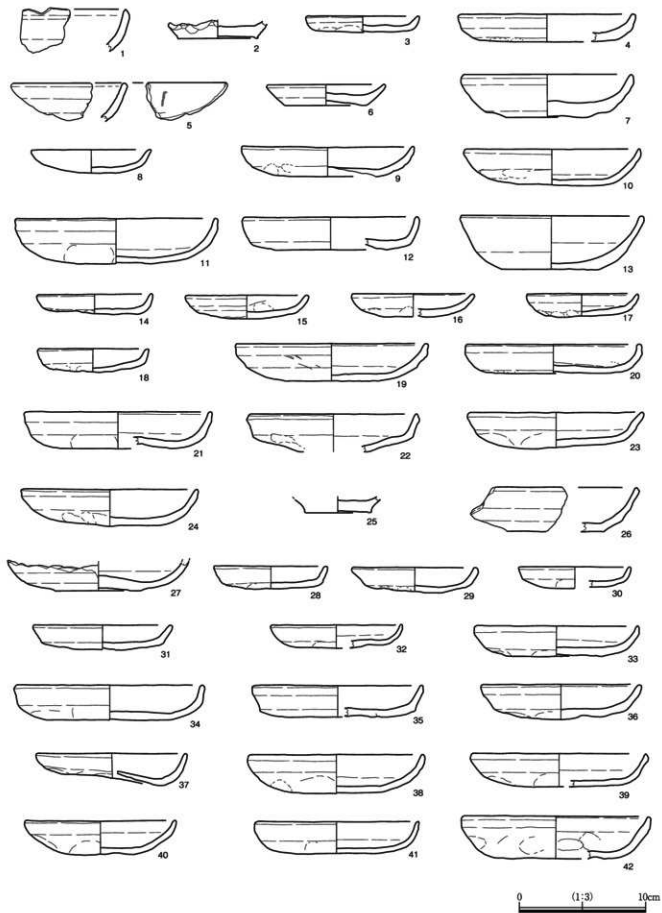


图13 21SD1 出土土器類実測图1

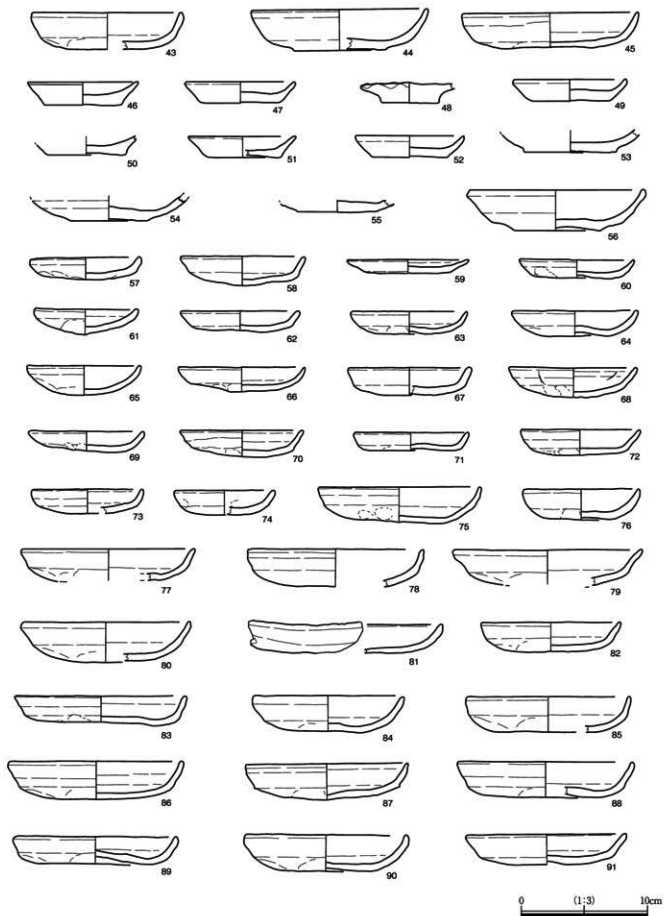


图14 21SD1 出土土器類実測図2

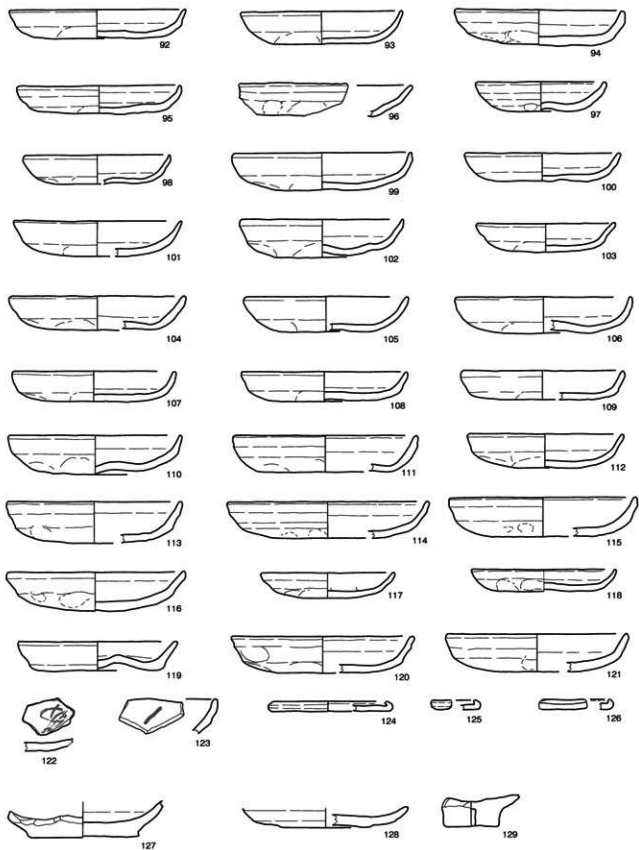
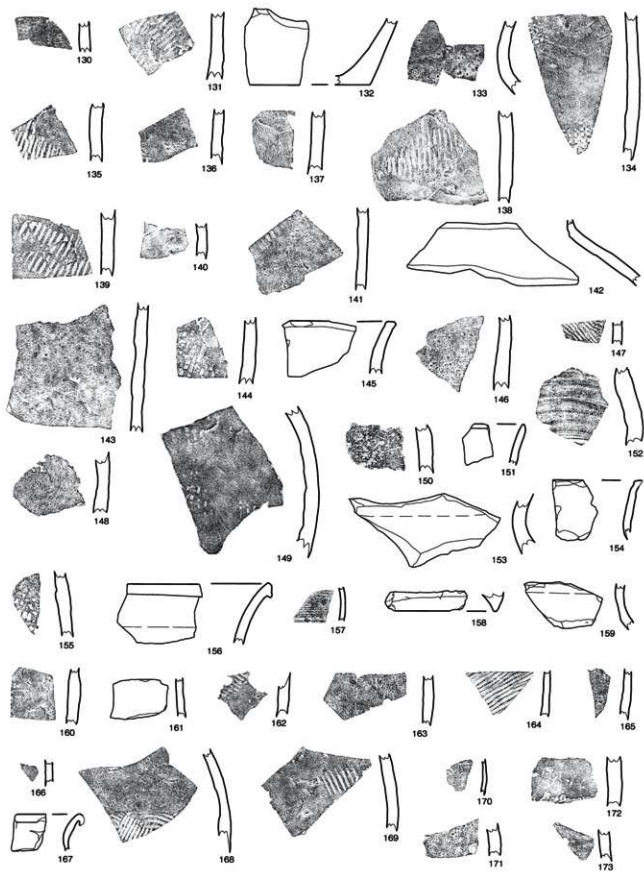


图15 21SD1 出土土器類実測图 3



0 (1:3) 10cm

图16 21SD1 出土土器類実測図4

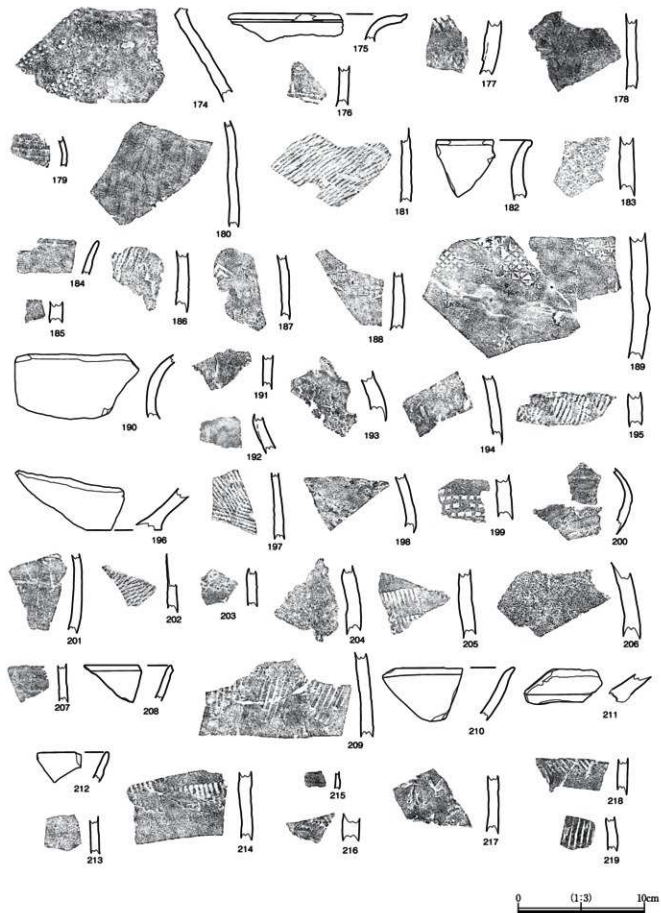


图17 21SD1 出土土器類実測图5

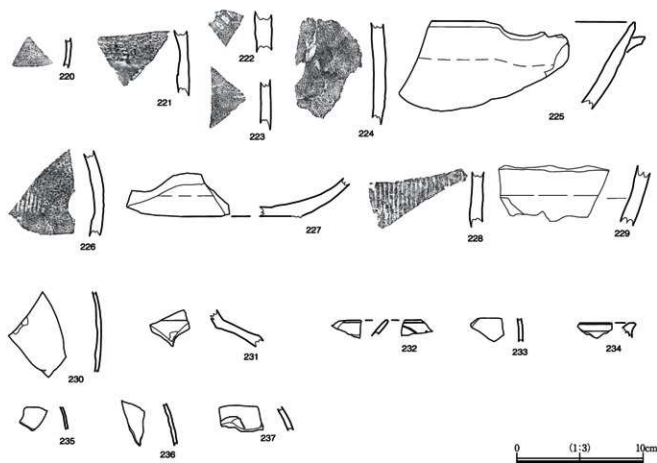


図18 21SD1 出土土器類実測図6

類の体部片で、片口鉢や碗類が少量含まれる。体部の文様は格子文や縦長格子文の押印が多い。187は菱形文、189は格子文を基本に、格子にXが挿かれた文様をもつ。225は下層の22~28層出土片を含む、片口鉢である。227は片口鉢の体部下半で、内面は摩耗が著しく黒色の付着物が確認できる。235は中国陶器類の体部片、236は白磁類の体部片、237は白磁四耳碗の体部片で耳部が一部残存する。

78T2出土土器類 (図19~21)

238~247・312・313は11・12層出土資料である。11・12層は新旧関係をもつ2つの人為堆積上の開層にあたる。これらの構築時期を示唆する資料であろう。238~240はロクロかわらけの小皿、241・242はロクロかわらけの大皿である。大皿はいずれも器高が低い、皿形の器形である。243・244は手づくねかわらけの小皿、245~247は手づくねかわらけの大皿である。大皿は247はやや大型の口径だが、いずれも14cm前後以下の小型の器形とみなせる資料である。312・313は国産陶器で甕類の体部片である。

248~292・359は7層出土資料である。7層は遺物がまとまって出土し、遺構廃絶に近い時期の堆積の可能性がある。248はロクロかわらけの小皿、249~252はロクロかわらけの大皿である。254~263は手づくねかわらけの小皿、264~291は手づくねかわらけの大皿である。小皿はいずれも口径、器高は一定のまとまりを示す。大皿は267・270・288のように口径が15cmを超える資料も含まれるものの、多くは口径14cm以下の小形の器形である。器高も低い資料が多く、全体に皿型の器形を基本とする。292は内折れかわらけである。359は青磁碗類の口縁部で、龍泉窯系青磁である。

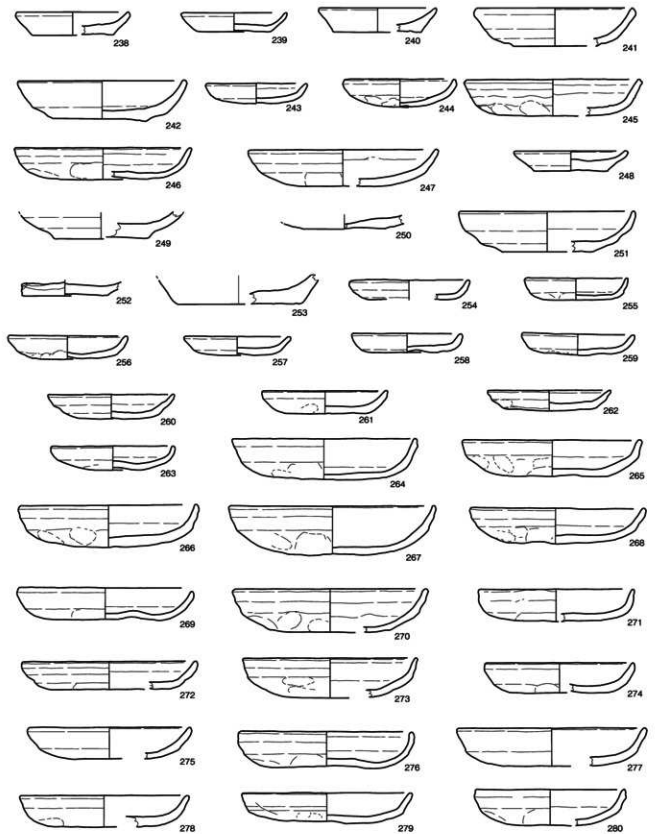


图19 21SD1 出土土器類実測图7

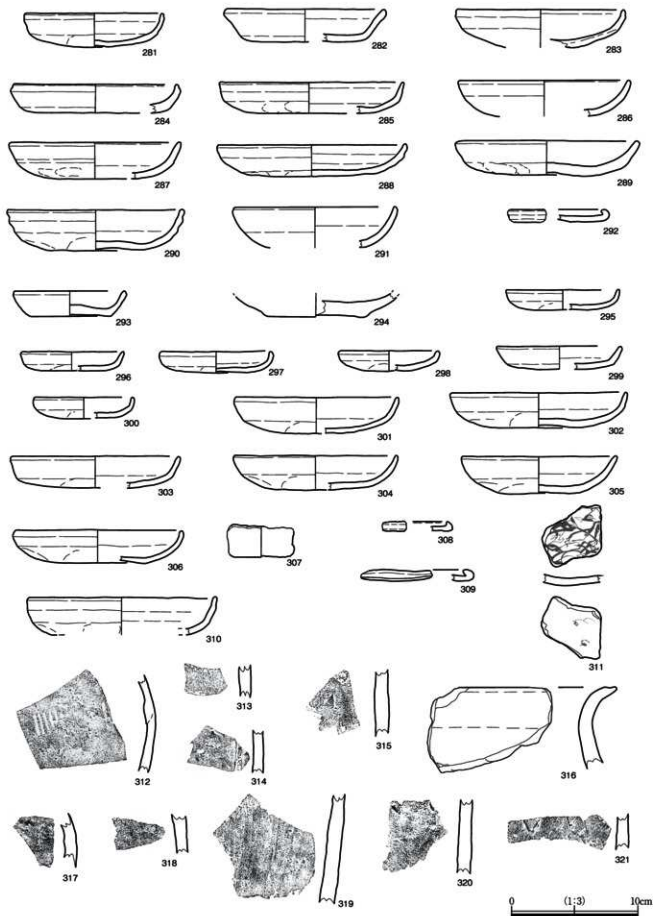


图20 21SD1 出土土器類実測図 8

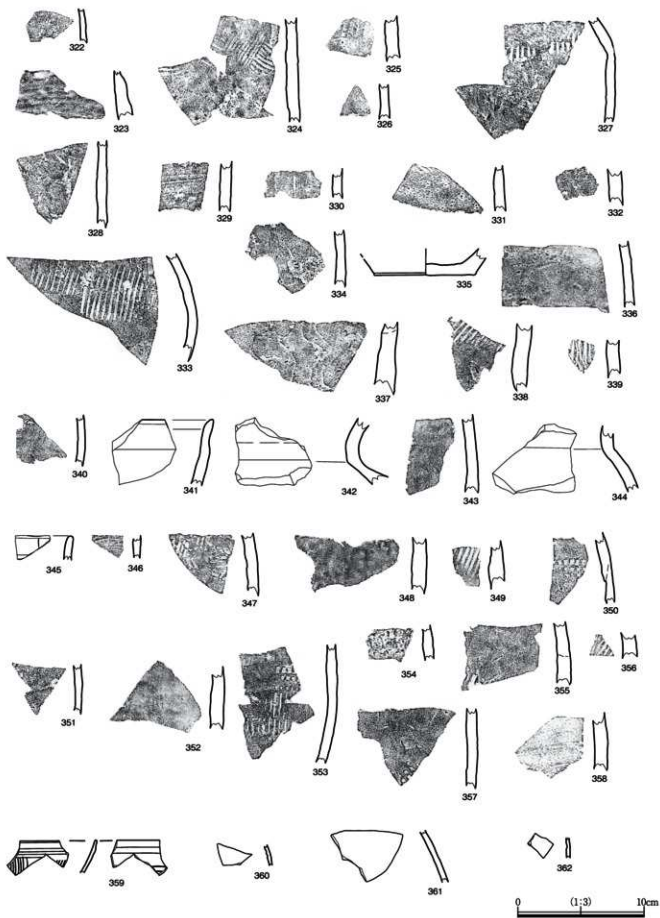
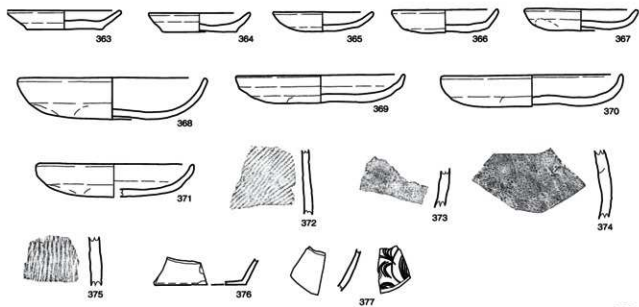


圖21 21SD1 出土土器類實測圖9



T3

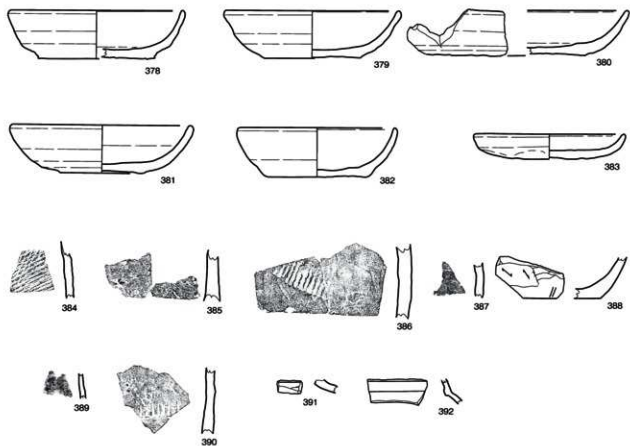


图22 21SD1 出土土器類実測図10

293～311・314～358・360～362は2～4層の上層出土の資料である。これらは21SD1堀跡より新期の遺構埋土等に当たる土層である。293はロクロかわらけの小皿、294はロクロかわらけの大皿である。295～300は手づくねかわらけの小皿、301～306は手づくねかわらけの大皿である。307は柱状高台の白部片、308・309は内折れかわらけである。311は内外面に細い筆跡の墨書がある。内面は乱雑に、外面は平仮名の「め」とみられる。314～358は国産陶器類である。多くは甕類の体部片だが、口縁部や頸部片も少量含まれるほか、片口鉢等もある。文様は格子文や縦長格子文が多いが、両者が組み合うものや(353)、縦長格子文が組み合うものもある(324)。360～362は白磁甕類の体部片である。

78T3出土土器類 (図22)

363・364はロクロかわらけの小皿、365～367は手づくねかわらけの小皿、368～371は手づくねかわらけの大皿である。363・367・371は19層下面からの出土である。これらは厚い人為堆積層の下層の自然堆積層で、21SD1堀跡の堀としての機能時の資料とみられる。372～375は国産陶器で、甕類の体部片である。376は中国陶器甕類の底部片、377は龍泉窯系の青磁碗である。内面には襷摺きの文様が描かれる。

378～392は21SD1の周辺からの出土である。384～390は国産陶器類、391・392は白磁の水注類の頸部片とみられる。

最後に21SD1の出土資料の様相をまとめると、出土資料の多くは上層からの資料だが、図示した資料は遺構の機能時に関連するとみられる土層からの出土遺物を抽出した。21SD1の遺構埋土にあたる土層からの出土資料も土器類の特徴からは12世紀後半代にあたる。出土資料全体の傾向からは、ロクロかわらけと手づくねかわらけのうち、いずれの上層からの資料も手づくねかわらけの資料が多く、ロクロかわらけが少ない。また、ロクロかわらけと手づくねかわらけのいずれの種別も、器形の特徴は12世紀後半代と考えられる資料が多く、それ以前の特徴をもつ資料は散見されるものの極めて少ない。資料全体の特徴からは遺構の年代を大きくは12世紀後半にみることができる。

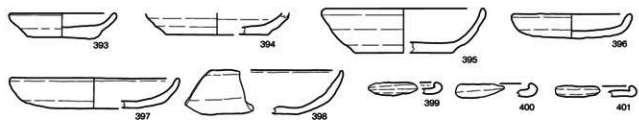
21SD2出土遺物 (図23)

21SD2は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみで、かわらけが1,246.1g出土しており、このうちかわらけ6点を図示した(393～398)。図示した資料はいずれも上層部分からの出土で、21SD2の出土資料は構築時や掘り直し時点までの遺物は少なく、かわらけでも器形が復元できる資料は少ない。特に機能時に関わるとみられる上層からの出土遺物は手づくね、ロクロのいずれとも小皿のため、時期の特定は難しい。また、これらも構築時に近い資料ではない。393はロクロかわらけの小皿、394・395はロクロかわらけの大皿である。396は手づくねかわらけの小皿、397・398は手づくねかわらけの大皿である。

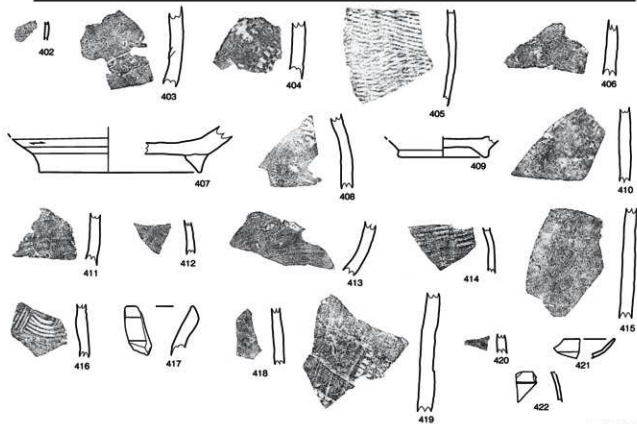
いずれの資料も上層からの出土資料で、21SD2の掘削や機能時に直接関連する資料とはみなしえない。時期を明確にする資料は得られていないが、21SD2の堆積土層からの出土資料の寡少さは、遺跡の他の地点とも同様の傾向である。

78SD1及びその他遺構外出土遺物 (図23・24)

78SD1はかわらけ3点、国産陶器19点、輸入陶磁器類2点を図示した(399～422)。399～401は内折れかわらけである。402～420は国産陶器類で甕類等の体部片が多い。407は片口鉢の、409は山茶碗類の底部片である。413は片口鉢等の体部片である。408は押印が明瞭ではないが、楕円形の文様の可



21SD2



78SD1

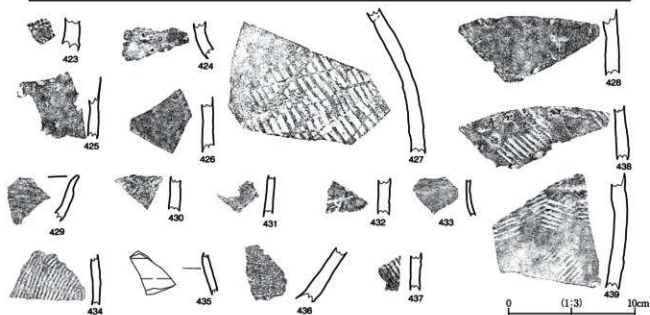


図23 21SD2 その他遺構出土土器類実測図 1

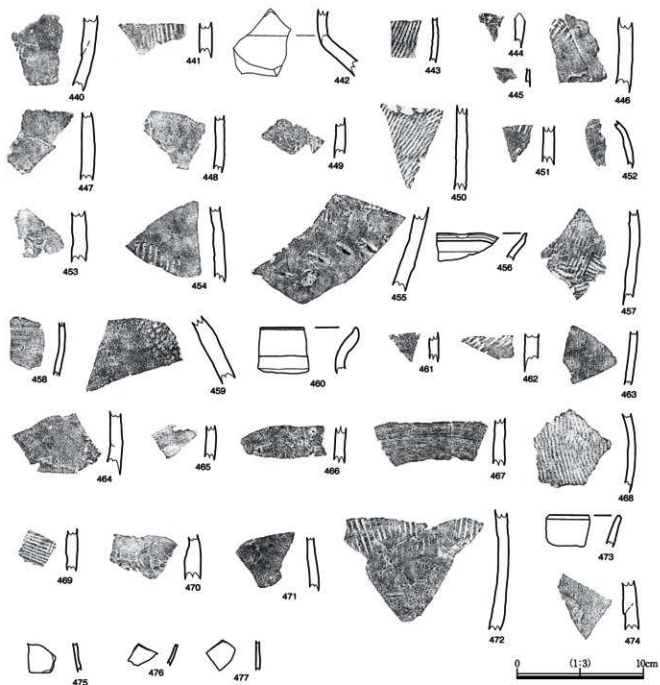


図24 21SD2 その他遺構出土土器類実測図2



図25 出土遺物実測図(瓦)

能性がある。416は円形と縦長格子文の押印である。多くは縦長格子文などの文様である。421は白磁碗類の口縁部片、422は白磁壺類の体部片である。

遺構外からの出土遺物は国産陶器類52点、輸入陶磁器類3点を図示した(423~477)。多くは壺類の体部片である。470は小片のため押印の全形は判別できないが、楕円形の文様で、花文等の可能性もある。475~477は輸入陶磁器類で、475は白磁壺類、476は青白磁碗類、477は白磁壺類の体部片である。

② 木製品(図26~31)

木製品はいずれも21SD1堀跡からの出土だが、出土量は少ない。加工痕跡のある資料を中心に図示したが、製品としての全体の形状や機能が判明する資料は少ない。

478~500は21SD1-78T1からの出土で、いずれも16a層からの出土である。加工痕跡が表表面もしくは端部にあるものの、形状などからは部材等が多いとみられる。478は大型の部材とみられる。479・480は形代とみられる。482は裏裏両面が平坦に加工されている。484は端部に焦げがみられ、表面が平坦に加工される。

501~655は21SD1-78T2からの出土である。501は12層からの出土で、漆碗である。外面は黒漆、内面は朱漆である。朱漆の資料は平泉では事例が少ないが、柳之御所遺跡出土資料でも小形の碗類に少数みられ、本資料は体部上半が欠損しているが同様のものとみられる。502~528は11・12層からの出土で、いずれも加工痕跡が確認できるが製品と確定できるものはない。502・503・506・507は厚みがある木片で、片面もしくは両面が整形加工されており、何らかの部材等として利用されたとみられる。この他、523・525など端部がケズリなどで加工された資料も部材片とみられる。その他、加工木材が多い。

529~655は7層からの出土である。529は墨書が確認できる。平仮名などの文字の可能性もあるが、残存が少なく確定できない。片側は欠損している。折敷片の可能性があろう。530は大型の加工木材で、表面にケズリの痕跡が残る。532は方形の部材である。535は端部に切り込みが複数入る。536は円形の部材である。543~546は大型の木片で、厚さは薄いものの折敷のような小型品とは形状が異なる。何らかの部材片とみられるが、確定できない。548は円形に加工された部材である。小型製品の一部とみられるが、判別できない。553は断面方形の木製品である。556は中央に挟りがあり、断面が三角形の部材である。560は将棋駒である。「歩兵」「と」の墨書が確認できる。なお、「歩」の墨書の上部にもそれとは独立して2本の縦線の墨書があり、製品生産時の痕跡とみることができれば注付できる。565は漆碗で内外面に黒漆がみられる。高台部の底部外面に漆が塗布されている。568は人型の部材で、湾曲して内面には加工痕が明瞭に観察できる。

なお、この他に図示できていないが漆碗の細片や漆膜部分が出土している。

③ その他の遺物

瓦はいずれも小破片のため、瓦当面が確認できる軒平瓦1点のみ図示した(図25-656)。唐草文系の瓦当文様で、遺跡内では比較的古相の可能性をもつ。そのほかいずれも小破片が多く、51点の出土で、総重量は1,696.8gである。

軒瓦も剣頭文系の既知の文様をもつものである。また、この他に平瓦、丸瓦片が出土しており、これらは表・写真に掲載した。平瓦、丸瓦はこれまで遺跡内で確認されている資料と同様のものである。平瓦は多くは凸面にタタキ目、凹面に布目痕をもつ。丸瓦は凸面ナデ、凹面に布目痕をもつ。図示した唐草文系の文様の資料を除いて、文様や整形、焼成の特徴は12世紀後半とみなされてきた資料と同様である。

(櫻井)

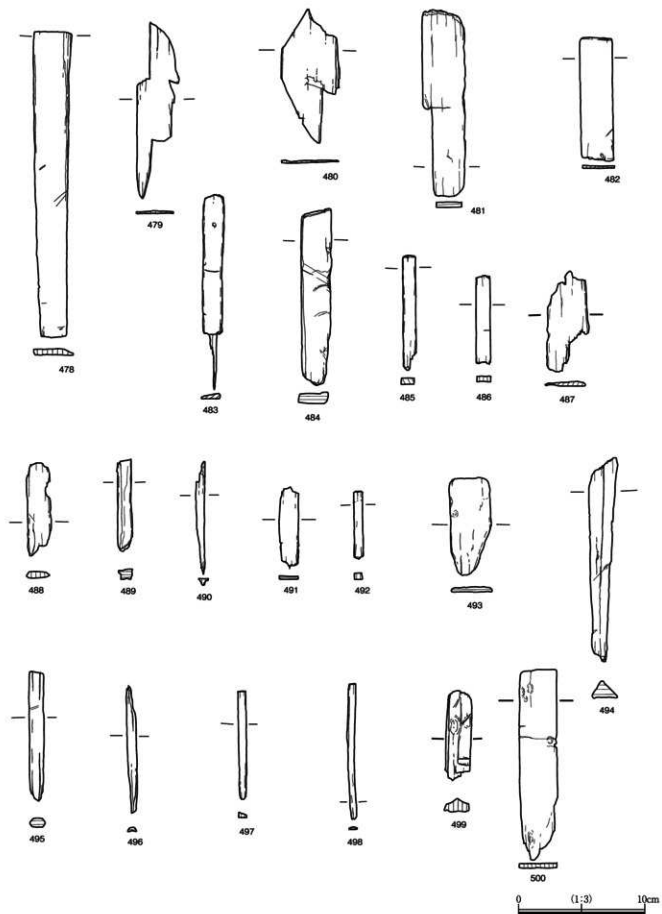


图26 21SD1 出土木製品類実測図1

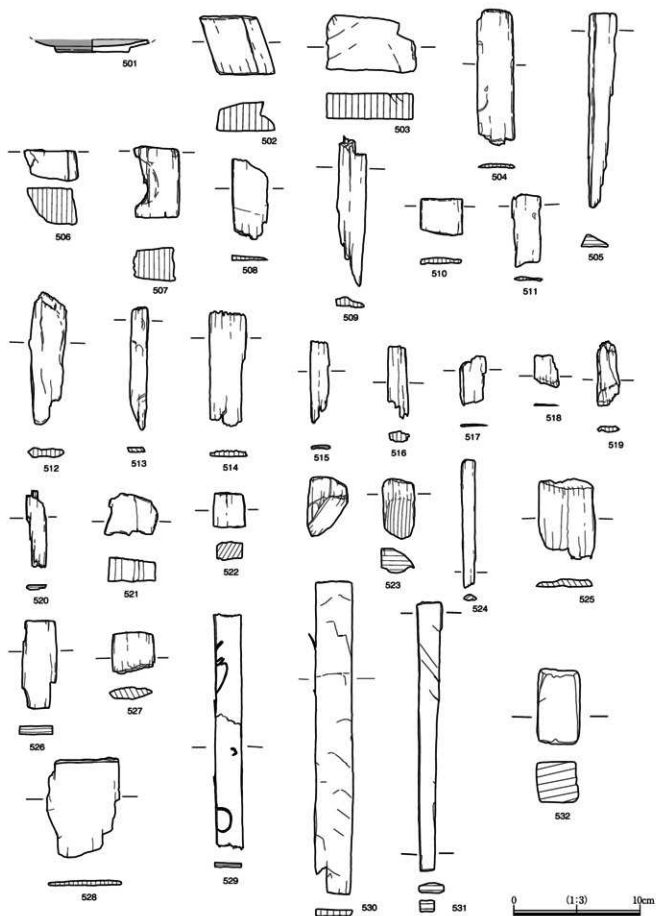


图27 21SD1 出土木製品類実測図 2

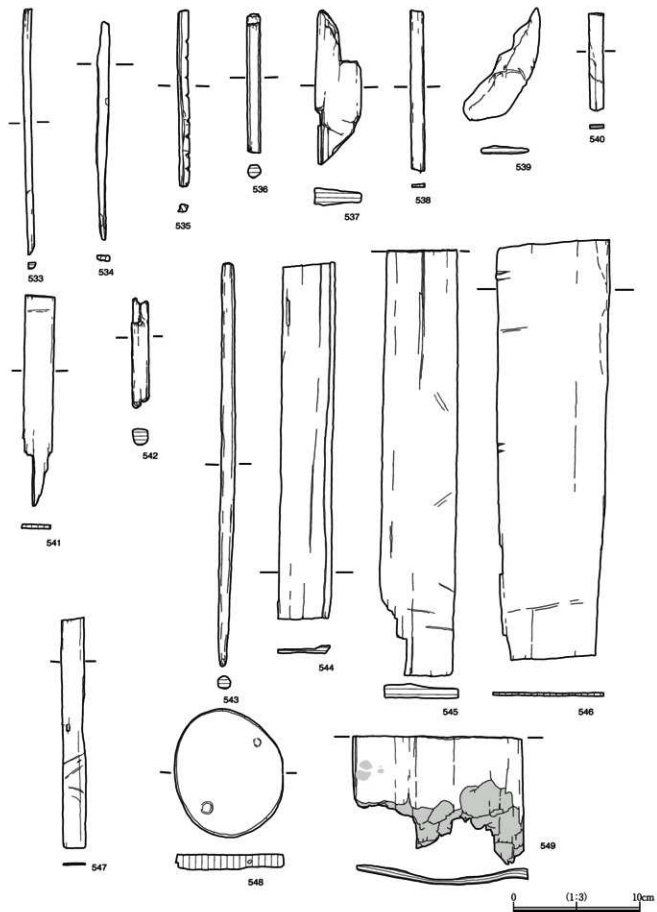


图28 21SD1 出土木製品類実測图 3

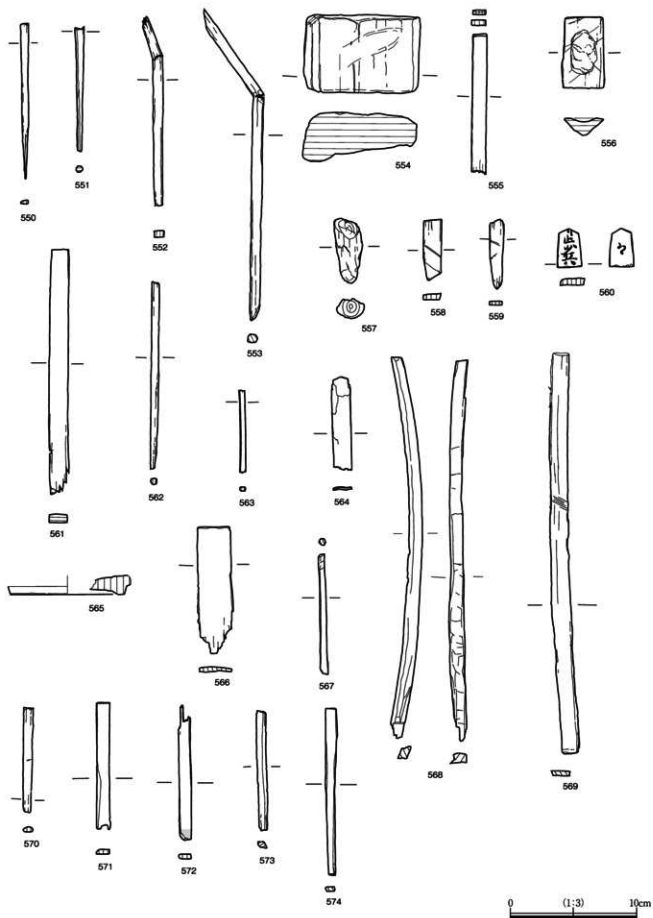


图29 21SD1 出土木製品類実測图 4

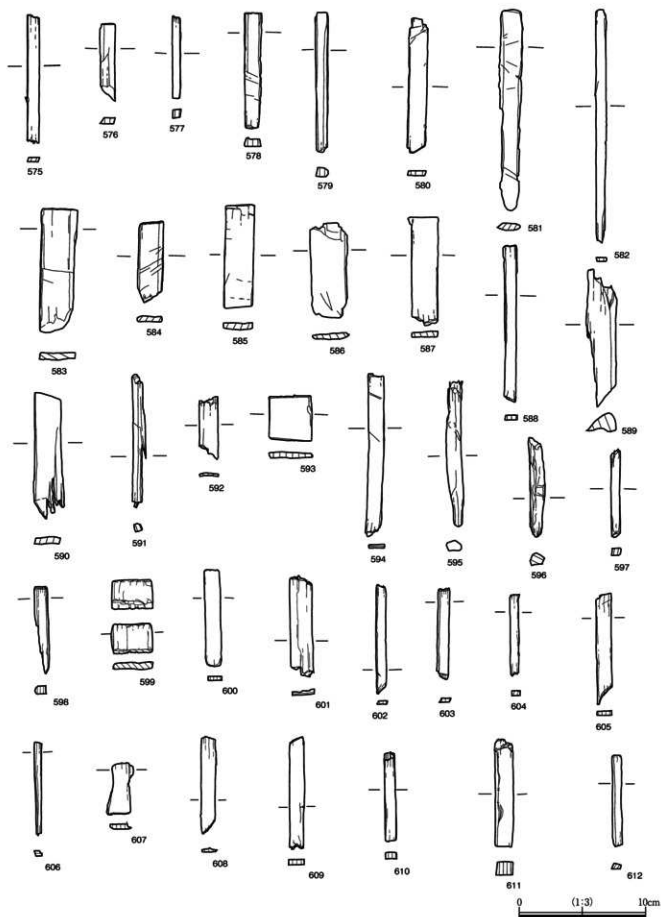


図30 21SD1 出土木製品類実測図5

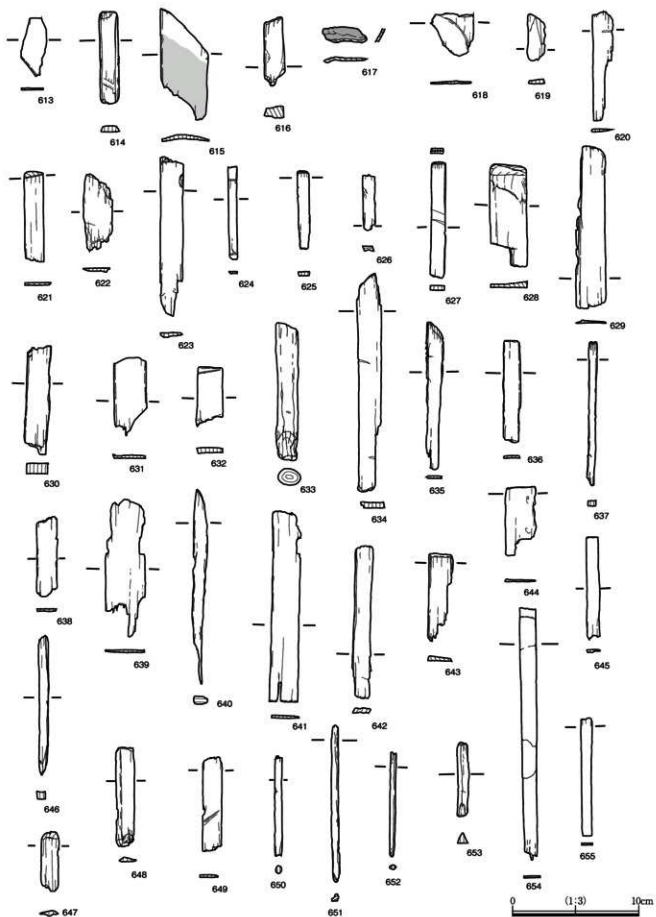


图31 21SD1 出土木製品類実測図 6

2 79 次 調 査

(1) 調 査 の 概 要

79次調査区は平成24年度に実施した73次調査区と平成25年度に実施した第74次調査区との未調査範囲にあたる。公有地化以前の状況は宅地及び田地で、本来の地形は南北方向には、南側の猫門ヶ淵跡へ向かって下がる地形とみられる。宅地部分（北半）と田地部分（南半）で標高は大きく異なり、地形的に段差が生じている。東西方向では堀内部から外部の南西方向に向かって下がる地形である。また、現況で整備事業開始以前においても、調査区の東西端と堀跡の走向位置で地形的に段差が生じている。これは堀掘削時に掘り窪められて改変が行われ、さらにその後の出畑へと転用する際に、その低地部分を利用したことによるとみられる。これは12世紀当時の遺構掘削より以前において、堀跡が構築されるこの範囲の全体が平坦であったことを意味するものではないことは留意される。旧来の岡析谷などの小規模な地形的に下がる旧地形部分を、12世紀代に堀として利用した可能性は残る。

79次調査区は、南区は遺跡を囲む2条の堀跡（72SD1・72SD2）が位置するとみられる範囲で、これまでの調査で確認されている整地層などの土層の分布状況を確認し、周囲の遺構状況を把握することを目的としている。

調査区内は北半、南半のいずれの範囲も宅地造成時の削平などによる地形の改変が著しい。北区は宅地等の攪乱が多数検出面で確認できる。南区は出地としての利用のため平坦に削平が行われているが端部などで攪乱による溝等が確認できる。検出面までの層序は、地点によって層の有無や層厚の差はあるが、基本的には同様である。調査区内の基本層序は下記の通りである。

I 表土層

II 宅地造成時とみられる盛土層

III 暗褐色の土層。12世紀とそれ以前の時期の口表土にあたる層だが、79次調査区では多くの範囲で削平等により確認できない。

IV 黄褐色の粘土層で、いわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。なお、他の地点も同様だが、この層も細分は可能である。

なお、このうちIII層は調査範囲全体では確認できず、多くの調査範囲はIV層の上面にII層の盛土層が堆積し、削平等により改変が行われたことがわかる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図32）。

堀跡 2条（土橋状の掘り残しの範囲1カ所）

整地層 1カ所

(2) 検 出 遺 構

① 72SD1堀跡（図32）

〔位置〕 53-48グリッドから55-52グリッド付近に南北に走る堀跡である。両側ともに、地山にあたる黄褐色土層で確認している。今回の調査範囲では16mほどの延長を確認した。

〔規模〕 幅は約11.0mで検出している。両端はいずれも本来の遺構掘り込み面が水田耕作時等の削平により失われており、本来の幅はやや大きくなることが想定できるが、両端の地形状況や隣接地点での積土状況などから、現況との差は上幅においては1～2mほどの差に収まり、堀の規模を勘案すれば、それほど大きな差異ではないとも判断できよう。今回の調査範囲では掘り下げを行っていない

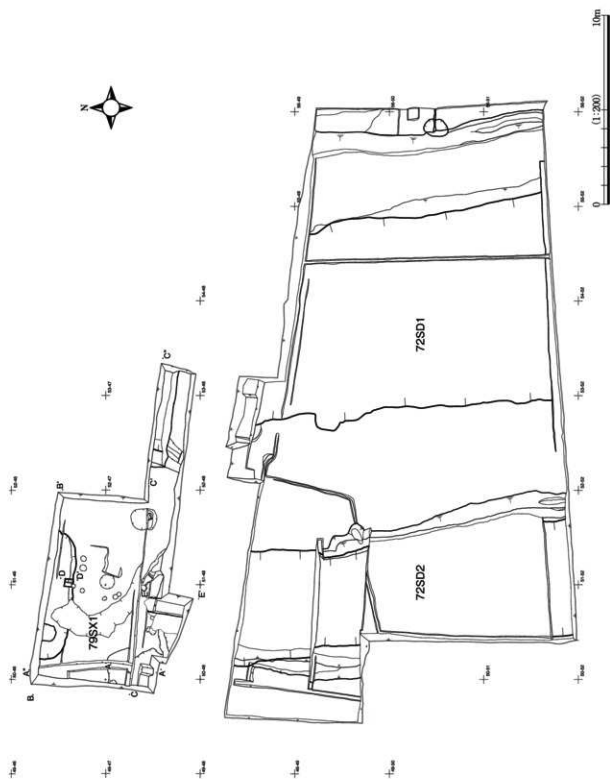


図32 79次調査遺構配置図 (1/200)

が、南側に隣接する74次調査の成果をふまえると、検出面からの深さ4mほどのV字に近い急峻な形状と推測できる。

〔周囲の状況〕 72SD1堀跡の検出範囲は調査区の南北に分かれ、南半と北半では標高が1mほど異なり周囲の状況にも差がみられる。ここでは南半と北半それぞれの周辺状況を記す。

○調査区南半 外側の岸は地山となる黄褐色土層の上面で検出している。水田耕作等に伴って、この土層までの削平が行われたとみられ、本来は現況の残存層位より上部の土層から掘り込まれた遺構とみられる。岸は直線的に南北に走る状況で確認される。一部に不整形の広がりもみられるが、現況での堀跡土層の土層も水田等に伴う土層で、これらの不整形部分の土層も同様で、後世の擾乱の可能性はある。

この面では関連する遺構は確認されていない。なお、72SD2堀跡との間隔は、南側に位置する74次調査範囲と合わせても4～5mほどで一定しており、関連する遺構は現況では確認されていない。削平の程度は厳密には確定できないが、周辺地形の様相を勘案した場合には1m以内程度とされる。その場合、大規模な柱穴や土坑はこの範囲には削平以前においても存在していない可能性が高い。

内側の岸は地山となる黄褐色土層の上面で検出している。この周囲でも水田耕作等に伴って、削平が行われたとみられる。72SD1堀跡の現況での検出面となる黄褐色土層は標高26mほどである。一方、東側の56-49から56-52グリッドにかけては検出面の標高が27mとなっており、本来の内側の岸の掘り込み面の標高はこれに近いものとみられる。72SD1堀跡を検出した西側は1mほどの削平を受けているとみられる。

東側の標高が高い範囲および東側に接する56次調査では整地層を確認している。整地層からは遺物が出土しておらず時期には不定の部分が残るが、56次調査では整地層の下層からも遺構を検出している。整地土層の56次調査区を含めた平面的な広がりについても判然としない部分は残るが、堀跡の周囲で整地が行われ、堀内部の平均面が広く造成されたことがわかる。ここでは整地層上面で土坑1基(79SK1)を確認している。精査していないが、削平面で断面を確認でき、削平以前のものであることはわかる。埋土の特徴からは整地層と同様に12世紀代の遺構とみておきたい。

○調査区北半 調査区北半では外側の岸部分のみを確認している。図36 C'-C"断面で立ち上がりを確認している。遺構本来の立ち上がり上端部は水田耕作等により失われたとみられる。後世の擾乱により拡大したとみられるが、調査区が接する73次調査では72SD1堀跡の西端を確認しており、今次の調査で確認した部分と対面する範囲でも検出しており、幅14mほどで確認できたことになる。擾乱・削平の程度からは、遺構本来の幅との差はあるものの、規模と比すれば遺構の理解に大きな影響を与えるものではないとみなすこともできよう。

② 72SD2堀跡 (図32)

〔位置〕 90-46から57-52グリッドにかけて検出している。両岸側ともに地山となる黄褐色土層の上面で検出している。今回の調査範囲では20mほどの延長を確認した。

〔規模〕 幅は6mほどで確認している。両端はいずれも本来の遺構掘り込み面が削平により失われており、本来の幅はやや大きくなることが想定できるが、両端の地形状況がある程度本来の堀の形状を示し、現況との差はそれほど大きなものではないと判断できる。今回の調査範囲では掘り下げを行っていないが、南側に隣接する74次調査の成果をふまえると、深さ2mほどで断面は台形に近い形状と推測できる。掘り直し等が行われた可能性も高いとみられる。

〔周囲の状況と関連遺構〕

72SD2堀跡の検出範囲は、調査区の南北に分かれるが、南半と北半では標高が1mほど異なり周囲

の状況にも差がみられる。ここでは南半と北半にわけ、それぞれの周辺状況を記す。

○調査区南半 72SD2堀跡の内側の岸は黄褐色土層の上面で検出している。X=49グリッド以北は遺構本来の肩部分により近い位置で検出しているものと判断できる。X=49グリッド以南は水田耕作によって一段下がっている範囲で確認できる。この部分は堀跡が、水田耕作によって東側に拡張されて本来の肩が壊されていることがわかる。ただし、水田耕作時に窪んでいた範囲を広げたであろう事が推測できる。また、49グリッド以北及び74次調査での確認状況などの走向方向と位置をふまえても、72SD2堀跡の規模等を大きく変えるものではなく、現況地形がある程度堀跡の形状を反映していることが想定できる。こちらの端部では関連する遺構等は確認されなかった。削平等はあるものの、大規模な土坑や柱穴は本来よりこの範囲には存在しなかったと判断できる。

外側の岸を確認したのはX=50グリッド以北である。現況地形では西側が0.8mほど標高が高くなっており、この段差が堀の形状を反映している可能性が高いと思われたが、その後の変更もあり74次調査では現況よりやや西側で岸を確認できるなど、大きな差異はないと推察できるが、関連遺構の確認のため調査を行った。72SD2堀跡の肩は水田耕作時に広げられている部分も南側を中心に存在する者の、北側では削平等が少なく本来の位置を保つものとみられた。この範囲での幅も5～6mほど他の範囲とほぼ同様である。岸上部の平坦面では関連する遺構は確認されなかった。また、より南側の74次調査区や35次調査区では整地層を確認しているが、79次調査区では整地等はみられなかった。旧表土等も残存していないことから、削平等により失われた可能性も高いと考えられる。

以上から、削平等により本来の遺構の肩は失われている部分が多いものの、全体の形状や位置は大きな削平等は受けておらず、現況の検出時の幅5～6mが一定程度、本来の幅や形状を反映しているものと理解できる。

○調査区北半 調査区北半は検出面の標高27mほどと、調査区の中で標高の高い範囲である。

南北方向の断面では(図34 A-A')、9層及び10層がいわゆる地山面にあたる。8層は暗褐色の土層で、旧表土にあたる土層と捉えている。これを直接覆う7層は黄褐色の土層で、人為堆積土で埋め戻し土もしくは整地層とみられる。東西方向の断面から連続し、72SD2堀跡を埋め戻した土層から連続する。6層は黄褐色土の粘土質の土層で、8層を掘り込む土層として分層した。7層との前後関係は判然とせず、当初の整地土層の可能性も残る。5層もこれと関連する土層である。4層は7層の人的な土層を直接覆う土層である。人為的な土層で、7層との境界に薄い砂層が形成される。4層より上層の土層までは後述のC-C'断面の所見より、12世紀より新しい盛土等と判断したが、7層との分層は平面的および掘削時の分層は難しい。4層と7層は時期的には異なるもの前者が後者を削平もしくはそれに由来する土層で形成されたことによる近似とみられる。これより上層の1層及び2層は新しい段階に形成された土層とみられる。これらをまとめると、南北方向の断面の、1・2層は新しい段階の盛土層、4層は7層と近接可能性も残るものの砂層が間に入り、7層もしくは類似した土層に由来するものの、夾雑物が多いことから、新しい段階の整地と判断した。7層以下を12世紀段階の土層と判断している。8層が表土として機能した可能性が高いが、明確な地層は確認できない。

調査区北端の東西方向の断面では(図35 B-B')、10層及び11層がいわゆる地山面にあたる。8層及び9層は粘土質の褐色がかった土層で人為的な埋め戻し土とみられる。8層はA-A'断面の7層に連続する。埋め戻しに際して72SD2堀跡のみでなく、周辺部分も含めた、やや広い範囲で整地されたことがわかる。5～7層及び3・4層はこれらの上層に限定的に堆積する。5・6層は炭化物を含み、時間幅が短い可能性もある。1層及び2層はA-A'断面の新しい段階の盛土層である1・2層と連続する。これらから、東西方向断面B-B'の、1・2層は新しい段階の盛土層、3～6層は人為堆積土層の土層、8・9層は72SD2堀跡を埋め戻す土層と判断している。また、72SD2堀跡の南北方

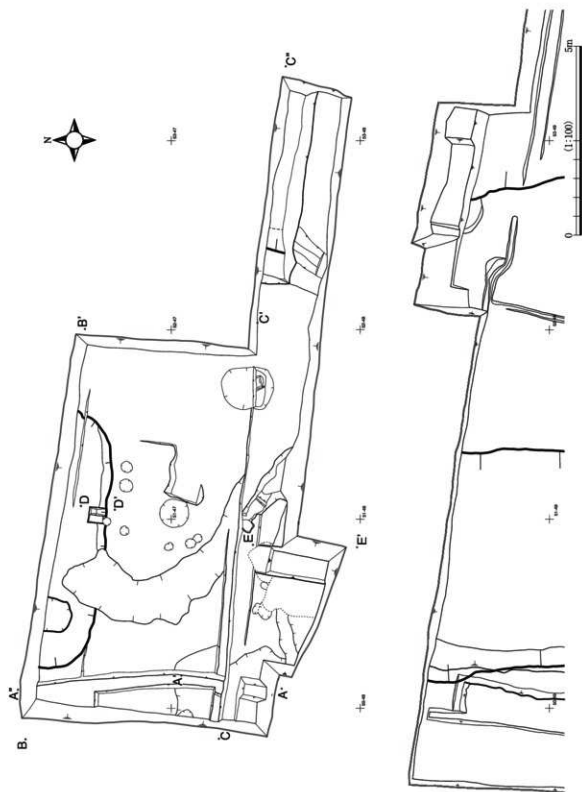


图33 79SX1 平面图

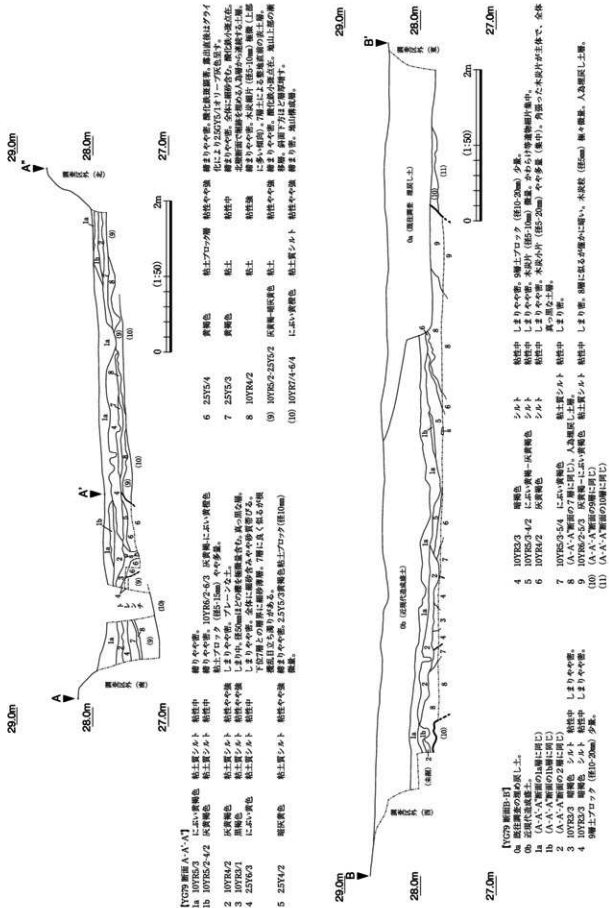
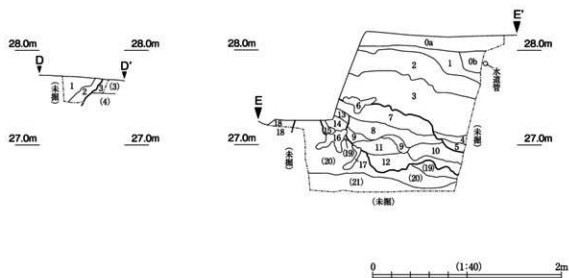


図34 断面図 1



【YG79 断面 D-D'】

- | | | | | | |
|---|---------|--------|----|-----|--|
| 1 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土 | 粘性強 | しまりやや密。木炭粒 (径5mm) 無微量。クラックに沿って酸化鉄集積。 |
| 2 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土 | 粘性強 | しまりやや密。10YR5/4砂質シルトブロック (径10-20mm) やや多量。クラックに沿って酸化鉄集積。 |
- (3) B-B'の10層。
(4) B-B'の11層。

【YG79 断面 E-E'】

- | | | | | | |
|------|---|---|--------|-------|--|
| 0a | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質シルト | 粘性中 | しまり中。腐炭層微量。草根・山砂ブロック全体に含む。寄土層。 |
| 0b | 水道管敷設護土。0aに似る。 | | | | |
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり中。木炭粒 (径1-2mm) 無微量。0aとの層間に径20-30mm程度の中。炭土層。 |
| 2 | 10YR5/2灰黄褐色粘土・10YR6/6-5/4黄褐色-にぶい黄褐色シルト・10YR4/2-3/3灰黄褐色-暗褐色シルト (3層土) | からなるブロック層。粘性やや強 しまり密。地山ブロックが主体。近現代造成土。 | | | |
| 3 | 10YR4/2-3/3 | 灰黄褐色-暗褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中。木炭粒 (径2mm) 無微量。近現代遺物含む田表土。 |
| 4 | 5Y3/1 | オリブ黒色 | 粘土質シルト | 粘性強 | しまりやや密。3層下部下面のグライ化層。 |
| 5 | 2.5GY4/1 | 暗オリブ灰色 | 砂質シルト | 粘性やや強 | しまり中。グライ化層。地山ブロック少量含む。色調除けば8層に似る。8層に連続あるいは同層の再堆積部分の可能性あり。 |
| 6 | 2.5Y3/3 | 暗オリブ褐色 | 粘土 | 粘性やや強 | しまりやや密。酸化鉄小斑微量。木質部痕跡の可能性あり。 |
| 7 | 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト・10YR6/6黄褐色シルトから成るブロック層。 | 5-10mmの小径ブロック主体。粘性中 しまり密。全体に砂質帯び酸化鉄の発達により赤味。 | | | |
| 8 | 5Y6/1-6/2R-灰オリブ色粘土・2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトのブロック層。 | 7層に比してブロック径大きくグライ化している。粘性やや強 しまり密。 | | | |
| 9 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 粘土 | 粘性やや強 | しまり中。グライ化。8層下面に見られる小凹部の黒色層。木質 (土留め等) の痕跡が。 |
| 10 | 8層に良く似る。8層との境界に平行する積み上げ単位が観察できる。 | | | | |
| 11 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。全体に酸化鉄小斑 (点状) 顕著で赤味帯び。 |
| 12 | 5Y6/2-6/3Rオリブ-オリブ黄褐色粘土質シルトブロック層。 | 粘性やや強 しまりやや密。5Y6/1-5/1灰色粘土ブロック少量含む。ブロック径は両者とも10-20mm。地山ブロックが主体。 | | | |
| 13 | 10YR4/2-3/3 | 灰黄褐色-暗褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり密。木炭粒 (径2-5mm) 微量。自然堆積の田表土か。8層に切られている。 |
| 14 | 10YR5/2-5/3 | 灰黄褐色-にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり密。全体に酸化鉄小斑 (点状) 顕著。 |
| 15 | 14層土に地山土ブロック多量。 | | | | |
| 16 | 10YR5/2-5/3 | 灰黄褐色-にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり密。地山ブロック (径2-5mm) やや多量。14-15層が混ざった部分。根痕跡が。 |
| 17 | 10YR5/2-5/3 | 灰黄褐色-にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。根痕跡が。 |
| 18 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。近接土塊埋土の一部。14層に似る。 |
| 19 | 10YR5/1-5/2 | 褐灰-灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。20層との境界不明確。漸移層の可能性。 |
| (20) | 10YR7/3/7/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。地山構成層。 |
| (21) | 2.5Y6/3 | にぶ黄色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり中。クラック発達し間隙に5Y6/1灰色砂質シルト。クラック上面縁は亀甲状。断面では大径ブロック層の様に見える。 |

図36 断面図3

向の掘り込みは436 (D-D' 断面) で一部確認しているが、60~70°程度の傾斜で立ち上がる。堀跡の肩部分と埋め戻し土との間には自然堆積などの明瞭な間層は確認できない。これが72SD2堀跡構築後に短期間で埋め戻しが行われたためか、確認した部分が72SD2堀跡の上層部に限定されていることによる事象なのかは判断できない。他地点の調査成果からは、堀跡に一定の機能時が想定でき、後者の可能性が高いと思われる。

調査区中央南よりの東西方向の断面では(図35 C-C'), 10~12層はいわゆる地山面にあたる。9層は、南北断面A-A' 断面の8層と連続し、旧表土にあたとみられる。5層は調査区を南北に走る溝の遺構埋土である。溝は不整形で12世紀より新しく、雨裂の可能性がある。4層はA-A' 断面の4層と連続し、新しい段階の整地土層とみられる。これが新しい時期の溝埋土である5層を覆うことから、上述のA-A' 断面の4層と7層は時期が大きく異なるものと判断できる。

これらの所見から、73次調査区と79次調査区南半の間の4.5mほどの部分が72SD2堀跡が掘削されていない部分があることがわかる(図34)。遺構構築当初から掘り残されていたことが、地山面が延長することからわかり、掘り残しは72SD2堀跡を分断し、堀が途切れる範囲である。堀構築の当初から、堀に残された土橋状の範囲として機能したとみられる(79SX1土橋)。

79SX1土橋 79SX1土橋は、両端部で確認されている72SD2堀跡が途切れる幅4.5mほどで確認した。周囲の堀底面は不明だが、現状での検出面での比高も1mほどあり、堀の底面はそれよりも下がることから、堀構築時点では堀底面から土橋部分の上面まで1mを超える比高があったと判断できる。

南端部に設定した断面では(E-E'), 20層及び21層は地山にあたる。19層は20層と同様の土層とみられる。16・17層は木の根等による擾乱と判断した。19層及び20層の上面が地山層の上面と捉えている。13~15層では、14・15層は人為的な堆積土、13層は自然堆積による土層である。これを切るように堆積する7~12層は地山ブロックを多く含み、土質からも人為堆積土主体の土層と捉えている。13~15層の土層が72SD2堀跡の堆積土になるか、13・14層の層界が72SD2堀跡の構築時の土層になるかは確定しがたい部分が残るが、平面での形状などから13~15層が72SD2堀跡の当初の堆積で、平面的には15層の掘り込み部分から堀跡のラインと捉えておきたい。このように南端部分は、72SD2堀跡の構築にあたって、堀構築時に残されていた範囲にあたるが、南側では断面状況から、整地等が頻繁に行われたと考えられる。

北端部分の土層状況からは、72SD2堀跡が構築された後に、周辺域を含めて埋め戻しが行われたことがわかる。この埋め戻しは、79SX1とした掘り残し部分をふくめて周囲に広く行われていることが、同一の土層の広がりから認識できる。掘り残し部分の当初期の機能面は旧表土層と捉えており、上部は炭化物等を含み機能面とみることができようが、道路地業などで確認されるような遺構は確認できない。断面での確認のため硬化の程度は明確ではない。これらから79SX1土橋とした範囲は、明確な路面は存在していないものの、堀の構築に際して残され、72SD2堀を分断する通路として利用されていた可能性が高いと判断している。また、堀内部及び外部でこの周囲に方向を向けた道路跡が複数確認されていることも留意される。

72SD2堀跡の埋め戻しが行われて以降の、堀跡を含めて整地が行われたことから、72SD2堀跡が位置した部分を含めて利用が行われたと理解できる。79次調査区の北側に位置する73次調査においても、73次調査範囲の中央から南側にかけては72SD2堀跡の検出時の最上層は同様の整地層にあたる。したがって、同様の埋め戻しが10m近くの範囲で行われたことになる。このことから、72SD2堀跡の埋め戻しにより、整地を行い平坦面を広く造成した可能性が高い。

(3) 出土遺物

出土遺物は総重量で14,903.6gである。遺物は総重量のうち、かわらけが8,655.9gと最も多く、次いで陶磁器類が6,247.1gと多い。陶磁器類は国産陶器が6,201.6gで、輸入陶磁器は46.1g出土している。

79次調査区内では、近世以降の表土及び盛土層を除去した直下で遺構検出面にあたる土層が確認される範囲が多く、遺構検出面において出土した遺物も多くは遺構の平面プラン内からの出土である。また、検出にとどめ遺構精査時トレンチの設定が少ないため全体の遺物量が少ない。多くは形状の復元できない資料で、細片が多く遺跡機能時以降に堆積した資料である。国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（太宰府市教育委員会2000）を参考にしている。

表7 79次調査出土遺物数量表

		かわらけ	国産陶器	輸入陶磁器
72SD1	検出面等	805.3	409.8	
72SD2	検出面等	3,094.0	1,002.6	
表土・カクラン		4,756.6	4,789.2	46.1
合計		8,655.9	6,201.6	46.1

土器・陶磁器類

その他の遺構及び遺構外出土遺物（図37・38）

国産陶器類42点、輸入陶磁器類4点を図示した（657～702）。国産陶器は口縁部及び頸部、体部片については押印が確認できるものを中心に図示した。657～698は国産陶器類である。甕類の体部片が多い。文様の多くは縦長格子文もしくは格子文による押印である。658、687は刻文が確認できる。674は格子文と花文が押印される。699～702は輸入陶磁器である。699は白磁の壺類の体部片である。700は龍泉窯系の青磁で、内面に槲栂きによる花文、外面は701は龍泉窯系の青磁碗で、外面は縦方向の槲栂き、内面は槲栂きによる文様が確認できる。702は白磁四耳壺で耳部が欠損している。

(櫻井)

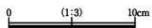
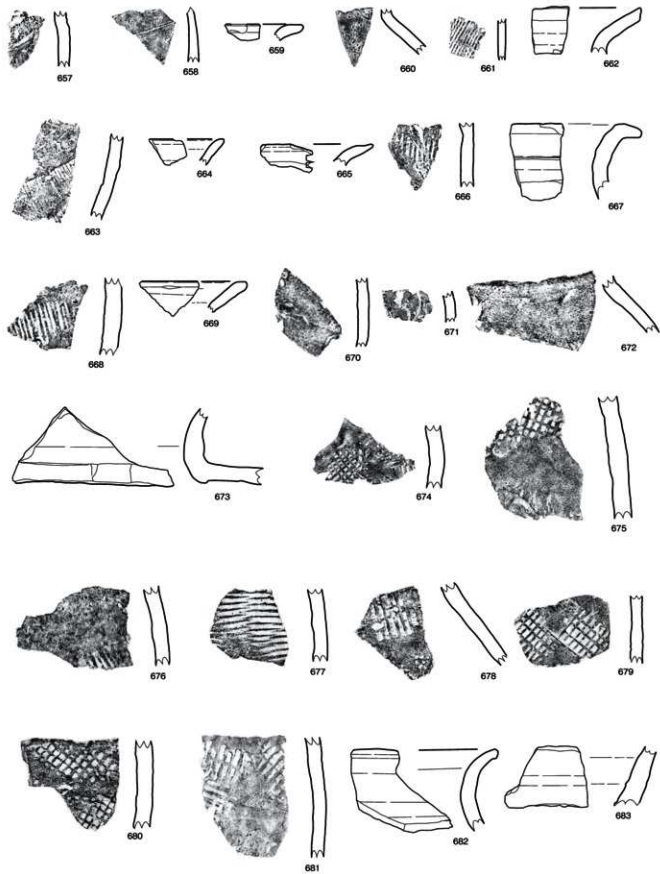
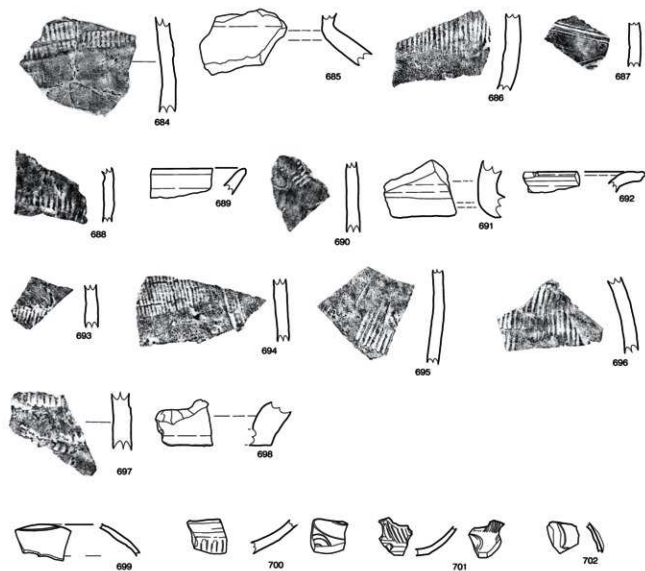


圖37 79次調查出土土器類實測圖1



0 (1:3) 10cm

图38 79次調査出土土器類実測図2

Ⅲ 自然科学分析

柳之御所遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在する。測定対象試料は、堀跡から出土した炭化物4点である（表8）。

柳之御所遺跡は2条の堀跡に囲まれている。外側の堀跡（21SSD2）は、低地部分では整地を行って構築されている。この整地層からT5-c6、T5-c5が採取された。年代は12世紀前半から中葉頃かと推定される。内側の堀跡（21SD1）には、2度の人為堆積による土層が認められ、その間に自然堆積層が見られることから、2時期の変遷が考えられている。この人為堆積層間の自然堆積層からT2-c3、T2-c4が採取された。T2-c3は新しい人為堆積層の直下に当たる。これらの年代は、12世紀後半頃かと推定される。

2 測定の意義

試料が出土した堀跡の年代を検討する材料を得る。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表8に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表8）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表8に、補正していない値を参考値として表9に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。

pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表8に、補正していない値を参考値として表9に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が14C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、 $\delta^{13}\text{C}$ を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表9に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表8、9に示す。

21SD2出土試料の14C年代は、T5-c6が $950 \pm 20\text{yrBP}$ 、T5-c5が $1230 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、T5-c6が1029~1150cal AD、T5-c5が717~864cal ADの間に各々複数の範囲で示される。12世紀前半から中葉頃かという推定に対し、T5-c6は総合的な結果であるが、T5-c5は古い年代値を示した。これらの試料は整地層からの出土であるため、整地上が彈跡よりもかなり古い年代の土層に由来し、T5-c5はその土中に含まれていた古い炭化物であった可能性がある。また、これとは別に、以下に記す古木効果によって実際より古い年代が示されている可能性もある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる (古木効果)。今回測定された4点の試料には、いずれも樹皮が確認されていないことから、炭化物の本来の年代はここで示された値よりもいくらか新しい可能性がある。特に推定より古い年代値となったT5-c5については、この点を考慮する必要があると見られるが、古木効果だけで説明するには年代差が大き過ぎると考えられる。

21SD1出土試料の ^{14}C 年代は、T2-c3が $910 \pm 20\text{yrBP}$ 、T2-c4が $960 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、T2-c3が1046~1161cal AD、T2-c4が1027~1150cal ADの間に各々複数の範囲で示される。12世紀後半頃かという推定に対し、おおむね総合的か、若干古い値を示した。上述の古木効果が影響している可能性もある。2点はほとんど同年代を示しているが、やや上層から出土したT2-c3の方が若干新しい暦年代範囲を含む。

試料の炭素含有率は、すべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表8 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-161492	T5-c6	21SD2	炭化物	AAA	-25.35 ± 0.27	950 ± 20	88.81 ± 0.26
IAAA-161493	T5-c5	21SD2	炭化物	AAΛ	-26.93 ± 0.27	1,230 ± 20	85.81 ± 0.24
IAAA-161494	T2-c3	21SD1	炭化物	AAA	-26.96 ± 0.27	910 ± 20	89.25 ± 0.25
IAAA-161495	T2-c4	21SD1	炭化物	AAA	-25.97 ± 0.28	960 ± 20	88.79 ± 0.26

[#8263]

表9 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-161492	960 ± 20	88.77 ± 0.25	951 ± 23	1029calAD - 1049calAD (18.5%) 1085calAD - 1124calAD (38.0%) 1137calAD - 1150calAD (11.7%)	1024calAD - 1059calAD (26.4%) 1065calAD - 1154calAD (69.0%)
IAAA-161493	1,260 ± 20	85.47 ± 0.24	1,229 ± 22	717calAD - 743calAD (21.4%) 766calAD - 779calAD (10.9%) 791calAD - 828calAD (21.2%) 839calAD - 864calAD (14.7%)	692calAD - 748calAD (31.5%) 762calAD - 880calAD (63.9%)
IAAA-161494	950 ± 20	88.90 ± 0.25	913 ± 22	1046calAD - 1092calAD (41.5%) 1121calAD - 1140calAD (16.0%) 1148calAD - 1161calAD (10.7%)	1035calAD - 1169calAD (95.4%)
IAAA-161495	970 ± 20	88.61 ± 0.26	955 ± 23	1027calAD - 1049calAD (20.9%) 1086calAD - 1124calAD (36.4%) 1137calAD - 1150calAD (10.9%)	1022calAD - 1059calAD (28.5%) 1065calAD - 1155calAD (66.9%)

[参考値]

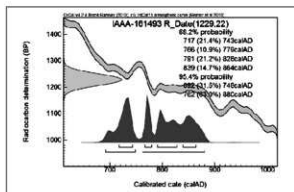
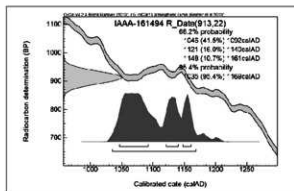
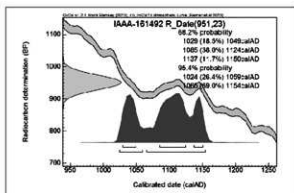
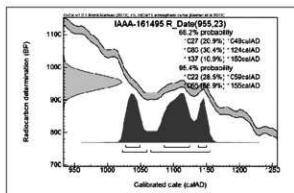


図39 暦年較正年代グラフ (参考)

IV 総 括

1 調査成果の概要

(1) 78次調査範囲での堀跡の概要と特徴

78次調査では、21SD1（内側の堀跡）が幅10mほどで確認した。走向方向は屈曲を示すが、これまで確認されている同遺構と連続して把握できる。21SD1堀跡の外側の岸でも整地によって肩部分が造成されている。これが21SD1構築時のものか、それ以前に行われその後に21SD1が構築されたかは確定できないものの、この部分で整地が行われ平坦面が拡張されたことは理解できる。また、21SD1堀跡が構築され、一定の開口期間を経た後に、人為的な堆積土によって埋め戻され、堀が閉塞されている。この埋め戻しの時期は不定だが、人為堆積土は21SD1堀跡の外側に由来するとみられる。内側の堀跡の外側の位置に由来するとみられる人為堆積土は76次調査でも確認しており、土量からは堺等を想定するには十分ではないものの、高まりとして存在したと考えられる。ここで確認された埋め戻しは性格にも不明確な部分が多いが、堀の外側から堀内部に向かって、高まりを削って押し込まれるように埋め戻しが行われている。

21SD2（外側の堀跡）は幅5.5m、深さ2mほどで確認できた。これまで確認されている同遺構と連続する。外側の立ち上がり部分の整地が特徴的である。

78次調査区では直接的な遺構の重複関係は限定的だが、既往の調査成果をふまえると、遺構の前後関係を下記のように捉えられる。

21SD2堀跡→21SD1堀跡→21SD1埋め戻し

(2) 79次調査区での堀跡の概要と特徴

79次調査では、72SD1（内側の堀跡）が幅11mほどで確認できた。これまで確認されている同遺構と連続する。周囲には関連する遺構は確認されていない。

72SD2（外側の堀跡）は、幅5mほどで確認できた。また、堀構築時に掘り残された部分が4.5mで確認でき、外側の堀跡に土橋（79SX1）が位置したことが確認できた。72SD2堀跡の北側周辺では埋め戻しが行われている。埋め戻し時には、土橋（79SX1）として認識された掘り残し部分も整地が行われている。

既往の調査成果をふまえると、79次調査区での遺構の前後関係を下記のように捉えられる。

72SD2堀跡・79SX1土橋→埋め戻し・整地

(≒) 72SD1堀跡

2 堀跡周辺の様相

(1) 整地層について

78次調査では2条の堀跡のそれぞれに関連して整地層を確認している。時系列に沿って確認すると、21SD2堀跡の構築に際して猫岡ヶ淵跡の低地部分で地業が行われている。本来低地だった部分を整地して堀の形状が成形されている。150mほど北側にあたる56次調査でも同様の痕跡が確認されており、21SD2堀跡は地盤が安定しない部分では整地地業を行って構築されたことがわかる。21SD2堀跡との時間的前後関係は不明だが、現状での21SD1堀跡の外側の岸にあたる、2条の堀跡の間の場所でも整地が行われている。これは南端部で行われている整地と同様の可能性があるが、土質が異なる部分も

あり、時期の異なる複数回の整地が行われた可能性も残る。

78次調査区では21SD1堀跡の全体を埋め戻すように人為堆積土の土層が確認された(図40)。これまでの調査では21SD1堀跡は自然堆積の土層で、遺跡廃絶後に徐々に埋まっていたと把握されており、大きく異なる特徴である。78次調査区の範囲では21SD1堀跡が構築され、自然堆積が一定程度あった後、埋め戻しが行われたことが把握できる。なお、埋め戻しも複数回の可能性もあるが、時間幅は不確定である。遺構の廃絶に近い時期に埋め戻しが行われたことがわかり、12世紀後葉以降と捉えられる。遺跡が主として機能していた段階よりやや下る段階と捉える方が、遺跡全体の変遷の中では理解しやすい。ただし遺跡の機能との時間幅は、大きいものではないと捉えておきたい。

なお、遺跡全体で整地が確認できている範囲を見ると(図41)、削平の影響もあるが標高の低い範囲にあたり、これらが平坦面を拡張するために行われた可能性が高い。それぞれの整地の時間的な対応関係は把握が困難だが、多くは同様の土質で確認できており、位置も上述のように共通した特徴をもつ。また、整地層からの遺物が少ないことから、それぞれの地点での当初期の整地は、12世紀後半まで下る部分は少ないとみておきたい。外側の堀の縁辺部の整地は堀の位置とその選択が自然地形の端部に沿って行われたことによるとみられる。

(2) 79SX1土橋跡について

柳之御所遺跡ではこれまで堀に関連する橋跡が4遺構、想定される範囲として1遺構確認されている。この他に23SG1池跡に係る橋跡が1基(64SX1)、猫間ヶ淵跡で無量光院方向から延びる橋状の遺構を1基(75SX1)確認している。

79次調査で遺跡北端部に外側の堀跡に関連する79SX1土橋を確認した。土橋は幅4.5mほどで確認しており、旧表土とみられる黒褐色の土層のみで道路路面の地業は確認できていないが、通路として利用された可能性が高い。この位置は周辺地形の状況から、高館側から延びる台地頂部の縁辺にあたりとみられる。この位置から南側は猫間ヶ淵に向かって傾斜する地形の変化する位置で、旧地形やそれを活かした造成の初期などに通路に使われた可能性が想起できる。

また、北端部では72SD1堀跡(内側の堀跡)では直接橋に関連する柱穴等は確認できていない。やや南側で確認している41SX2橋跡は、柱穴の規模がこれ以外の橋脚に比してやや小さく、内外部で確認している道路跡のいずれとも連続性が見いだしがたい。主要な通路として利用された橋跡としては疑問点が残ろう。ところで、内側の堀跡に構築時期が先行する外側の堀跡(21SD2・72SD2)はこれまでの調査成果から各所で埋め戻しの痕跡が確認できる。部分的な埋め戻しに留まる範囲が多いものの、全体が埋め戻されたと見なすことができるのは南端部にあたる。内側の堀に係る橋(21SX35)の延長部分は全体に埋め戻しが行われ、外側の堀に係る橋跡も橋部材が廃棄されていることから、外側の堀の廃絶後にこの周囲に埋め戻しが行われ、改めて通路として利用されたとみられる。ここで79次調査区の周囲の状況を確認すると、72SD1堀跡を検出した周囲は削平も著しく、検出面の削平が大きい。特に、72SD1堀跡の肩部分は後世の水田造成により拡張されていることが想定できる。したがって、遺構本来の肩部分は失われ、遺構の確認は堀埋土を相当程度精査した状況で確認することが必要となる。

次に、72SD2堀跡(外側の堀跡)の堆積状況を確認すると、79次調査区の北端側では72SD2堀跡が上面まで埋め戻されているとみられる。また北側に隣接する73次調査区でも検出状況からは72SD2堀跡の上面まで人為的な堆積土層が確認できる。また、一部は精緻な埋め戻し状況がみられた。79次調査区の南端側は本来の地形からも傾斜の変化する位置だったと想定できるが、人為的な堆積土が複雑な堆積を示しており、通路としての維持やその後にはわかって精緻な地業が想定される。これらから、

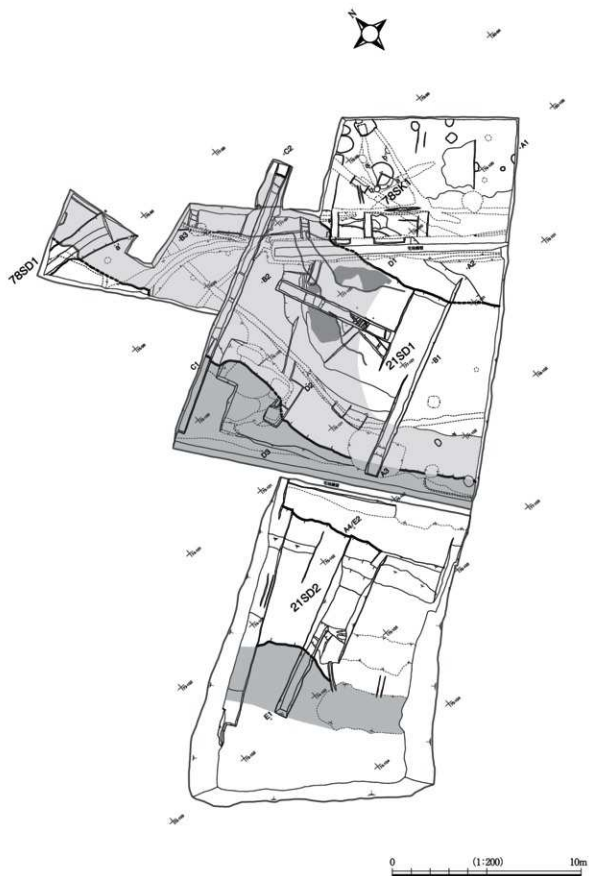
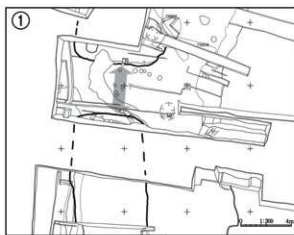


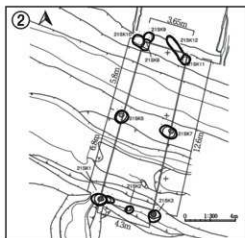
图40 78次調査区人為層分布



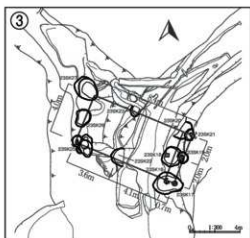
图41 柳之御所遺跡地層分布



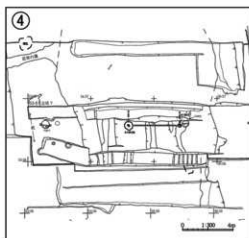
79SX1



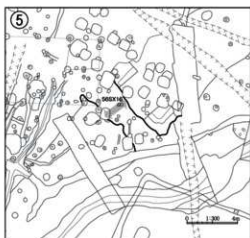
21SX35



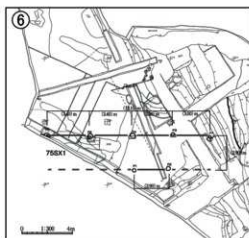
23SX12



41SX2



56SX16



75SX1

図42 柳之御所遺跡の横跡

79次調査区の79SX1土橋の周囲は72SD2堀跡の埋め戻し等が精緻な範囲とみられる。調査の制約から確認には至っておらず状況的な根拠にとどまるものの、79次調査範囲の前後で外側の堀跡(72SD2)が入念な埋め戻しを受けていることや周囲での遺構検出状況からは、この周囲に内側の堀跡に関わる橋跡が存在を想定することも可能と考える。ただし、当該範囲の詳細は堀外部の道路の検討や、未調査である堀に近接した外部の調査結果をふまえて理解する必要がある。

表10 柳之御所遺跡堀跡に関わる橋と推定位置

	内側の溝跡(56SD40)	外側の堀跡(21SD2・72SD2)	内側の堀跡(21SD1・72SD1)
南端部周辺		43次・69SX1周辺に想定 (南方向へ)	21SX35 (南方向へ) 23SX12 (北上川方向へ)
無量光院周辺			(75SX1) ※堀に直接架かるものではない可能性が高い
北端部周辺	56SX16土橋	79SX1 (中尊寺方向へ)	41SX1 (79SX1周辺に想定(中尊寺方向へ))

3 まとめ

(1) 78次調査

- ① 柳之御所遺跡の南側にあたる猫間ヶ淵跡の周辺部を調査し、堀跡2条と整地土層、関連する土坑などを確認した。堀跡は直接的な切り合い等はなく、時期等に不明な点は残るが、両者が平行して走ることを確認し、他の調査区と合わせて柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置が確認できた。
- ② 外側の堀跡(21SD2)の外側は猫間ヶ淵跡の低地部分を大規模な整地造成をして構築されていることがわかった。21SD2堀跡の位置が堀内部の平坦部から猫間ヶ淵跡の低地へと地形の変化する位置に設定されたことよるとみられる。
- ③ 内側の堀跡(21SD1)では外側の岸周辺で整地造成が行われ、平坦面が広く拡張されたことが確認できた。また、堰構築後、一定の時間を置いた上で、全体に埋め戻しが行われたことが確認できた。

(2) 79次調査

- ① 柳之御所遺跡の北西端の堀内部と外部が接する周辺を調査し、堀跡2条と外側の堀跡(72SD2)に架かる土橋状の遺構を確認した。
- ② 外側の堀跡(72SD1)は、79次調査区の範囲で構築時に掘り残して、土橋状(79SX1)になっていたことを確認した。堀内外部のそれぞれで確認されている道路遺構と連続するとみられ、遺跡の機能した時間幅のうち前半部に想定される段階から道路として機能したと把握できる。今後、残存が良好な範囲での道路の時期的な検討が課題となる。
- ③ 内側の堀跡(72SD2)は、既往の調査成果と連続する位置で確認した。

(櫻井)

V 付章 高館跡 9次調査の概要

1 高館跡の概要と調査計画

高館跡は柳之御所遺跡の遺跡範囲に隣接し、西側の丘陵に位置する。中尊寺が所在する関山丘陵からは東側にあたる。現在丘陵の頂部には義経堂が所在し、源義経の伝説とともに著名な遺跡である。これらの伝承などによりよく知られた地名である一方で、これまで数度の発掘調査が行われてきたものの、遺跡の遺構内容や時期、柳之御所遺跡との関係などに不明な点が多く残されてきた。

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の世界遺産拡張登録を目指して各種の事業に取り組んでいる。その中で柳之御所遺跡と隣接し地形的に関連性が想定できる高館跡についても調査研究を進め、この柳之御所遺跡に隣接した範囲と柳之御所遺跡との関係を検討することで柳之御所遺跡の位置づけや内容の評価にも重要な情報を得ることができると考えられた。そこで高館跡についても調査研究を行うこととし、上記のように遺跡の性格付けや時期を検討するための考古学的情報も不十分と考えられたことから3カ年の調査計画を立て発掘調査を実施することとした。平成28年度はその3年目に当たる。平成26・27年度の調査では、それまでの調査で確認されていた堀跡の位置を再確認し、規模などの把握を行ったほか、上部の平坦面の一部を調査し、遺構の分布状況を確認した。この成果を受けて、平成28年度は高館を囲むと推定される堀跡の追究を目的として2カ所にトレンチを設定した。

高館跡の発掘調査成果については、3カ年の調査実施後に発掘調査報告書を刊行する計画としている。しかし、各年度の発掘調査の内容について、概要の報告が必要と考えられ、柳之御所遺跡の概報と合わせて概要報告を行うこととする。なお、調査の経過の中で追加の確認が必要と考えられる範囲があることから平成29年度にも調査を行い、平成30年度に報告書を刊行する計画とした。

また、高館跡の調査では隣接する柳之御所遺跡の調査成果と総合して検討を行う必要性が高いものの、現在の遺跡範囲は異なり旧来の柳之御所遺跡のグリッド上から外れる部分が多い。さらに、局地的なグリッド設定としてもきわめて広い範囲になってしまうことから、位置関係の把握にも必ずしも有用な点だけはないことが想定された。ここでは世界測地系の座標に基づいてグリッド表記等を行っている。柳之御所遺跡および周辺との位置関係の把握については、調査時に旧測地系の座標を把握しておりこれにより行うことが可能である。

表11 高館跡の調査計画

年次	調査目的
平成26年(2014)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成27年(2015)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成28年(2016)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成29年(2017)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成30年(2018)	報告書刊行

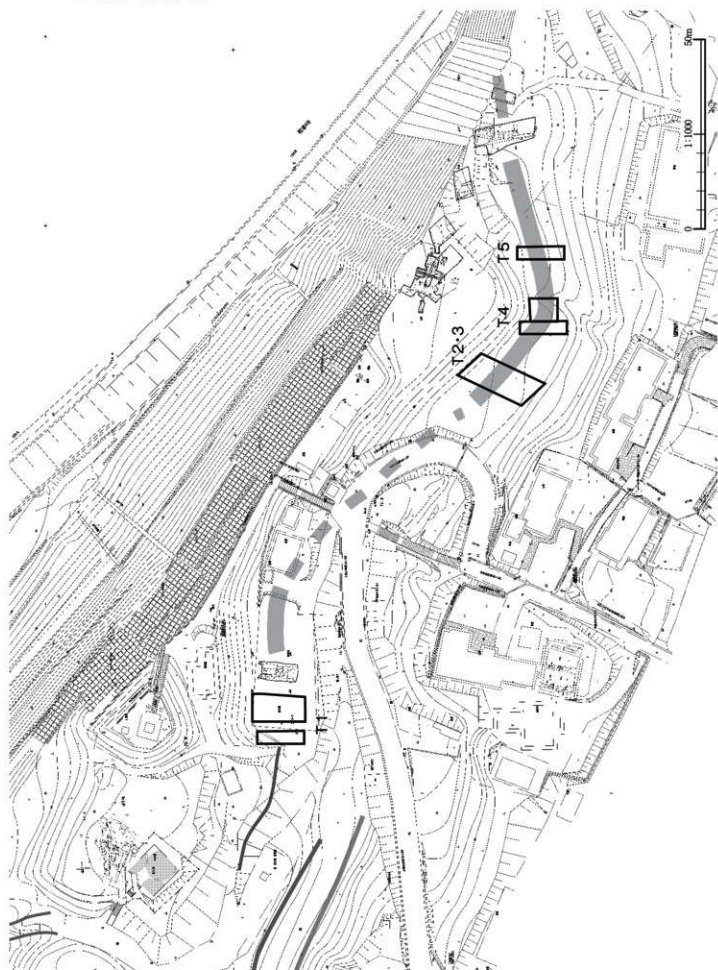


図43 高麗跡調査位置

2 高館跡9次調査の概要

① 調査の概要

高館跡9次調査では高館が位置する丘陵上部を囲むと推定される堀跡の位置の確認と、柳之御所遺跡側に近い範囲で平坦面を中心に遺構の分布を確認することを目的として3カ所に調査区を設定した(図43)。

② 各トレンチの内容

1 トレンチ (T1)

位置

堀跡の延長の確認を目的とし、高館の丘陵部の南側、現在の養経堂の直下の平坦面を対象としている。7次調査では丘陵東部の部分で堀跡を確認したが、走行方向などに課題も残されていた。そこで、丘陵の南西側などで堀跡の有無などを確認する必要があると考えられた。8次調査では周囲の平坦面の分布など地形の状況から、堀跡が延びる可能性がある想定できる範囲に、調査区を設定した。この範囲で堀跡を確認したものの走向方向などに課題も残されていた。そこで9次調査では堀の延長方向などの確認を目的として、8次調査の範囲に隣接して1トレンチを設定した。

1トレンチでは堀跡1条、溝跡2条、整地範囲を確認した。

遺構と遺物の概要

SD1堀跡は幅6.5mほどの規模で確認した。堀はそのまま西に延びるが、丘陵の傾斜方向に延びる縦方向の溝によって端部が壊されている。SD1堀跡は遺構の精査を行っていないが、8次調査の所見からは深さ2mほどのV字に近い形状が推察できる。SD1堀跡の北側は、駐車場等の造成時に平坦面が広げられたとみられ、本来は斜面を利用した形でSD1堀跡が構築されたとみられる。

SD1堀跡を壊すSD3溝跡は幅4～5mほど、現地表面からの深さ4mほどの大溝跡である。堆積土は自然堆積によるもので、下層等の遺物は少ない。上層では12世紀代の遺物や近世以降の遺物もみられるものの、量は極めて少ない。そのため時期比定の根拠は少ない。

SD1堀跡の南側では厚い整地土層が確認できる。整地層は土層の違いから7層に分けることができ、それぞれ地山起源の黄褐色土ブロック土を多く含むが、その包含の割合などが異なる。旧米の傾斜地を、SD1堀跡を掘削した際とみられる土層が掻き上げられて整地されたものとみられる。現在の地形では整地上上面は平坦面を形成しているが、これが整地時点での平坦な造成とみることができるかは確定できない。平成26年度の7次調査でもSD1堀跡の南側に掻き上げたとみられる整地層が確認でき、上層は平坦だったものの、後世の特に中世後期段階での改変の有無は不明である。12世紀段階で造成が行われた可能性が高いものの、施設の有無は確定できない。また、この整地層上面でSD1堀跡の南側で堀と平行するSD2溝跡を確認した。SD2溝跡はSD1堀跡と平行して走り、整地層上面から掘削されている。堆積土はいずれも自然堆積による。これらの整地層及びSD3溝跡はいずれもSD2溝跡によって壊されている。

1トレンチでの遺構変遷は下記のように捉えられる。

SD1堀跡・整地層 ⇨ (→) SD3溝跡 → SD2溝跡

2・3 トレンチ (T2・3)

位置

平成26・27年度の調査でトレンチを設定した平坦面の南側に設定した。現況の高館周辺では北上川

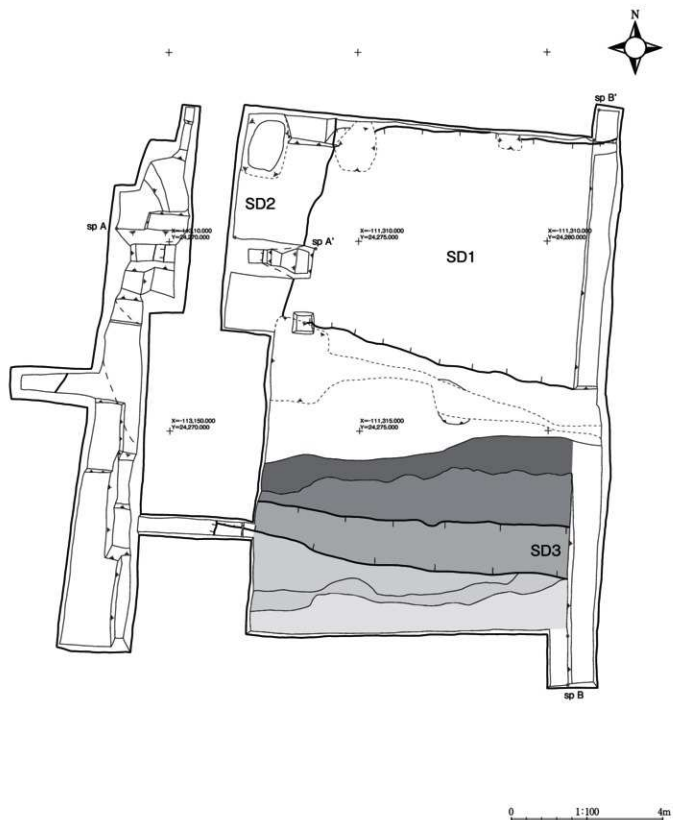


図44 T1遺構平面図

によって大きく丘陵が削られたこともあり、平坦な地形面は少なく、建物跡等の遺構の所在が推定できる範囲も限られる。トレンチを設定した位置は丘陵頂部からは一段下がるものの、頂部に近く比較的平坦な地形が確認できる場所である。

平成26・27年度の調査では遺跡頂部の下の平坦面で、堀跡を確認している。このトレンチはその平坦面が延長して伸びるように地形面が観察できる部分である。堀跡の延長や周囲の遺構の状況の確認を目的としている。

2・3トレンチでは堀跡1条、土坑2個を確認した。

遺構と遺物の概要

SD1堀跡は幅7mほどで確認している。斜面上方にあたる岸は斜面の傾斜を活かして広げられている。斜面下方は掘り込みをもっている。斜面下方の岸の周辺でも一部で整地が行われるものの、他の地点で確認できるような厚い整地等は看取されない。

下方の平坦部で土坑を2基確認しているが、遺物は出土せず、時期・性格は不明である。堆積土はいずれも自然堆積による。

4トレンチ (T4)

位置 2・3トレンチの南東付近に設定した。2・3トレンチ及び平成26・27年度調査範囲の平坦面の中間部分である。

現況の地形で、斜面上方から傾斜に沿って縦方向の溝状の範囲が観察でき、既往の調査で確認されている堀の延長の確認と縦方向の溝状の地形の性格を確認するためにトレンチを設定した。

堀跡1条、竪堀跡1条、焼土遺構3カ所を確認した。

遺構と遺物の概要

SD1堀跡は東西方向に確認したが、多くは後述の竪堀によって壊されており、断面での確認にとどまる部分も多い。そのため、規模等は必ずしも明確ではないが、幅6m以上、深さは2mほどと推察できる。

竪堀はこの堀跡を壊して傾斜方向に確認できる。現況地形で確認できる地形の窪みにあたり、調査では人工的な溝と把握できた。堆積土は自然堆積による。この竪堀によってSD1堀跡は壊されている。また、SD1堀跡の堆積土直上でこの堀跡の掘削土とみられる土層が堆積する。SD1堀跡の廃絶後、全体が埋まりきる以前には竪堀跡が構築されたとみられる。

なお、これまでの他地点でのSD1堀跡の堆積土でも上層部分は自然堆積のため、どの程度の時間幅をもって埋没したかは判断できていない。この地点での様相からは、SD1堀跡の掘削と溝跡(竪堀)の時間差が長期ではない、もしくはSD1堀跡の堆積には時間幅がある可能性が想定されよう。SD1堀跡が深さ2mほどと大規模なことや堆積土の様相でも遺物量などに差があることから、底面付近は傾斜上面からの堆積土により短期間の埋没の可能性が高いが、上層部分までの堆積には相応の時間幅をもつものと見なしておきたい。竪堀の底面では焼土が鉄滓とともに確認できた。

西側の平坦な範囲では焼土遺構が複数箇所確認できた。鍛冶等に関わるものとみられるが、地形の変更等もあり前半をうけており、鍛冶炉等の遺構は確認できなかった。この範囲ではSD1堀跡の傾斜下方にあたる南側の岸の層は確認できていない。整地等に伴って検出面がより下層にあたるか、より南側に位置するか確定が難しいが、規模からはやや南側を通る平面プランを想定できる。

遺物は12世紀代のかわけ、国産陶器が出土し、輸入陶磁器も少量ながら出土している。近世以降の遺物が少量、表土で出土しているものの、12世紀以降の遺物は少ない。また、竪堀部分からは羽口や弁片、鍛冶等に関連する可能性のある碎片が出土している。

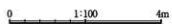
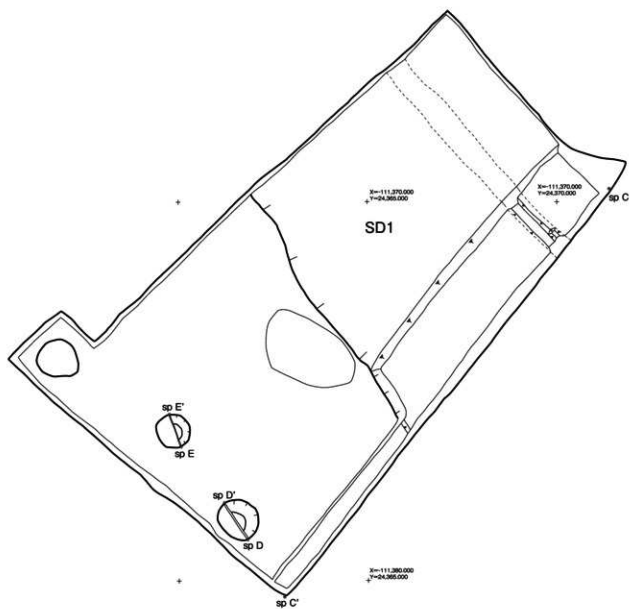
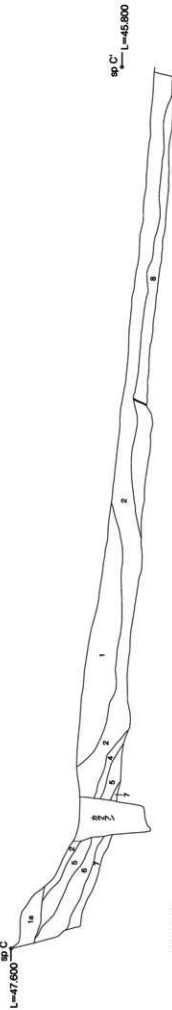


図46 T2・3平面図



8mの深さで採取

1 SDの厚い層 灰土、かひら分を含む、1m厚土、基本的に同質の土層、斜面からの崩落土のため色が濃い。
 2 SDの厚い層 石、かひら分を含む。
 3 SDの厚い層 灰化層から分片を少量含む、SDの厚土だが上層の人の、斜面下部のせいか層物も少ない。
 4 SDの厚い層 上部からの崩落土、5cm厚の粘土を多く含む。
 5 SDの厚い層 4層と上下厚さはほぼ同じだが不明、6と7の間に5.66mの厚さが見られる。
 6 SDの厚い層 上部からの崩落土、かひら分を含む、6.5mは多いが7の下層は多くなる、ここからSDの粘土(傾斜時に近い)。
 7 SDの厚い層 灰化層、かひら分を含む。
 8 SDの外側の崩落土か 崩落土を含む、堆積土か。



SK(D-D)

1 10YR4/2 灰黄褐色土、しおろし、粘性強い、黄土(堆山アロック 崩壊面 8層)。
 2 10YR4/2 灰黄褐色土、しおろし、粘性強い、8層の堆山アロックが入らない。
 12m以上も遺物・灰化層は入らない、崩出系の明るいうプロックを含む、2層がSDの崩壊層とすればそれより新しい。
 1層はしまりが深いため、年代は不明、表土に近い黄土のため新しい可塑性もある。

SK(E-E)

1 10YR4/1 灰黄色土、しおろし、粘性強い、SK1の2層に似るがやや明るみの多い土層。
 2 2.5Y5/2 灰黄褐色土、しおろし、粘性強い。
 12m以上も遺物・灰化層は入らない、崩出系の明るいうプロックを含む、2層がSDの崩壊層とすればそれより新しい。
 1層はしまりが深いことから同層の時間とみられるが、遺物や遺物か、崩壊層が深さによって異なる部分がある。

図47 T2・3断面図

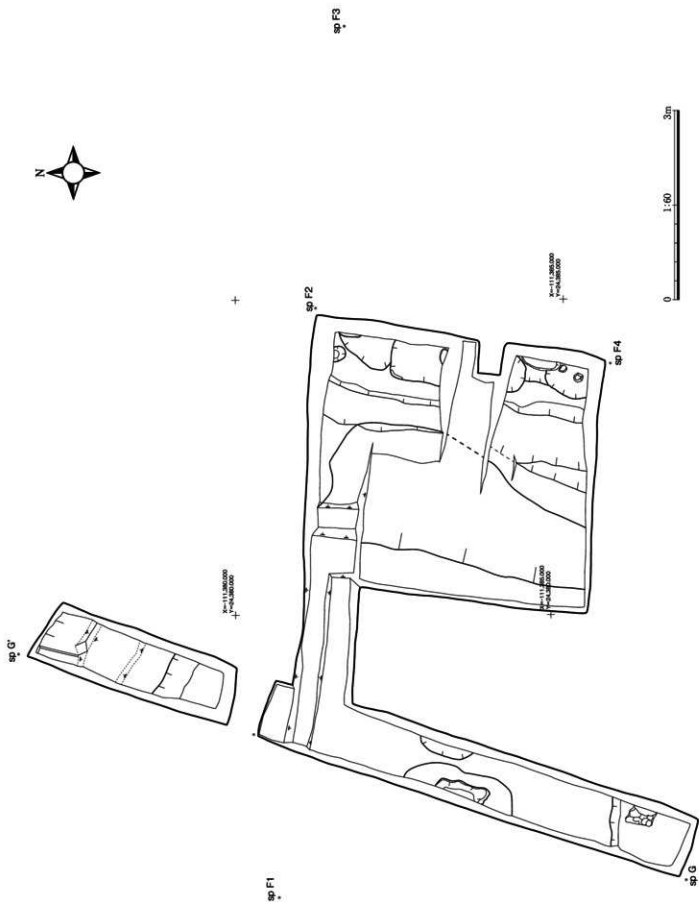
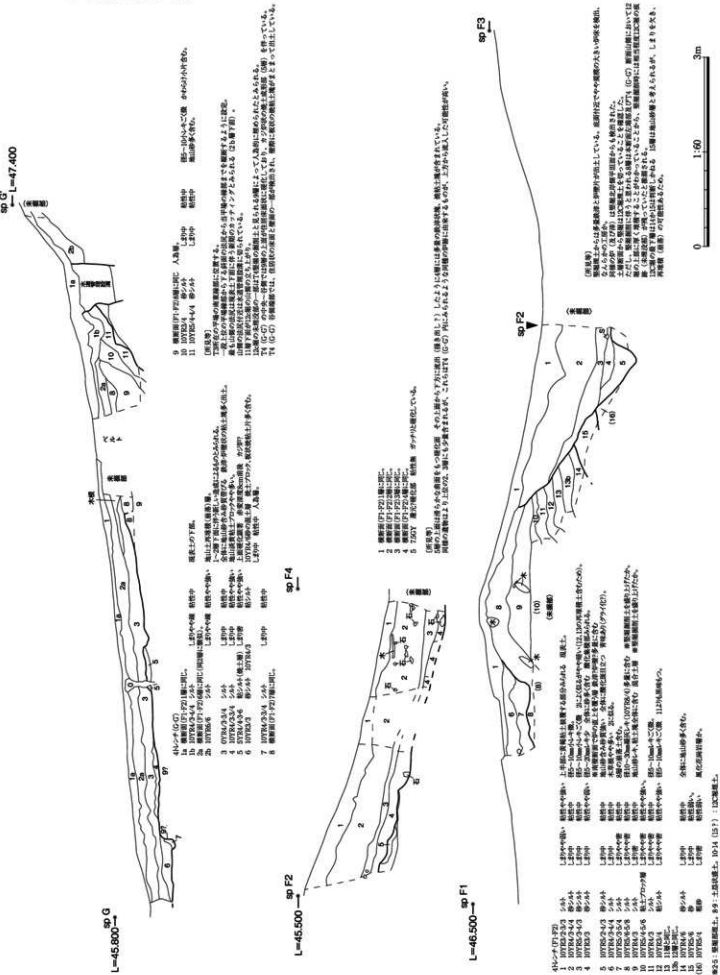


図48 T4 平面図

図49 T4断面図



このトレンチでは堀跡→堅堀・焼土遺構の変遷が確認できた。堀跡は12世紀の遺構と考えられ、縦方向の溝等はこれよりも新期の遺構とみられる。遺物が少ないため、確定できないが、中世後期の城館跡に関連する可能性が高い。なお焼土遺構に関連する鉄滓などは平成27年度調査で、高館の上部平坦面でも確認されており、この周囲で鍛冶等が行われた可能性が高いとみられる。

5 トレンチ (T5)

位置 平成26・27年度の調査でトレンチを設定した平坦面の南側に設定した。現況の高館周辺では北上川によって大きく丘陵が削られたこともあり、平坦な地形面は少なく、建物跡等の遺構の所在が推定できる範囲も限られる。トレンチを設定した位置は丘陵頂部からは一段下がるものの、頂部に近く比較的平坦な地形が確認できる場所である。平成26・27年度の調査では遺跡頂部の下の平坦面で、堀跡を確認している。このトレンチはその平坦面が延長して伸びるように地形面が観察できる部分である。

堀跡1条を確認した。

遺構と遺物の概要

堀跡はトレンチの中央付近を東西方向に走る状況で検出している。堆積土はいずれも自然堆積による。斜面上方の岸は本来の地形面を削って造成が行われている。斜面下方は掘り込みを確認している。整地等の土層は確認できていない。SD1堀跡の堆積土より上層の部分は斜面に沿って、土層が流出したとみられる。そのため、他の地点の調査成果から斜面下方にあたる、整地等も流出した可能性も残るが、旧地形のありかたからは大規模な整地等は想定が難しい。

③ 調査成果の概要

高館跡が所在する丘陵中腹で大きな堀跡SD1を確認することができた。遺構の時期に関連する遺物は少ないが、12世紀代に限定されており、これまで得られている成果からは当該時期の遺構の可能性が高いと判断できる。1トレンチ及び平成27年度調査で確認しているSD1堀跡が2～5トレンチ及び平成26年度調査で確認している堀跡とつながる可能性が高いものと考えている。しかし、両トレンチの中間部では高低差が存在しており課題も残る。

また高館の遺跡範囲の各所で、この堀跡を壊す縦方向の溝跡（堅堀跡）が分布することが確認できた。時期の特定には至っていないが、SD1堀跡よりも新しく、中世後期以降の可能性が高いとみられる。これらの遺構を含め、高館の遺構分布と変遷の理解には周囲の遺構や遺物と合わせて検討する必要がある。

なお、既述の通り高館跡の正式な報告は調査終了後に行う予定としており、遺物の報告や全体の位置づけはその際に行うこととした。

(櫻井)

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡-第56次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2010a 『柳之御所遺跡-第69次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2010b 『柳之御所遺跡-第I期保存整備事業報告書』岩手県文化財調査報告書第131集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡-第70次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡-第72次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県教育委員会 2014 『柳之御所遺跡-第74次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第140集
- 岩手県教育委員会 2015 『柳之御所遺跡-第75次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第144集
- 岩手県教育委員会 2016 『柳之御所遺跡-第76次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第147集
- 岩手県文化振興事業同環蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化振興事業同環蔵文化財調査報告書第228集
- 太平府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡X V-陶磁器分類編-』太平府市の文化財第49集
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書-第35次調査概報-』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書-柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査-』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- 前川佳代2007 『「聖地」平泉』『平泉文化研究年報』第7号 岩手県教育委員会 pp.15-30
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古陶の講 中世のやきもの』
- 八重樫忠郎 2010 『消費地からの洞美欄年』『洞美半島の考古学』小野田勝一先生追悼論文集 pp.289-299
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 『柳之御所遺跡内部地区の遺構変遷（中間報告 その4）』『平泉文化研究年報』第8号 pp.65-75

表12-1 78次遺物観察表(かわらけ)

内蔵番号	器種名	グリッド	出土地点	高橋名	停止方位	口径	器高	底径	重量	色別	備考	登録番号
1	ロタロ大		21SD1	T1	25度	(13)			10.2	5YR6/6黄	内筒油跡?付着	78ok120
2	ロタロ大		21SD1	T1	25度			6.4	49.4	7.5YR8/2灰白		78ok121
3	手づくね小		21SD1	T1	25度	(8.8)	(1.3)		24.7	10YR5/1灰灰		78ok19
4	手づくね大		21SD1	T1	25度			3.2	33.1	5Y8/1灰白		78ok18
5	手づくね大		21SD1	T1	25度			3	12.9	5Y8/1灰白		78ok19
6	ロタロ小		21SD1	T1	20度	(9.2)	1.6		47.1	7.5YR6/4にぶい型		78ok18
7	ロタロ大		21SD1	T1	20度	13.2	3.4		104.7	内筒:10YR8/3洗黄灰	外筒:5YR7/6黄	78ok16
8	手づくね小		21SD1	T1	20度		9.4	1.8	55.8	10YR8/2灰白		78ok17
9	手づくね大		21SD1	T1	20度	13.4	(2.4)		138.1	10YR8/2灰白		78ok12
10	手づくね大		21SD1	T1	20度	13.7	2.9		150.9	10YR8/2灰白		78ok13
11	手づくね大		21SD1	T1	20度	(15.6)	3.6		71.4	10YR8/3洗黄灰		78ok14
12	手づくね大		21SD1	T1	20度	(13.6)	(2.6)		58.1	10YR8/2灰白		78ok15
13	ロタロ大		21SD1	T1	18度	14.1	4.3		218.8	7.5YR7/6黄		78ok103
14	手づくね小		21SD1	T1	18度		9	1.7	54.3	10YR8/2灰白		78ok128
15	手づくね小		21SD1	T1	18度		9.6	1.9	39.1	10YR7/2にぶい黄緑		78ok129
16	手づくね小		21SD1	T1	18度	(9.6)	1.9		29.4	10YR8/4洗黄灰		78ok130
17	手づくね小		21SD1	T1	18度		8.7	1.8	61.6	10YR8/3洗黄緑		78ok131
18	手づくね小		21SD1	T1	18度		8.6	1.9	58.8	10YR8/3洗黄緑		78ok132
19	手づくね大		21SD1	T1	18度	15.3	3		103.9	2.5YR1/灰白		78ok122
20	手づくね大		21SD1	T1	18度	15.4	2.3		51.5	10YR8/2灰白		78ok123
21	手づくね大		21SD1	T1	18度	14.6	2.9		79.5	2.5YR3/洗黄		78ok124
22	手づくね大		21SD1	T1	18度	13.2			45.3	10YR8/2灰白		78ok125
23	手づくね大		21SD1	T1	18度	13.8	2.8		115.6	10YR7/2にぶい黄緑		78ok126
24	手づくね大		21SD1	T1	18度	13.7	3		174.4	10YR8/2灰白		78ok127
25	ロタロ小	77-100	21SD1	T1	17度				5.3	43.3	10YR8/2灰白	78ok111
26	ロタロ大	77-100	21SD1	T1	17度	11.2	3.5		33	2.5YR7/6黄		78ok112
27	ロタロ大		21SD1	T1	17度			6.6	91.9	10YR8/3洗黄青		78ok116
28	手づくね小		21SD1	T1	17度	(8.8)	2.4		59.3	2.5YR7/灰白		78ok114
29	手づくね小		21SD1	T1	17度		9.6	2	81.6	2.5YR7/2灰白		78ok115
30	手づくね小	77-100	21SD1	T1	17度		8.8	1.7	21.4	2.5Y7/2洗黄		78ok113
31	手づくね大		21SD1	T1	17度	(10.8)	2		31.3	10YR8/2灰白		78ok10
32	手づくね小	77-100	21SD1	T1	17度	10.3	3.2		25.4	10YR7/1灰白		78ok121
33	手づくね大		21SD1	T1	17度	(12.7)	3.4		84.4	10YR8/3洗黄青		78ok112
34	手づくね大		21SD1	T1	17度	(14.8)	2.8		112	10YR8/2灰白		78ok113
35	手づくね大		21SD1	T1	17度		2.5	5.5	55	2.5YR7/1灰白		78ok117
36	手づくね大		21SD1	T1	17度	(12.5)	2.7		98.3	2.5YR7/2灰白		78ok134
37	手づくね大		21SD1	T1	17度	(11.7)	2.5		51.6	10YR8/3洗黄緑		78ok111
38	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	13.7	3		107.3	2.5Y7/2洗黄		78ok112
39	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	13.8	2.7		55.5	2.5Y7/2洗黄		78ok113
40	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	11.9	3.7		42	2.5YR7/2灰白		78ok113
41	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	12.7	2.5		76.8	2.5YR7/2灰白		78ok113
42	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	(14.6)	(3.3)		38.1	2.5YR7/3洗黄		78ok149
43	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	11.8	3.9		49.1	2.5Y7/2洗黄		78ok145
44	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	(13.8)	3.25	(7.3)	94.6	2.5YR7/2灰白		78ok146
45	手づくね大	77-100	21SD1	T1	17度	(13.7)	2.75	(6.9)	81.2	10YR8/1灰白		78ok147
46	ロタロ小	77-100	21SD1	T1	16度	(8.7)	1.8	(6)	68.2	10YR7/4にぶい黄緑		78ok193
47	ロタロ小	77-100	21SD1	T1	16度	(8.5)	(1.7)	(6)	22.2	10YR7/2にぶい黄緑		78ok196
48	ロタロ小	77-100	21SD1	T1	16度		1.7	4.6	72.6	7.5YR7/4にぶい黄		78ok202
49	ロタロ小	76-101	21SD1	T1	16度	8.8	3.2	(6.3)	49	10YR8/3洗黄青		78ok207
50	ロタロ小	77-100	21SD1	T1	16度			6.2	33.8	5YR7/4にぶい黄		78ok208
51	ロタロ小	77-100	21SD1	T1	16度	8.2	3.2	(5.9)	18.6	5YR7/4にぶい黄		78ok214
52	ロタロ小		21SD1	T1	16度	8.5	(1.7)	(6.0)	33	7.5YR7/1灰白		78ok157
53	ロタロ大	77-100	21SD1	T1	16度			7.2	67.1	2.5Y7/1灰白		78ok138
54	ロタロ大		21SD1	T1	16度	8.8			65.7	10YR8/3洗黄青		78ok151
55	ロタロ大		21SD1	T1	16度	8.8		(6.5)	40.6	10YR7/2にぶい黄緑		78ok156
56	ロタロ大		21SD1	T1	16度	13.6	3.2	6.7	135	7.5YR8/2灰白		78ok158
57	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16度	8.5	1.8		68.6	10YR8/2灰白		78ok134
58	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16度	9.7	2.3		71.5	10YR8/2灰白		78ok135
59	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16度	(9.8)	1.1		53.2	2.5Y7/3洗黄		78ok180
60	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16度	9	1.5		63.7	10YR8/2灰白		78ok181
61	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16度	7.9	2.1		51.2	2.5Y7/2洗黄		78ok182

表12-2 78次遺物観察表(かわらけ)

河原番号	器種名	グリッド	出土地点	高橋名	修正部位	口径	高さ	底径	重量	色澤	備考	登録番号
62	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	(9.2)	1.7		65.7	2.5V8/2灰白		78Rok187
63	手づくね小	76-101	21SD1	T1	16a層	9.1	1.8	6	28.1	2.5V8/2灰白		78Rok193
64	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	9.8	2		39.6	2.5V8/3灰黄		78Rok198
65	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層	8.8	2.3		29.7	40YR8/2灰黄褐		78Rok199
66	手づくね小	77-100	21SD1	T1	16a層		10	2	38.1	40YR7/2にふい青粉		78Rok209
67	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(9.3)	2.2		40	40YR7/2にふい青粉		78Rok42
68	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	10	2.3		39.1	40YR7/2にふい青粉		78Rok48
69	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	8.9	1.7		61.1	2.5Y7/2灰青		78Rok49
70	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	9.6	2.1		36.2	2.5Y7/2灰青		78Rok450
71	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(8.9)	(1.9)		28.7	40YR7/1灰白		78Rok53
72	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	9.3	2		65.9	2.5Y7/2灰青		78Rok83
73	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(8.1)	1.9		24.5	2.5Y7/2灰青		78Rok64
74	手づくね小		21SD1	T1	16a層相当	(7.6)	(1.9)		23.4	2.5V8/1灰白		78Rok65
75	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.6	2.8		134.5	2.5V8/2灰白		78Rok1
76	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	9.1	2.4		31.1	2.5Y7/2灰青		78Rok123
77	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.8	2.5		41.1	2.5Y7/2灰青		78Rok124
78	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.6	3		38.1	2.5V8/2灰白		78Rok125
79	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	11.8	2.7		34.4	40YR8/3灰黄褐		78Rok131
80	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.2	3.2		32.3	40YR8/2灰白		78Rok132
81	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(14)	(2.2)		34.2	2.5V8/3灰黄		78Rok133
82	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	10.9	2.2		70.8	2.5Y7/2灰黄		78Rok136
83	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.4	2.4		83	40YR8/2灰白		78Rok137
84	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	11.8	2.8		33.9	2.5V8/2灰白		78Rok142
85	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.8		38.9	2.5Y7/2灰青		78Rok143
86	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.8	3		87.9	2.5Y7/3灰黄		78Rok144
87	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(12.6)	2.8	(7.4)	75.3	40YR8/1灰白		78Rok148
88	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.7	2.8		48	40YR8/3灰黄褐		78Rok177
89	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.2		84.1	2.5V8/2灰白		78Rok178
90	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.6	2.9		72	2.5V8/3灰青		78Rok179
91	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(12.4)	(2.4)		78.9	40YR8/3灰黄褐		78Rok183
92	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	14	2.3	8	73	40YR8/2灰白		78Rok184
93	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.6	2.6	7	86.8	40YR8/4灰黄褐		78Rok183
94	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.9	2.9		196	2.5Y7/3灰青		78Rok186
95	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13	2.2	9.9	36.4	2.5V8/2灰白		78Rok188
96	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(15.3)	(2.3)		24.7	40YR8/3灰黄褐	内側にこげあり	78Rok189
97	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(10)	(2.3)		47.2	40YR8/3灰黄褐		78Rok190
98	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	11.7	2.3		36.2	40YR8/3灰黄褐		78Rok191
99	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	11.2	2.9	7	66.2	2.5V8/2灰白		78Rok192
100	手づくね大	76-101	21SD1	T1	16a層	12.4	2.6	7	69.2	2.5V8/3灰黄		78Rok194
101	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	(13.4)	(2.8)		33.4	2.5V8/2灰白		78Rok197
102	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	3		127.2	2.5V8/3灰黄		78Rok200
103	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	10.9	2.3		26.3	2.5Y7/2灰黄		78Rok201
104	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.7	2.7		31.2	7.5YR8/4灰黄粉		78Rok204
105	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.8		67	40YR8/2灰白		78Rok203
106	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.7	2.9		88.7	40YR8/3灰黄粉		78Rok206
107	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.7	2.2		39.8	2.5V8/2灰白		78Rok210
108	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13	2.4		74.8	2.5V8/3灰青		78Rok211
109	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	12.8	2.3		37.8	40YR8/3灰黄粉		78Rok212
110	手づくね大	77-100	21SD1	T1	16a層	13.5	3		118.7	7.5YR8/4灰黄粉		78Rok213
111	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.4)	2.9		40.9	40YR8/2灰白		78Rok43
112	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	12.2	2.5		103.1	40YR8/4灰黄粉		78Rok44
113	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(13.6)	3.3		42.6	40YR7/2にふい青粉		78Rok45
114	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(15.3)	(2.9)		40.1	40YR7/2にふい青粉		78Rok46
115	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.6)	(3.1)		65.7	40YR8/1灰白		78Rok47
116	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14)	(3.1)		92.2	2.5Y7/2灰黄		78Rok52
117	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	10.4	2		54	40YR7/2にふい青粉		78Rok54
118	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	11.3	1.8		49.9	40YR7/2にふい青粉		78Rok55
119	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	12.4	2.3		107.5	5V8/2灰白		78Rok61
120	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(11.2)	2.9		81.1	40YR7/2にふい青粉		78Rok62
121	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当	(14.1)	(3)		62.5	2.5Y7/2灰黄		78Rok75
122	手づくね大		21SD1	T1	16a層相当				7.5	40YR8/2灰白	出青	78Rok58

表12-3 78次遺物観察表(かわらけ)

再録番号	器種名	グリッド	出土地点	高橋名	停止方位	門径	器高	底径	口径	器内	包内	備考	再録番号
123	手づくね大		21SD1	T1	16cm幅出				10.1	10YR7/3に赤い黄緑	赤青		780a39
124	内折丸	77-100	21SD1	T1	16cm幅	(9)	(0.8)		15.2	10YR8/2灰白			780a139
125	内折丸	77-100	21SD1	T1	16cm幅		(0.8)		2.3	10YR8/3浅黄緑			780a233
126	内折丸	77-100	21SD1	T1	16cm幅		(0.8)		3.7	2.5Y8/3黄			780a256
127	ロタロ大	77-100	21SD1	T1	6-15cm			8.6	173.2	7.5YR7/4に赤い粉			780a339
128	ロタロ大	76-101	21SD1	T1	6-17cm幅出	12.8	1.8	(7)	61.3				780a245
129	棒状高片	76-99	21SD1	T1	3cm以上相当		(2.5)	5.6	54.4	10YR8/2灰白			780a243
238	ロタロ小		21SD1	T2	11・12層	(8.8)	1.8	(6.4)	16	7.5YR7/4に赤い粉			780a74
239	ロタロ小	76-100,77-100	21SD1	T2	11・12層	8.3	1.5	5.7	54.7	10YR8/3浅黄緑			780a150
240	ロタロ小		21SD1	T2	11・12層	(9)	(1.0)	(6.8)	17.3	2.5Y7/2黄			780a67
241	ロタロ大		21SD1	T2	11・12層	(12.3)			42.5	7.5YR7/2明黄緑			780a77
242	ロタロ大		21SD1	T2	11・12層	13.1	3.3	7.2	305.4	10YR8/1灰白			780a73
243	手づくね小		21SD1	T2	11・12層	(7.8)	3.1		30.7	10YR7/2に赤い黄緑	黄緑?付着		780a66
244	手づくね小		21SD1	T2	11・12層	(8.7)	(2.2)		32.6	2.5Y7/2灰黄			780a70
245	手づくね大		21SD1	T2	11・12層	(13.7)	(2.0)		53.8	2.5Y7/2灰黄			780a68
246	手づくね大		21SD1	T2	11・12層	(13.8)	(2.5)		26.2	2.5Y7/2灰黄			780a65
247	手づくね大		21SD1	T2	11・12層	(14.6)	(3.4)		80.6	10YR7/1灰白			780a72
248	ロタロ小		21SD1	T2	7層	(8.8)	1.6	(5.8)	31.3	2.5Y7/2灰黄			780a117
249	ロタロ大		21SD1	T2	7層				42.1	7.5YR8/1灰白	内・外・断面等で黒い		780a77
250	ロタロ大		21SD1	T2	7層			(6.4)	19.5	7.5YR7/3に赤い粉			780a84
251	ロタロ大		21SD1	T2	7層	13.8	3		48.9	7.5YR6/1明黄			780a98
252	ロタロ大		21SD1	T2	7層		(1.4)	6.7	38.1	2.5Y7/2灰黄			780a106
253	ロタロ大		21SD1	T2	7層			(10)	48.3	10YR8/2灰白			780a116
254	手づくね小	76-100,77-100	21SD1	T2	7層	(9.4)	1.6		24.3	10YR7/2に赤い黄緑			780a35
255	手づくね小		21SD1	T2	7層	8	1.7		31.9	2.5Y7/1灰白			780a89
256	手づくね小		21SD1	T2	7層	9.2	1.9		57.3	5Y7/2灰白			780a99
257	手づくね小		21SD1	T2	7層	(8.2)	(1.5)		54.4	2.5Y7/2灰黄			780a104
258	手づくね小		21SD1	T2	7層	8.5	1.5		60.6	10YR8/2灰白			780a105
259	手づくね小		21SD1	T2	7層	8.7	1.7		53.5	10YR8/2灰白			780a120
260	手づくね小		21SD1	T2	7層	9.3	1.8		35	2.5Y6/2に赤い黄			780a114
261	手づくね小		21SD1	T2	7層	(9.8)	(1.8)		25.3	7.5YR6/1明黄			780a115
262	手づくね小		21SD1	T2	7層	(9.5)	(1.6)		27	7.5YR8/2灰白			780a90
263	手づくね小		21SD1	T2	7層	9.7	1.8		26.2	2.5Y7/2灰黄			780a97
264	手づくね大		21SD1	T2	7層	14.4	3.3		209.4	2.5Y7/2灰黄			780a26
265	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.9	2.9		244.3	10YR8/2灰白			780a37
266	手づくね大	76-100,77-100	21SD1	T2	7層	14	3.4		173.7	10YR7/2に赤い黄緑			780a38
267	手づくね大		21SD1	T2	7層		3.8		231.7	7.5YR8/2灰白			780a40
268	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.8	2.9		169.9	10YR8/2灰白			780a41
269	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.8	2.3		88.2	2.5Y8/3浅黄			780a81
270	手づくね大		21SD1	T2	7層	(15.1)	(3.4)		58.6	7.5YR7/2明黄緑			780a82
271	手づくね大		21SD1	T2	7層	(15.2)	(2.6)		39.3	2.5YR8/2灰白			780a83
272	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.6)	2.2		29.7	2.5Y7/2灰黄			780a86
273	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.9)	(3.4)		33.9	2.5Y6/2黄			780a87
274	手づくね大		21SD1	T2	7層	(11.6)	(2.4)		44.4	10YR6/2黄黄緑			780a88
275	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.6)	(2.5)		41.8	10YR7/2に赤い黄緑			780a91
276	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.8	2.7		67.3	2.5Y8/2灰白			780a92
277	手づくね大		21SD1	T2	7層	(14.7)	(3)		52.9	10YR7/3に赤い黄緑			780a93
278	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13.3)	(2.5)		49.7	2.5Y7/1灰白			780a94
279	手づくね大		21SD1	T2	7層	13.3	2.4		108.3	10YR8/2灰白			780a95
280	手づくね大		21SD1	T2	7層	11.3	3.3		34.5	2.5Y8/2灰白			780a96
281	手づくね大		21SD1	T2	7層	10.7	2.8		70.4	2.5Y7/1灰白			780a109
282	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.7)	(2.6)		42.7	10YR8/2灰白			780a101
283	手づくね大		21SD1	T2	7層	(13)			48.4	2.5Y8/1灰白			780a102
284	手づくね大		21SD1	T2	7層	(12.8)	(2.3)		23.1	2.5Y6/2灰黄			780a103
285	手づくね大		21SD1	T2	7層	(14.4)	(2.5)		27.1	2.5Y7/2灰黄			780a107
286	ロタロ大		21SD1	T2	7層	(13.4)			35.7	10YR7/3に赤い黄緑			780a109
287	手づくね大		21SD1	T2	7層	(15.4)	(2.9)		53.9	2.5Y7/2灰黄			780a110
288	手づくね大		21SD1	T2	7層	15.7	3.5		127.2	7.5YR6/1明黄	内縁部塗黒		780a111
289	手づくね大		21SD1	T2	7層	14	2.9		220.6	2.5Y7/1灰白			780a118
290	手づくね大		21SD1	T2	7層	14.8	3.1		106.9	10YR7/2に赤い黄緑			780a119
291	ロタロ大		21SD1	T2	7層	12.6	3.2		29.4	2.5Y7/3浅黄			780a152

表12-4 78次遺物観察表(かわらけ)

調査番号	器種名	グリッド	出土地点	高層名	修正層位	口径	器高	底径	重量	色澤	備考	登録番号
292	内折れ		21SD1	T2	7層				9.2	40YR8/2灰白		78K0479
293	ロクロ小	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	8.3	2.1	(6.3)	39.5			78K04820
294	ロクロ大	76-100	21SD1	T2	2-4層相当			(8.0)	62.9	7.5YR8/1灰黄緑		78K04822
295	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	8.8	1.6		26.6	2.5Y7/4灰黄		78K04824
296	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	8.2	2		22.1			78K04824
297	手づくね小	76-100	21SD1	T2	2-4層相当	8.8	1.7		46			78K04824
298	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	7.8	1.6		26.2	10YR8/3浅黄緑		78K04826
299	手づくね小	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	9.8	1.8		26.6			78K04828
300	手づくね小	76-100	21SD1	T2	2-4層相当	7.8	1.7		21			78K04829
301	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	12.8	3		36.1	2.5Y8/3灰黄		78K04835
302	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	13.8	2.8		116.4	5YR8/3淡緑		78K04836
303	手づくね大	76-100	21SD1	T2	2-4層相当	13.2	2.3		30.7			78K04835
304	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	12.8	2.7		37.9	2.5Y8/2灰白		78K04835
305	手づくね大	76-100	21SD1	T2	2-4層相当	12.4	2.8		69.3	2.5Y8/2灰白		78K04827
306	手づくね大	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	13	2.6		31.8			78K04844
307	杜林高台	76-100	21SD1	T2	2-4層相当			5	30.7	7.5YR8/2灰白		78K04842
308	内折れ	77-100	21SD1	T2	2-4層相当		(0.7)		2.1	10YR8/2灰白		78K04833
309	内折れ	77-100	21SD1	T2	2-4層相当		(0.9)		9.2	2.5Y7/3浅黄		78K04834
310	手づくね大		21SD1	T2		14.8	3		28.2	40YR7/4に赤い黄緑		78K04851
311	手づくね大		21SD1	T2	7層				13.8	40YR7/2に赤い黄緑	番号 78K048113と一致	78K0480
363	ロクロ小		21SD1	T3		8.8	1.3	(6)	26.5	7.5YR7/6黄		78K04813
364	ロクロ小		21SD1	T3		7.9	1.3	(5.8)	37	7.5YR7/6黄		78K048170
365	手づくね小		21SD1	T3		7.8	1.3		37.7	40YR8/4浅黄緑		78K04869
366	手づくね小		21SD1	T3	19層下	8.2	2.8		44.8	10YR8/3浅黄緑		78K04873
367	手づくね小		21SD1	T3	19層下	8.8	1.7		58	10YR8/2灰白	内面油跡あり	78K04874
368	手づくね大		21SD1	T3	東平部 拵	14.8	3.2		100.2	2.5Y8/3浅黄		78K04855
369	手づくね大		21SD1	T3		(13.2)	2.2		67.4	10YR8/2灰白		78K04872
370	手づくね大		21SD1	T3		(14)	2.3		96.8	10YR8/3浅黄緑		78K04875
371	手づくね大		21SD1	T3	19層下	12.4	2.6		56	2.5Y8/2灰白		78K04876
378	ロクロ大	77-100	21SD1			(13.6)	(3.9)	(9.1)	37.8	10YR8/1灰白		78K04860
379	ロクロ大	77-100	21SD1			(13.6)	(3.8)	(7.2)	80.8	10YR8/2灰白		78K04861
380	ロクロ大	77-100	21SD1			(3.6)			60.1	10YR8/3浅黄緑		78K04862
381	ロクロ大	77-100	21SD1			14	3.8	7	212.7	7.5YR7/3に赤い黄		78K04863
382	ロクロ大	77-100	21SD1			(4)	7.6		97.3	7.5YR7/4に赤い黄		78K04864
383	手づくね大	77-100	21SD1			(11.8)	(2)		30.5	7.5YR8/2灰白		78K04859
383	ロクロ小		21SD2		出土側	8.2	2	3.6	61.7	10YR8/3浅黄緑		78K04853
394	ロクロ大	75-102	21SD2		出土側			(8)	19.6	40YR7/4に赤い黄緑		78K04857
395	ロクロ大	75-103付近	21SD2		出土側	12.6	3.3	(7.8)	61	7.5YR7/6黄		78K04853
396	手づくね小	74-102	21SD2		-	(9.2)	2		61.2	7.5YR7/4灰白		78K04856
397	手づくね大		21SD2		出土側	(13)	(2.4)		33.6	10YR8/2灰白		78K04854
398	手づくね大	75-104	21SD2		出土側				21	2.5Y8/2灰白		78K04858
399	内折れ	95-97	78SD1				(1)		3.8	7.5YR8/4浅黄緑		78K04867
400	内折れ	95-97	78SD1				(1.1)		4.9	40YR7/3に赤い黄緑		78K04868
401	内折れ		78SD1				(0.8)		5.1	40YR7/4に赤い黄緑		78K04829
	手づくね	77-100	21SD1	T1	16層				6.2			78K04803
	内折れ	77-100	21SD1	T1	16層				5			78K04827
	手づくね大		21SD1	T1	16層相当				16.2			78K04860
	手づくね	76-100	21SD1	T2	2-4層相当				3.9			78K04828
	手づくね	76-100	21SD1	T2	2-4層相当				3.5			78K04829
	手づくね		21SD1	T2	7層				3.6			78K04885
	手づくね		21SD1	T2	7層				3.5			78K04808
	手づくね		21SD1	T2	7層				4.9			78K04812
	手づくね		21SD1	T3					3.7			78K04866
	内折れ	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	(9.9)			3.9	40YR7/4に赤い黄緑		78K04840
	内折れ	77-104	21SD1	T1	5層以上相当	(6.6)			2.6	10YR8/2灰白		78K04841
	手づくね	76-100	21SD1	T1	5層以上相当				4			78K04820
	手づくね	76-100	21SD1	T1	5層以上相当				3.8			78K04831
	内折れ	76-104	21SD1	T1	5層以上相当	(0.8)			4.2	2.5Y7/3浅黄		78K04835
	内折れ	77-100	21SD1	T1	6層下層相当	(1.1)			12.5	10YR8/2灰白		78K04849
	内折れ	77-100	21SD1	T1	2-4層相当	(0.7)			3.7	10YR7/3に赤い黄緑		78K04838

表13-1 78次遺物観察表 (国産陶器)

和歌番号	種類	器種名	部位	出土状況	出土地点	遺構名	層位	高さ (g)	色調	備考	製品番号
130	常滑	壺	体部		21SD1	T1	25層	25.3	外: 5Y4/3緑オリーブ 内: 2.5YR5/1黄灰		780a254
131	河火	釜	体部		21SD1	T1	17a層	45.8	外: 5YR5/1黄灰 内: 5Y6/2灰オリーブ		780a255
132	河火	釜	底面		21SD1	T1	17a層	88.6	7.5Y7/1灰白		780a256
133	河火	壺	胴部	77-100	21SD1	T1	17a層 2-4層埋当	51.3	外: 5G7/1明オリーブ 内: 2.5YR5/1黄灰		780a173 780a126
134	河火	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	98.2	外: 2.5YR5/1黄灰 内: 2.5Y5/1黄灰		780a175
135	常滑	壺	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	31.1	K3-0度		780a176
136	福美	壺	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	23.5	外: 5YR6/4に赤い粒 内: 5YR5/2黄灰		780a177
137	河火	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	35	10YR5/2黄灰		780a178
138	河火	釜	体部	76-101	21SD1	T1	16a層	106.3	外: 7.5YR5/1黄灰 内: 7.5YR5/2黄灰		780a180
139	河火	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	56.6	外: 7.5YR7/1明黄灰 内: 7.5YR5/3に赤い粒		780a182
140	河火	釜	体部	76-100	21SD1	T1	16a層	11	外: 5Y4/2緑オリーブ 内: 7.5Y5/1黄灰		780a183
141	河原砂	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	53.1	外: 2.5Y2/1黄灰 内: 2.5YR5/1黄灰		780a211
142	常滑	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	139.3	外: 5Y5/2緑オリーブ 内: 2.5Y4/2暗黄灰		780a215
143	常滑	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	137.4	外: 7.5YR5/1黄灰 内: 7.5YR5/2黄灰		780a216
144	河火	釜	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	42.3	外: 10YR3/1赤黒 内: 10YR4/1黄灰		780a217
145	福美	壺	胴部	77-100	21SD1	T1	16a層	38.7	外: 7.5YR3/1暗黒 内: 7.5YR5/1黄灰		780a218
146	常滑	壺	体部	77-100	21SD1	T1	16a層	41.8	外: 2.5Y7/1灰白 内: 2.5Y6/1黄灰		780a219
147	河原砂	釜	体部	77-100	21SD1	T1	6-13層埋当	7.7	10Y4/1灰		780a231
148	福美	壺	体部	77-100	21SD1	T1	6-13層埋当	38.9	5Y5/1灰		780a236
149	福美	壺	体部	77-100	21SD1	T1	6-13層埋当	163.3	外: 5G5/5オリーブ 内: 10YR5/2黄灰		780a239
150	福美	壺	体部	77-100	21SD1	T1	6-13層埋当	42.1	外: 2.5Y7/1灰白 内: 2.5Y6/1黄灰		780a240
151	福美	山手瓶	胴部		21SD1	T1	6-13層埋当	7.8	外: 5Y7/1灰白 内: 7.5Y6/2緑オリーブ		780a241
152	河原砂	壺	胴部	77-100	21SD1	T1	6-13層埋当	59.6	10Y4/1灰		780a245
153	河原砂	壺	胴部		21SD1	T1	6-13層埋当	93.7	10YR2/1黒		780a242
154	河原砂	壺	胴部		21SD1	T1	6-13層埋当	16.7	7.5Y5/1灰		780a243
155	常滑	釜	体部		21SD1	T1	6-13層埋当	23	外: 2.5YR5/1黄灰 内: 2.5Y6/1黄灰		780a255
156	常滑	釜	胴部	77-99	21SD1	T1	5層以上埋当	40.8	外: 10Y3/1オリーブ黒 内: 10Y5/1灰		780a266
157	河火	釜	体部	76-108	21SD1	T1	5層以上埋当	5.3	外: 2.5Y7/1灰白 内: 2.5Y6/2黄灰		780a268
158	河原砂	片口鉢	高台部	76-101	21SD1	T1	5層以上埋当	15.8	5Y7/1灰白		780a412
159	常滑	壺	胴部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	24.7	2.5YR4/1黄灰		780a443
160	常滑	壺	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	28	外: 2.5YR4/3に赤い赤黒 内: 10YR5/4に赤い黄褐		780a444
161	福美	壺	胴部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	15.8	外: 2.5YR5/1黄灰 内: 2.5Y6/2黄灰		780a445
162	河火	釜	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	20.1	10YR5/1黄灰		780a446
163	常滑	釜	体部	76-99 77-99	21SD1	T1	5層以上埋当	34.8	7.5YR4/3		780a447 780a448
164	河原砂	壺	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	13.5	2.5YR5/1黄灰		780a449
165	常滑	壺	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	8.7	外: 7.5YR4/3 内: 10YR6/4に赤い黄褐		780a449
166	河原砂	壺	胴部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	2.7	外: 2.5Y7/1灰白 内: 10YR2/1黒		780a450
167	常滑	壺	胴部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	10.4	外: 7.5Y2/1オリーブ 内: 7.5Y4/2緑オリーブ		780a455
168	常滑	壺	体部	76-99	21SD1	T1	5層以上埋当	76.2	10YR4/2黄灰		780a451
169	福美	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	63	外: 2.5Y4/1黄灰 内: 10YR3/2黄灰		780a453
170	河原砂	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	2.9	K4-0灰		780a456
171	常滑	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	19.3	2.5Y7/1灰白		780a458
172	福美	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	46.7	外: 5Y3/2オリーブ 内: 2.5Y3/1黄灰		780a457
173	常滑	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	9.4	外: 10Y5/1灰 内: 10YR6/1灰		780a459
174	常滑	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	150.2	外: 10Y5/2オリーブ 内: 10YR2/1黒		780a461
175	常滑	壺	胴部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	45.7	5YR5/4に赤い赤黒		780a462
176	常滑	片口鉢	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	12.5	7.5Y6/1灰		780a460
177	福美	壺	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当	30.2	2.5Y7/1灰白		780a463
178	常滑	釜	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上埋当 T2	53.1	外: 5YR3/3暗赤黒 内: 10YR6/3に赤い黄褐		780a464 780a140

表13-2 78次遺物観察表(国産陶器)

編號番号	器別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺跡名	層位	手廻り (g)	色別	備考	記録番号
179	須恵器系	坏	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	5.7	N5/0灰		78Rae5
180	須恵器系	甕	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	53.3	外: 7.5Y5/1灰 内: 7.5Y6/1灰		78Rae6
181	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	51.6	7.5Y5/1灰		78Rae7
182	須恵器系	壺	口縁部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	29.5	外: N3/0燻灰 内: K5/0灰		78Rae8
183	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	34.2	外: 5Y8/1灰白 内: 7.5Y7/1灰白		78Rae10
184	須恵器系	片口鉢	口縁部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	19.2	10Y6/1灰		78Rae11
185	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	6.8	外: 2.5Y6/2燻灰 内: 2.5Y4/1燻灰		78Rae12
186	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	31.5	外: 2.5Y7/2燻灰 内: 2.5Y7/1灰白		78Rae13
187	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	29.7	外: 5Y8/2燻灰 内: 7.5Y5/3(白)灰		78Rae14
188	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	31.3	外: 2.5Y3/2燻赤灰 内: 10Y8/3(白)燻灰		78Rae15
189	須恵器系	壺	体部	76 100	2ISD1	T1 T2	5層以上相当 2-4層相当	289.9	外: 2.5Y5/2燻灰 内: 2.5Y7/1灰白		78Rae16 78Rae17 78Rae18 78Rae19 78Rae20
190	須恵器系	壺	口縁部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	86.8	外: 5Y3/2灰白 内: 10Y8/2燻灰		78Rae21
191	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	11.1	外: 5Y4/1燻灰 内: 7.5Y5/4(白)燻灰		78Rae22
192	須恵器系	壺	体部	76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	48.2	外: 5Y5/4(白)燻灰 内: 2.5Y3/2燻灰		78Rae23
193	須恵器系	壺	体部	77-99	2ISD1	T1	5層以上相当	40.7	外: 5Y3/4(白)燻灰 内: 5Y7/1灰白		78Rae24
194	須恵器系	壺	体部	77-99	2ISD1	T1	5層以上相当	25.8	2.5Y5/1灰		78Rae25
195	須恵器系	壺	体部	77-99	2ISD1	T1	5層以上相当	46	10Y5/1灰		78Rae26
196	須恵器系	片口鉢	口縁部	77-99	2ISD1	T1	5層以上相当	59.7	外: 2.5Y8/1灰白 内: N7/0灰白		78Rae27
197	須恵器系	壺	体部	77 100	2ISD1	T1	5層以上相当	21.3	外: N4/0灰 内: N5/0灰		78Rae28
198	須恵器系	壺	体部	77 100	2ISD1	T1	5層以上相当	30.8	外: 2Y8/2燻灰 内: 10Y8/2燻灰		78Rae29
199	須恵器系	壺	体部	77 100	2ISD1	T1	5層以上相当	32.2	外: 2.5Y8/1灰白 内: 10Y8/2燻灰		78Rae30
200	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	48.1	7.5Y6/1灰		78Rae31
201	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	24.1	7.5Y5/1灰		78Rae32
202	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	16.1	外: 7.5Y4/1灰 内: N7/0灰白		78Rae33
203	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	40.1	N5/0灰		78Rae34
204	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	50	外: 2.5Y6/2灰白 内: N8/0灰白		78Rae35
205	須恵器系	壺	体部	77 100	2ISD1	T1	5層以上相当	40	N5/0灰		78Rae36
206	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	31.8	7.5Y8/1灰白		78Rae37
207	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	9.5	外: 10Y8/2(白)燻灰 内: 10Y8/2燻灰		78Rae38
208	須恵器系	山形鉢	口縁部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	6.3	2.5Y7/1灰白		78Rae39
209	須恵器系	壺	体部	77-101 76-100	2ISD1	T1	5層以上相当	73.5	外: 5Y6/1燻灰 内: 3Y8/1燻灰		78Rae40 78Rae41 78Rae42 78Rae43
210	須恵器系	片口鉢	口縁部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	30.3	7.5Y8/2燻灰		78Rae44
211	須恵器系	片口鉢	口縁部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	40.5	5Y7/1灰白		78Rae45
212	須恵器系	山形鉢	口縁部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	3.9	外: 10Y7/1(白)燻灰 内: 10Y6/1灰		78Rae46
213	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	11.2	2.5Y7/1灰白		78Rae47
214	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	78.2	外: 3Y8/1燻灰 内: 2.5Y8/2燻灰		78Rae48
215	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	1.2	外: 5Y6/1灰 内: 5Y7/1灰白		78Rae49
216	須恵器系	片口鉢	口縁部	77 101	2ISD1	T1	5層以上相当	14.3	5Y7/1灰白		78Rae50
217	須恵器系	壺	体部	77-101	2ISD1	T1	5層以上相当	30.5	外: N3/0燻灰 内: 10Y8/2燻灰		78Rae51
218	須恵器系	壺	体部	77-101	2ISD1	T1	5層以上相当	21.5	7.5Y6/1灰		78Rae52 78Rae53
219	須恵器系	壺	体部	77-101	2ISD1	T1	5層以上相当	40.2	外: 10Y8/2燻灰 内: 10Y8/2(白)燻灰		78Rae54
220	須恵器系	壺	体部	77 101	2ISD1	T1	5層以上相当	3.4	外: 5Y8/1燻灰 内: N6/0灰		78Rae55
221	須恵器系	壺	体部	77 101	2ISD1	T1	5層以上相当	27.1	外: 5Y3/2灰白 内: 3Y6/2燻灰		78Rae56
222	須恵器系	壺	体部	77-101	2ISD1	T1	5層以上相当	46.6	2.5Y7/1灰白		78Rae57
223	須恵器系	壺	体部	77-101	2ISD1	T1	5層以上相当	14	外: 5Y8/3(白)燻灰 内: 10Y8/2(白)燻灰		78Rae58
224	須恵器系	壺	体部	77-100	2ISD1	T1	5層以上相当	56.7	外: 5Y5/1灰 内: 5Y7/1灰白		78Rae59

表13-3 78次遺物観察表 (国産陶器)

相沢番号	種類	器種名	部位	出土層門	出土地点	遺物名	部位	高さ (g)	色調	備考	記録番号
225	甗	片1鉢	1縁部	77-100	21SD1	T1	5層以上土当 22~30cm当	100.1	外: 2.3V7/1灰白 内: 5V6/3オリーブ黄		780a166 780a258
226	甗	蓋	体部	77-99 76-100	21SD1	T1	5層以上土当	43.3	外: 5V5/3赤キリ・ブ 内: 10YR6/3に赤い黄緑		780a168 780a132
227	甗	片1鉢	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上土当	92.4	N7/0灰白		780a170
228	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上土当	40.7	外: 5A/0灰 内: 3S/0灰		780a171
229	甗	蓋	体部	77-100 76-100	21SD1	T1	16a層 5層上面土当	59.3	7.5Y7/1灰白		780a174 780a157
312	甗	蓋	体部		21SD1	T2	11・12層	76.9	外: 10YR5/2黒緑 内: 10YR5/4に赤い黄緑		780a259
313	炊息鉢	蓋	体部		21SD1	T2	11・12層	14.1	外: 3N/0灰 内: 3S/0灰		780a260
314	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	25.4	10Y5/1灰		780a27
315	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	42	外: 10Y4/1灰 内: 10Y3/2オリーブ黄		780a28
316	甗	蓋	門縁部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	137.7	外: 3S/0灰 内: 7.5Y6/2赤オリーブ		780a29
317	甗	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	17.9	外: 7.5Y5/3赤オリーブ 内: 7.3V7/2灰白		780a30
318	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	16.7	外: 10Y4/1灰 内: 7.3Y5/1灰		780a31
319	甗	片1鉢	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	120	10Y7/1灰白		780a32
320	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	48.3	外: 7.5Y3/2オリーブ黄 内: 10Y6/1灰		780a33
321	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	10.3	外: 2.3Y3/1黒緑 内: 2.5Y3/2赤オリーブ		780a37
322	炊息鉢	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	5.6	外: 7.5Y5/1灰 内: 7.3V7/1灰白		780a38
323	炊息鉢	蓋	源部	76-100	21SD1	T2	2-4層当 T2 2-4層当	36.2	10Y6/1灰		780a39
324	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上土当 T2 2-4層当	97.1	外: 3A/0灰白 内: 10YR5/2灰黄緑		780a40 780a42 780a142
325	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	23	外: 2.3Y3/1黒緑 内: 10YR3/1黒緑		780a151 780a41
326	甗	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	7.5	外: 5Y5/3赤オリーブ 内: 2.3Y3/4黄緑		780a123
327	甗	蓋	体部	77-100 76-101	21SD1	T2	2-4層当 T1 16a層	33.7 42.8	外: 5YR5/2赤褐 内: 10YR5/2灰黄緑		780a124 780a181
328	甗	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	37.4	外: 3N/0灰 内: 7.5YR3/2赤褐		780a125
329	甗	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	23.2	外: 5Y6/1灰 内: 2.3V7/1灰白		780a127
330	炊息鉢	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	18.7	外: 2.3YR5/1赤灰 内: 5YR5/2赤褐		780a128
331	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	18.1	外: 5Y7/2灰白 内: 10YR6/3に赤い黄緑		780a129
332	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	34.6	10YR7/3に赤い黄緑		780a131
333	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	93.1	外: 2.5YR5/0明赤褐 内: 7.5YR5/4に赤い黄緑		780a133
334	甗	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	34.3	外: 10YR6/3に赤い黄緑 内: 10YR5/3に赤い黄緑		780a134
335	炊息鉢	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	35.1	N7/0灰白		780a136
336	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	87.2	7.5YR4/2灰黄		780a137 780a150
337	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	109.6	5Y7/1灰白		780a138
338	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	42.8	5Y7/1灰白		780a139
339	炊息鉢	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	14.2	外: 5G3/1濃緑灰 内: 10YR4/1灰黄		780a141
340	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	13.8	5YR4/1濃灰		780a144
341	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	28.1	5Y6/1灰		780a145
342	甗	蓋	源部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	47.3	7.5Y7/1灰白		780a146
343	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	35	10YR5/3に赤い黄緑		780a147
344	甗	蓋	源部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	85.6	外: 7.5Y7/1灰白 内: 7.5Y6/1灰		780a148
345	甗	蓋	山縁部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	4.7	N6/0灰		780a149
346	炊息鉢	蓋	源部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	4.1	外: 3S/0灰 内: 7.5Y6/1灰		780a150
347	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	32.6	外: 3A/0灰 内: 10YR7/1灰白		780a152
348	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	69.9	外: 7.5Y6/3オリーブ黄 内: 2.3Y7/3灰白		780a153
349	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	16.7	2.3Y3/1灰		780a154
350	甗	蓋	体部	76-100	21SD1	T2	2-4層当	21.2	5G3/1暗オリーブ灰		780a155
351	甗	蓋	体部	76-100 77-100	21SD1	T2	2-4層当	11.9	5Y6/3オリーブ黄		780a156 780a155
352	甗	蓋	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層当	55.8	外: 5Y7/1灰白 内: 3V6/1灰		780a158

表13-4 78次遺物観察表(国産陶器)

編號番号	器別	器種名	部位	出土位置	出土地点	遺跡名	層位	手廻り (g)	色割	備考	登録番号
333	甕	甕	体部	77-100 75-97	21SD1 78S01	T2	2-4層相当 埋土	59.3	外:2.5YR5/4にぶい赤褐 内:10YR5/3にぶい赤褐		78R0150 78R0216
334	甕	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	11.3	外:2.5Y6/4黄灰 内:2.5Y4/2黄灰		78R0160
335	甕	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	55.3	2Y5/1灰		78R0161
356	甕	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	5.1	外:10YR6/2灰白褐 内:10YR6/1黄褐		78R0162
357	甕	甕	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	50.7	外:3Y4/0黄 内:10YR5/2黄褐		78R0163
358	甕	片山鉢	体部	77-100	21SD1	T2	2-4層相当	49.4	外:9E/0灰 内:2.3GY7/1明オリーブ灰		78R0164
372	甕	甕	体部		21SD1	T3	柄	28.8	外:Y4/0灰 内:N5/0灰		78R0261
373	甕	甕	体部		21SD1	T3	柄	19.5	外:Y7/0灰 内:3E/0灰		78R0262
374	甕	甕	体部		21SD1	T3	一拵	55.3	5YR5/4にぶい赤褐		78R0263
375	甕	甕	体部		21SD1	T3	一拵	27.1	外:4E/0灰 内:3GY6/1オリーブ灰		78R0264
384	甕	甕	体部		21S01		検出箇	14.4	7.5Y5/1灰		78R017
385	甕	甕	体部		21S01		検出箇	35.6	外:5YR4/6赤褐 内:2.5Y7/2赤褐		78R0172
386	甕	甕	体部	77-100 77-101	21S01	T1	5/6以上相違 検出箇	104.8	外:2.5Y5/4黄褐 内:2.5Y6/3にぶい黄		78R020 78R020
387	甕	甕	体部	76-100	21SD1		検出箇	4.9	3Y7/1灰白		78R021
388	甕	甕	体部	76-100	21SD1		検出箇	35.2	外:5Y6/1灰 内:10Y5/1灰		78R022
389	甕	甕	体部	76-100	21SD1		検出箇	8.1	外:10Y3/1オリーブ帯 内:7.5Y7/4灰白		78R023
390	甕	甕	体部	76-101	21SD1		検出箇	29.1	外:2.5Y4/6オリーブ帯 内:7.5YR1/3黄		78R024
402	甕	甕	体部		78SD1		埋土	1.7	3Y8/1灰白		73R0209
403	甕	甕	体部		78SD1		埋土	46.9	外:10YR6/1黄灰 内:10YR4/ 黄灰		78R0210
404	甕	甕	体部		78SD1		埋土	43.7	外:5Y6/1灰 内:3YR5/1オリーブ黄		78R0211
405	甕	甕	体部		78SD1		埋土	52.5	外:7.5Y7/1灰白 内:2.5Y6/1黄灰		78R0212
406	甕	甕	体部		78SD1		埋土	35.2	外:10YR6/2灰白褐 内:5Y3/2赤オリーブ		78R0214
407	甕	片山鉢	体部		78SD1		埋土	143.8	3Y7/1灰白		78R0215
408	甕	甕	体部		78SD1		埋土	39.8	外:2.5YR4/4にぶい赤褐 内:10YR5/2黄褐		78R0216
409	甕	山形鉢	体部		78SD1		埋土	54.2	10YR7/2にぶい黄褐		78R0217
410	甕	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	52	外:3Y5/3灰オリーブ 内:10YR6/2黄褐		73R0219
411	甕	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	35.2	外:10YR6/2灰白褐 内:10YR6/3にぶい黄褐		78R0220
412	甕	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	2.5	7.5YR5/1黄灰		78R0221
413	甕	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	49.5	外:7.5YR7/2黄褐 内:10YR6/2黄褐		78R0222
414	甕	甕	体部	75-97	78SD1		埋土	13.3	外:7.5Y3/1オリーブ帯 内:7.5Y5/1灰		78R0223
415	甕	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	81.3	2.5Y6/1黄灰		78R0224
416	甕	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	27.9	外:2.5Y3/1黄褐 内:2.5Y5/1黄灰		78R0225
417	甕	甕	片山鉢	76-98	78SD1		埋土	10.1	7.5YR4/1黄灰		78R0226
418	甕	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	12	外:2.5YR1/3にぶい赤褐 内:10YR5/4にぶい黄褐		78R0227
419	甕	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	110.2	外:10Y3/1灰 内:10Y4/1灰		78R0229
420	甕	甕	体部	76-98	78SD1		埋土	2.7	外:2.5YR2/2灰赤 内:5YR5/3にぶい赤褐		78R0228
424	甕	甕	体部		78SD1		埋土	10.5	7.5YR6/4にぶい黄		78R027
425	甕	甕	体部		78SD1		埋土	20	3.5YR3/3黄赤褐		78R027
425	甕	甕	体部		78SD1		埋土	30.9	外:2.5Y5/1黄褐 内:2.5Y6/1黄灰		78R03
426	甕	甕	体部		78SD1		埋土	25.3	外:3YR4/2黄褐 内:7.5YR5/4にぶい黄		78R08
427	甕	甕	体部		78SD1		埋土	155.2	外:2.5Y7/2黄赤 内:2.5Y3/1黄褐		78R04
428	甕	甕	体部		78SD1		埋土	79.2	5GY3/1明オリーブ灰		78R05
429	甕	山形鉢	片山鉢		78SD1		埋土	11.7	2.5Y6/1黄灰		78R09
430	甕	甕	体部		78SD1		埋土	9.1	外:Y4/1灰 内:2.3GY7/1明オリーブ灰		78R011
431	甕	山形鉢	体部		78SD1		埋土	7.3	10YR6/1黄褐		78R012
432	甕	甕	体部		78SD1		埋土	14.4	5Y6/1灰		78R013
433	甕	甕	体部		78SD1		埋土	6.1	外:10Y4/1灰 内:7.5Y7/1灰白		78R014
434	甕	甕	体部		78SD1		埋土	18.1	2.5GY4/1明オリーブ灰		78R015
435	甕	甕	体部		78SD1		検出箇	8.3	3/4O灰		78R0161

表13-5 78次遺物観察表 (国産陶器)

相沢番号	種類	器種名	部位	出土層目	出土地点	遺物名	部位	高さ (g)	色調	備考	記録番号
436	陶器	釜	体部			横出面		20	10Y7/1灰白		780a185
437	甕	体部	77-99			横出面		8	外: 10YR8/2灰赤 内: 10YR8/1褐色		780a186
438	甕	体部	77-99			表土		56.8	2.5Y4/1灰		780a187
439	陶器	釜	体部	74-103		横出面		128	5Y6/2灰オリーブ		780a188
440	陶器	釜	体部	77-99		横出面		43.8	外: 5Y5/3灰オリーブ 内: 10YR5/3にぶい青褐		780a187
441	陶器	釜	体部	77-99		横出面		29.7	2.5YR4/1灰		780a188
442	陶器	釜	体部	77-99		横出面		31.9	外: 5Y5/3灰オリーブ 内: 7.5YR6/4にぶい青		780a189
443	陶器	釜	体部	74-102		横出面		6.8	2.5Y3/1灰		780a190
444	陶器	釜	体部	78-100		横出面		5.3	2.5Y6/1黄灰		780a191
445				79-99		横出面		1.2	5Y7/1灰白		780a192
446	陶器	釜	体部			横出面		57.8	外: 10R4/1暗赤灰 内: 2.5Y7/2黄灰		780a193
447	陶器	釜	体部			横出面		43	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR6/2灰褐		780a194
448	陶器	釜	体部			横出面		23.3	外: 5Y2/1黒 内: 10YR6/2灰黄褐		780a195
449	甕	体部				横出面		21.4	外: 10YR5/3にぶい青褐 内: 10YR6/2にぶい青褐		780a196
450	陶器	釜	体部			横出面		36.6	外: 5Y5/3灰 内: 5Y7/1灰白		780a197
451	陶器	釜	体部			横出面		9.7	外: 7.5YR7/3にぶい青 内: 10YR6/2灰黄褐		780a198
452	陶器	釜	体部			横出面		6	7.5Y8/1灰		780a199
453	陶器	釜	体部			表土		27.6	7.5Y7/1灰赤		780a200
454	甕	体部				表土		40.3	10YR4/1褐色		780a201
455	陶器	釜	体部			表土		113.4	外: 10Y6/1灰 内: 2.5Y6/1黄灰		780a202
456	陶器	釜	口縁部			表土		9.3	外: 5Y4/0灰 内: 7.5Y7/1灰白		780a203
457	陶器	釜	体部	77-101	21SD1	T1	表土 16a層	38.8	外: 5Y3/1オリーブ黒 内: 10YR6/2黄褐		780a204 780a135
458	陶器	釜	体部	95-97		表土		11.2	外: 10YR4/1褐色 内: 2.5Y7/2黄灰		780a205
459	陶器	釜	体部	95-97		表土		70.3	外: 7.5Y6/2灰オリーブ 内: 2.5Y7/1灰白		780a206
460	陶器	釜	口縁部	95-97		表土		24.9	外: 2.5YR1/2赤 内: 5YR5/1にぶい青褐		780a207
461	甕	体部	95-97			表土		4.8	2.5Y5/1黄灰		780a208
462	陶器	釜	体部	76-98		整地層上段	石箱包合層	19	10YR5/1褐色		780a209
463	陶器	釜	体部	76-98		整地層上段	溝堀(4合層)	17.3	外: 2.5Y4/1黄灰 内: 2.5Y6/2灰赤		780a231
464	陶器	釜	体部	77-99		整地層上段	溝堀(4合層)	45.3	外: 10YR3/1暗赤 内: 10YR4/1褐色		780a232
465	甕	体部	77-99			整地層上段	石箱包合層	12.2	外: 7.5Y6/2灰オリーブ 内: 2.5YR5/2にぶい青		780a234
466	陶器	釜	体部	77-99		整地層上段	石箱包合層	27.9	外: 5YR6/6赤 内: 10YR5/3にぶい青褐		780a235
467	甕	体部	76-99 76-100	21SD1	T1	表土 5層以上相当		50.9	10YR7/1灰白		780a236 780a454
468	陶器	釜	体部	76-99		表土		35.3	K4-0灰		780a237
469	陶器	釜	体部	76-98		表土		11.3	5Y6/1灰		780a238
470	陶器	釜	体部	77-99		カタラン		33.3	外: 2.5Y6/1黄灰 内: 2.5Y6/3にぶい青		780a250
471	甕	体部	77-99			カタラン		18.9	外: 5YR5/4にぶい青褐 内: 7.5YR5/3にぶい青		780a251
472	甕	体部	76-99			カタラン		105.2	10YR5/4にぶい青褐		780a252
473	陶器	山口瓦	口縁部	76-99	78SD1	カタラン		10.1	2.5Y7/1灰赤		780a253
474	陶器	釜	体部	76-101	21SD1	T1	5層以上相当	26.8	外: 2.5Y7/2黄灰 内: 2.5Y7/1灰白		780a265
475	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	16a層	3.2			780a179
476	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	5.5			780a476
477	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	16.9			780a480
478	陶器	釜	体部	77-99	21SD1	T1	5層以上相当	9.1			780a488
479	陶器	釜	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	1.8			780a100
480	陶器	釜	体部	77-100	21SD1	T1	5層以上相当	14	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR4/3褐		780a108
481	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	5層以上相当	2.8	N7-0R4		780a172
482	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	表土	60.9			780a1
483	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	表土	8.7			780a146
484	陶器	釜	体部	76-100	21SD1	T1	17a層	6.9	外: 7.5YR6/4にぶい青 内: 10YR6/4にぶい青褐		780a257

表14 78次遺物観察表 (輸入陶磁器)

発掘番号	種別	器種名	部位	グリッド	出土地点	遺物名	修正部位	手数 (g)	備考	イロ番号
230	白磁	壺	体部		21S01	T1	25d	13.9	目録	78Rog22
231	白磁	壺	体部	77-100	21S01	T1	16a層	40	既発品系	78Rog6
232	青磁	壺	体部	77-100	21S01	T1	16a層	2.1	既発品系	78Rog7
233	中国陶器	壺	体部	77-101	21S01	T1	16a層	2.6		78Rog10
234	白磁	-	-	77-100	21S01	T1	16a層	3.4		78Rog20
235	中国陶器	壺	体部	76-99	21S01	T1	5d以上相当	1.3		78Rog8
236	白磁	壺	体部	76-100	21S01	T1	5層以上相当	3.2	目録	78Rog9
237	白磁	西洋壺	体部	77-100	21S01	T1	6-15層相当	7.3	目録	78Rog4
339	青磁	壺	口縁部		21S01	T2	7層	6.4	既発品系	78Rog21
360	白磁	壺	体部	77-100	21S01	T2	2-4層相当	2.2		78Rog12
361	白磁	壺	体部	77-100	21S01	T2	2-4層相当	20	目録	78Rog13
362	白磁	壺	体部	76-100	21S01	T2	2-4層相当	1.5		78Rog11
376	中国陶器	壺	体部		21S01	T3	葉子窓 括	10.3		78Rog23
377	青磁	壺	体部		21S01	T3	19層下面	1.2	既発品系	78Rog24
391	白磁	水注	体部	77-99	内庫 内口	梅田園				78Rog18
392	白磁	水注	体部	77-99	内庫 内口付近	梅田十層				78Rog19
421	白磁	壺	口縁部		78S01	標上		2.8		78Rog14
422	白磁	壺	体部		78S01	(75-97)標上		1.9	目録	78Rog16
475	白磁	壺	体部			表1出土時		3.9	目録	78Rog1
476	立白磁	壺	体部	74-103		カクラン窓-線出西		1.7		78Rog3
477	白磁	壺	体部	77-99		カクラン 括		2.4	目録	78Rog27
	白磁	壺	体部	77-100	21S01	T1	16a層	0.6		78Rog5
	白磁	壺	体部		21S01	T1	6-15層相当	2.1		78Rog17
	青白磁	壺	口縁部		75(96層)	坪上一括		0.2		78Rog26
	白磁	壺	体部		78S01	標上		1		78Rog15
	青磁	壺	体部			表1出土時		0.5	既発品系	78Rog2

表15 78次遺物観察表 (瓦)

発掘番号	種別	グリッド	出土地点	遺物名	修正部位	備考	重量 (g)
R#15	軒平瓦	76-100	21S01				207.5
R#5	瓦片	76-99	21S01	T1	5層以上相当		8
R#6	平瓦	76-99	21S01	T1	5層以上相当		14
R#7	平瓦	76-99	21S01	T1	5層以上相当		74.1
R#8	軒平瓦	76-99	21S01	T1	5層以上相当		34.8
R#9	平瓦	76-100	21S01	T1	5層以上相当		15.3
R#10	瓦片	76-100	21S01	T1	5層以上相当		44.6
R#11	瓦片	76-100	21S01	T1	5層以上相当		60.8
R#12	瓦片	76-100	21S01	T1	5層以上相当		59.8
R#13	瓦片	77-99	21S01	T1	5層以上相当		27
R#14	平瓦	77-99	21S01	T1	5層以上相当		24.3
R#16	平瓦	77-100	21S01	T1	5層以上相当		3.2
R#17	平瓦	77-100	21S01	T1	5層以上相当		75.9
R#18	瓦片	77-100	21S01	T1	5層以上相当		3.4
R#19	瓦片	77-100	21S01	T1	5層以上相当		3.7
R#20	平瓦	77-100	21S01	T1	5層以上相当		1.4
R#21	平瓦	77-100	21S01	T1	5層以上相当		3.3
R#22	瓦片	76-100	21S01	T2	2-4層相当		14.8
R#23	平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		20.2
R#24	瓦片	76-100	21S01	T2	2-4層相当		18.8
R#25	瓦片	76-100	21S01	T2	2-4層相当		9.4
R#26	平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		22.1
R#27	軒平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		13.6
R#28	平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		92.3
R#29	平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		39.4
R#30	瓦片	76-100	21S01	T2	2-4層相当		20.2
R#31	平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		32.5
R#32	平瓦	76-101	21S01	T2	2-4層相当		17.5
R#33	瓦片	77-100	21S01	T2	2-4層相当		15.7
R#34	瓦片	77-100	21S01	T2	2-4層相当		8.2
R#35	平瓦	76-100	21S01	T2	2-4層相当		129
R#36	瓦片	76-100	21S01	T2	2-4層相当		12.1
R#37	瓦片	76-100	21S01	T2	2-4層相当		25.2
R#38	平瓦	76-101	21S01	T1	5層以上相当		5.6
R#39	平瓦	76-101	21S01	T1	16a層相当		71.4
R#40	平瓦	77-100	21S01	T1	6-15層		41.7
R#42	平瓦	77-100	21S01	T1	6-15層		26.3
R#43	平瓦	77-100	21S01	T1	6-15層		141.8
R#44	瓦片	77-100	21S01	T1	6-15層		49.6
R#46	平瓦		78S01	78S01			39
R#47	平瓦		78S01	78S01			25.2
R#48	瓦片			括			19.3
R#49	瓦片			T3			27.6
R#51	平瓦			21S01	T1	17b層	87.2

表16-1 78次遺物観察表(木製品)

編號番号	部種	名称名		部位	長さ	幅	厚さ	備考	記録番号
478	部材	2ISD1	T1	16a板側面	24.2	3.1	0.5		78RW189
479	形代	2ISD1	T1	16a骨組面	13.9	2.9	0.2		78RW190
480	形代小	2ISD1	T1	16a板側面	10.6	4.6	0.2		78RW207
481	部材	2ISD1	T1	16a骨組面	14.8	3.3	0.4		78RW191
482	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	9.8	2.6	0.25		78RW193
483	加工材	2ISD1	T1	16a板側面	15.4	1.55	0.5		78RW194
484	部材	2ISD1	T1	16a骨組面	14	2.3	0.9	端部欠け	78RW196
485	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	9.1	1	0.5		78RW195
486	加工材	2ISD1	T1	16a板側面	7	1.1	4.5		78RW197
487	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	8	3.3	3.5		78RW198
488	加工材	2ISD1	T1	16a板側面	7.4	1.85	0.5		78RW199
489	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	7.2	1.2		端部欠け	78RW200
490	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	8.9	0.7	0.5		78RW201
491	加工材	2ISD1	T1	16a板側面	6.4	1.5	0.3		78RW202
492	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	5.35	0.65	0.5		78RW203
493	部材	2ISD1	T1	16a骨組面	7.6	3.25	0.5		78RW206
494	部材	2ISD1	T1	16a板側面	16.6	2	1.1		78RW205
495	部材	2ISD1	T1	16a骨組面	10.2	1.2	0.7		78RW208
496	加工材	2ISD1	T1	16a板側面	10.1	0.7	0.3		78RW209
497	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	8.6	0.6	0.4		78RW210
498	加工材	2ISD1	T1	16a骨組面	10.7	0.6	0.2		78RW212
499	加工材	2ISD1	T1	16a板側面	7	1.95	1		78RW213
500	部材	2ISD1	T1	16a骨組面	15.1	2.95	3.5		78RW192
501	接端	2ISD1	T2	2部				内面染付	78RW214
502	部材	2ISD1	T2	11・12部	4.3	4.6	2.1		78RW179
503	部材	2ISD1	T2	11・12部	4.1	6.9	2		78RW180
504	加工材	2ISD1	T2	11・12部	10.8	2.9	0.3		78RW100
505	部材	2ISD1	T2	11・12部	15.35	2.1	9		78RW164
506	部材	2ISD1	T2	11・12部	2.5	3.5	2.8		78RW162
507	部材	2ISD1	T2	11・12部	5.7	3.4	2.6		78RW163
508	加工材	2ISD1	T2	11・12部	6.35	2.75	0.4		78RW161
509	部材	2ISD1	T2	11・12部	11.9	2.2	0.7		78RW165
510	加工材	2ISD1	T2	11・12部	2.9	3.25	4.5		78RW166
511	加工材	2ISD1	T2	11・12部	5.8	2.25			78RW168
512	部材	2ISD1	T2	11・12部	10.5	2.8	0.7		78RW167
513	加工材	2ISD1	T2	11・12部	9.75	1.35	0.35		78RW169
514	加工材	2ISD1	T2	11・12部	9.1	2.9	0.45		78RW170
515	加工材	2ISD1	T2	11・12部	6.3	1.45	0.3		78RW171
516	加工材	2ISD1	T2	11・12部	5.65	1.6	0.8		78RW172
517	加工材	2ISD1	T2	11・12部	3.9	3.05	0.2		78RW173
518	加工材	2ISD1	T2	11・12部	2.55	1.75	0.15		78RW174
519	加工材	2ISD1	T2	11・12部	5.1	1.75	0.4		78RW175
520	加工材	2ISD1	T2	11・12部	6.1	1.5	0.35		78RW176
521	部材	2ISD1	T2	11・12部	3.4	3.85	2	2部接合する	78RW181
522	部材	2ISD1	T2	11・12部	2.2	2.45	1.4		78RW182
523	部材	2ISD1	T2	11・12部	4.7	2	2.3		78RW183
524	部材	2ISD1	T2	11・12部	10.2	1	0.5		78RW184
525	部材	2ISD1	T2	11・12部	6.35	4.4	0.65		78RW185
526	部材	2ISD1	T2	11・12部	6.9	2.4	0.65		78RW186
527	部材	2ISD1	T2	11・12部	3.2	3.4	0.9		78RW187
528	部材	2ISD1	T2	11・12部	7.9	5.8	3.5		78RW188
529	漆塗木片	2ISD1	T2	7部	18.7	2.1	0.35	2部接合する	78RW1
530	竹皮片	2ISD1	T2	7部	24.8	2.85	0.55		78RW9
531	部材	2ISD1	T2	7部	21.4	2	0.8		78RW11
532	部材	2ISD1	T2	7部	6	3.3	3.2		78RW12
533	葉小	2ISD1	T2	7部	19.5	0.55	0.5		78RW13
534	葉小	2ISD1	T2	7部	17.3	0.95	0.45	端部欠け	78RW14
535	加工木材	2ISD1	T2	7部	19	8.5	0.6	筋入あり	78RW15
536	加工木	2ISD1	T2	7部	11	1	1		78RW17
537	部材	2ISD1	T2	7部	12.3	3.7	1.3		78RW18

表16-2 78次遺物観察表(木製品)

編號番号	部材	遺品名	層位	長さ	幅	厚さ	備考	記録番号	
338	部材	21SD1	T2	714	12.5	1	0.3	78RW19	
339	部材	21SD1	T2	7層	9	2.7	0.8	78RW21	
340	部材	21SD1	T2	712	7.7	1.15	0.3	78RW22	
341	牙板片	21SD1	T2	714	16.7	2.3	0.3	78RW24	
342	部材	21SD1	T2	7層	8.7	1.2	1.3	空孔あり	78RW26
343	部材	21SD1	T2	712	32	1	1	78RW53	
344	部材	21SD1	T2	7層	28.3	4.1	0.6	78RW56	
345	部材	21SD1	T2	712	33.8	3.9	1.1	腐蝕炭化	78RW51
346	部材	21SD1	T2	714	8.7	8.8	0.3	78RW57	
347	部材	21SD1	T2	7層	18.2	1.73	0.1	空孔あり	78RW58
348	部材	21SD1	T2	712	9.9	8.3	1.2	78RW52	
349	部材	21SD1	T2	714	10.2	13.4	0.8	腐蝕炭化	78RW55
350	部材	21SD1	T2	7層	12.3	0.6	0.3	78RW61	
351	部材	21SD1	T2	712	9.9	0.5	0.5	78RW62	
352	部材	21SD1	T2	7層	15	0.73	0.3	78RW64	
353	部材	21SD1	T2	712	24.7	0.8	0.7	78RW63	
354	部材	21SD1	T2	714	6	9.2	3.8	78RW67	
355	加工材	21SD1	T2	7層	11.1	1.1	0.4	磨面あり	78RW68
356	部材	21SD1	T2	712	3.6	3.1	1.4	78RW71	
357	部材	21SD1	T2	714	3.2	3.2	1.7	78RW66	
358	磨面木片	21SD1	T2	7層	4.8	1.4	0.5	78RW60	
359	白木片	21SD1	T2	712	3.5	1.1	0.3	78RW91	
360	朽れ板	21SD1	T2	7層	3	2	0.3	78RW119	
361	部材	21SD1	T2	712	19.4	1.4	0.7	78RW74	
362	部材	21SD1	T2	714	14.75	0.6	0.4	78RW76	
363	部材	21SD1	T2	7層	6.5	0.3	0.4	78RW77	
364	板片	21SD1	T2	712	7.1	1.45	0.2	78RW120	
365	部材	21SD1	T2	714	10	1.5		78RW131	
366	加工材	21SD1	T2	7層	10	2.6	0.35	78RW121	
367	部材	21SD1	T2	712	10.8	0.6	0.55	78RW133	
368	加工材	21SD1	T2	7層	21.3	0.9	1.2	78RW130	
369	部材	21SD1	T2	712	31.8	1.5	0.4	78RW132	
370	部材	21SD1	T2	714	8.3	0.8	0.4	78RW134	
371	部材	21SD1	T2	7層	10.1	1.1	0.35	78RW27	
372	部材	21SD1	T2	712	10.7	1	0.4	腐蝕炭化	78RW28
373	部材	21SD1	T2	714	9.5	3.5	0.5	78RW29	
374	部材	21SD1	T2	7層	12.2	1	0.4	78RW30	
375	部材	21SD1	T2	712	10.2	1	0.4	78RW31	
376	部材	21SD1	T2	7層	6.2	1.2	0.3	78RW32	
377	部材	21SD1	T2	712	6.6	0.7	0.7	78RW33	
378	部材	21SD1	T2	714	9.2	1.4	0.7	78RW34	
379	部材	21SD1	T2	7層	11.1	1	0.7	78RW35	
380	部材	21SD1	T2	712	10.7	1.5	0.4	78RW37	
381	部材	21SD1	T2	714	16	1.8	0.6	78RW36	
382	部材	21SD1	T2	7層	18.5	0.8	0.3	78RW73	
383	部材	21SD1	T2	712	10.8	2.8	0.6	78RW38	
384	部材	21SD1	T2	7層	6.5	2	0.45	78RW39	
385	部材	21SD1	T2	712	8.3	2.3	0.5	78RW69	
386	部材	21SD1	T2	714	7.6	2.9	0.5	78RW72	
387	部材	21SD1	T2	7層	7.6	2	0.5	78RW75	
388	部材	21SD1	T2	712	12.1	1.2	0.4	腐蝕炭化	78RW80
389	部材	21SD1	T2	714	12	2.3	1.5	78RW81	
390	部材	21SD1	T2	7層	10	3.1	0.5	78RW82	
391	部材	21SD1	T2	712	10.6	0.6	0.6	78RW83	
392	加工材	21SD1	T2	7層	5	1.5	0.2	78RW87	
393	加工材	21SD1	T2	712	3.6	3.4	0.4	78RW89	
394	加工材	21SD1	T2	714	13	1.3	0.3	78RW98	
395	加工材	21SD1	T2	7層	11.8	1.2	0.8	78RW92	
396	加工材	21SD1	T2	712	7.9	1.2	1	腐蝕炭化	78RW93
397	加工材	21SD1	T2	714	7	0.7	0.6	78RW94	

表16-3 78次遺物観察表(木製品)

編號番号	物種	品名		部位	長さ	幅	厚さ	備考	記録番号
598	加工片	2ISD1	T2	7層	6.85	0.8	0.7		78RW96
599	加工片	2ISD1	T2	7層	2.35	3.2	0.55		78RW97
600	加工片	2ISD1	T2	7層	7.65	1.1	0.35		78RW98
601	加工片	2ISD1	T2	7層	8	1.8	0.35		78RW99
602	加工片	2ISD1	T2	7層	8.6	0.7	0.25		78RW100
603	加工片	2ISD1	T2	7層	7.2	0.8	0.3		78RW101
604	加工片	2ISD1	T2	7層	6.4	0.65	0.4		78RW102
605	加工片	2ISD1	T2	7層	8.8	1.15	0.35		78RW103
606	加工片	2ISD1	T2	7層	7.35	0.5	0.4		78RW104
607	加工片	2ISD1	T2	7層	4.1	1.7	0.4	炭化	78RW105
608	加工片	2ISD1	T2	7層	7.7	1.2	3.5		78RW106
609	加工片	2ISD1	T2	7層	8.4	1.25	0.4		78RW107
610	加工片	2ISD1	T2	7層	7	0.9	0.5		78RW108
611	加工片	2ISD1	T2	7層	8.5	1.35	1		78RW109
612	加工片	2ISD1	T2	7層	7.2	0.6	0.45		78RW110
613	加工片	2ISD1	T2	7層	4.6	1.75	0.15		78RW112
614	加工片	2ISD1	T2	7層	7.3	1.5	0.5		78RW113
615	加工片	2ISD1	T2	7層	8.8	3.7	0.3		78RW114
616	加工片	2ISD1	T2	7層	5.45	1.6	0.9		78RW115
617	塊	2ISD1	T2	7層	1.2	3.4	0.2		78RW116
618	加工片	2ISD1	T2	7層	3.4	3.2	0.2		78RW117
619	加工片	2ISD1	T2	7層	3.7	1.3			78RW118
620	加工材	2ISD1	T2	7層	8.6	1.6	0.25		78RW122
621	加工材	2ISD1	T2	7層	7.15	2	0.2		78RW123
622	加工材	2ISD1	T2	7層	6.1	2.25	0.3		78RW124
623	加工材	2ISD1	T2	7層	12.6	1.75	0.35		78RW125
624	加工片	2ISD1	T2	7層	7.4	6.5	0.15		78RW127
625	加工片	2ISD1	T2	7層	6.2	0.9	0.35		78RW128
626	加工片	2ISD1	T2	7層	4.3	0.9	0.4		78RW129
627	部材	2ISD1	T2	7層	9.2	1.1	4		78RW135
628	部材	2ISD1	T2	7層	8.1	2.9	0.5		78RW136
629	部材	2ISD1	T2	7層	12.9	3.35	0.35		78RW137
630	部材	2ISD1	T2	7層	8.6	1.8	0.75		78RW138
631	部材	2ISD1	T2	7層	6.2	2.6	0.25		78RW139
632	部材	2ISD1	T2	7層	4.7	2.1	0.4	漆托点付	78RW140
633	部材	2ISD1	T2	7層	10.9	1.8	1.25		78RW141
634	部材	2ISD1	T2	7層	17.25	1.9	0.45		78RW142
635	部材	2ISD1	T2	7層	11.7	1.2	0.2		78RW143
636	加工材	2ISD1	T2	7層	8.1	1.3	0.2		78RW145
637	加工材	2ISD1	T2	7層	11.4	0.6	0.45		78RW146
638	加工材	2ISD1	T2	7層	6.35	1.55	0.2		78RW147
639	加工材	2ISD1	T2	7層	10.9	3.1	0.2		78RW148
640	加工材	2ISD1	T2	7層	15.4	1.1	0.8		78RW149
641	加工材	2ISD1	T2	7層	15.1	2.2	0.2		78RW150
642	加工材	2ISD1	T2	7層	12.1	1.45	0.4		78RW151
643	加工材	2ISD1	T2	7層	7	1.9	0.4		78RW152
644	加工材	2ISD1	T2	7層	5.3	2.4	0.2		78RW153
645	加工材	2ISD1	T2	7層	8.1	1.05	0.2		78RW154
646	加工材	2ISD1	T2	7層	11.1	0.7	0.6	漆托点付	78RW155
647	加工材	2ISD1	T2	7層	4.7	1.4	0.4		78RW156
648	加工材	2ISD1	T2	7層	7.9	1.4	0.35		78RW157
649	加工材	2ISD1	T2	7層	7.4	1.5	0.2		78RW158
650	部	2ISD1	T2	7層	7.8	5	6		78RW160
651	漆小	2ISD1	T2	7層	12.4	0.6	0.6	漆托点付	78RW126
652	漆小	2ISD1	T2	7層	8.2	0.5	0.3		78RW144
653	加工片	2ISD1	T2	7層	5.9	0.85	0.85		78RW95
654	部材	2ISD1	T2	7層	19.8	1.3	0.15		78RW70
655	加工片	2ISD1	T2	7層	9.35	0.85	0.15		78RW111
	漆箱	2ISD1	T1	16号箱占					78RW204
	漆塗板片	2ISD1	T1	16号箱占					78RW215

表17-1 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	形別 (器種)	器種名	部位	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	他測	登録番号	保存関係
657	陶製	甕	体部	表土		49.1	外: 7.5Y6/2灰オリーブ 内: 2.5Y6/1黄灰	79R042	
658	陶製	甕	体部	表土		18	外: 7.5Y86/1黄灰 内: 10YR6/1褐灰	79R046	
659	常滑	甕	口縁部	表土		8.1	外: 5Y8/4にぶい赤黄 内: 5Y1/3黄オリーブ	79R0410	
660	常滑	甕	胴部	表土		16.1	外: 5Y5/2灰オリーブ 内: 7.5Y8/1褐灰	79R0413	
661	須恵器	甕	体部	表土		8.8	外: 5B4/1黄青灰 内: 5B5/1青灰	79R0415	
662	常滑	甕	口縁部	表土		29.1	外: N5/0灰 内: N5/0灰	79R0424	
663	常滑	甕	体部	表土		35	外: 5Y8/4にぶい赤黄 内: 7.5Y8/4黄	79R0423	
664	常滑	甕	口縁部	表土		6.2	外: 2.5Y6/2灰青 内: 2.5Y6/2にぶい黄	79R0429	
665	常滑	甕	口縁部	表土		17.3	外: 10YR3/1褐灰 内: 5Y4/1灰	79R0445	
666	常滑	甕	体部	表土		31.6	外: N4/0灰 内: 10YR5/3にぶい黄褐	79R0447	
667	常滑	甕	口縁部	表土		65.6	外: 5Y6/1灰 内: 2.5Y6/1黄灰	79R0448	
668	陶製	甕	体部	72SD2周壁(外壁)	表土	65.3	外: 5Y8/1灰白 内: 5Y6/1灰	79R0455	
669	陶製	片口鉢	口縁部	72SD2周壁(外壁)	表土	15.8	外: 10Y7/1灰白 内: 2.5Y6/7黄オリーブ灰	79R0462	
670	和瓦	瓦	体部	72SD2 外堀	横出面	38.6	外: 10YR4/3にぶい赤黄 内: 2.5Y6/2にぶい黄	79R0469	
671	須美	甕	体部	72SD2 外堀	横出面	14.4	外: 7.5Y4/2灰オリーブ 内: N4/0灰	79R0471	
672	常滑	甕	体部	72SD4 内堀	表土	97	外: 7.5Y7/1灰白 内: 2.5Y5/1黄灰	79R0476	
673	常滑	甕	口縁部	72SD2 外堀	浴槽中	197.3	外: 5Y7/2灰白 内: 5Y6/1灰	79R0479	
674	常滑	甕	体部	内堀~外堀(区画)	横出面一筋	56.1	外: 5Y6/1灰 内: 5Y3/1黄オリーブ灰	79R0483	
675	須美	甕	底位区	トレンチ カクラン層一筋		154.3	外: 7.5Y0/1オリーブ黒 内: 5Y5/1灰	79R0487	
676	須美	甕	底位区	トレンチ カクラン層一筋		116.7	外: 5Y5/2灰オリーブ 内: 2.5Y6/1黄灰	79R0490	
677	須恵器系	甕	底位区	トレンチ カクラン層 横		69.8	外: N4/0灰 内: 2.5Y7/1灰白	79R0491	
678	常滑	甕	体部	底位区	トレンチ カクラン層 横	68.5	外: 5Y3/1オリーブ黒 内: 2.5Y5/1黄灰	79R0492	
679	陶製	甕	体部	底位区	トレンチ カクラン層 横	71.4	外: 2.5Y7/1灰白 内: 10YR6/1褐灰	79R0493	
680	和瓦	瓦	体部	底位区	トレンチ カクラン層	107.9	外: 5Y2/1オリーブ黒 内: 2.5Y6/1黄灰	79R0401	
681	和瓦	瓦	体部	底位区	トレンチ カクラン層	122.4	外: 2.5Y7/1灰白 内: 10YR7/1灰白	79R0402	
682	須美	甕	底位区	トレンチ カクラン層		66.8	外: 5Y7/1灰白 内: 7.5Y8/1灰白	79R0403	
683	須美	京置	底位区	トレンチ カクラン層		67.9	外: 10YR3/1黒褐 内: 10Y5/2オリーブ灰	79R0404	
684	瀬夫	甕	体部	深井(1)	トレンチ カクラン層	124.0	外: 10YR6/2灰黄 内: 10YR7/1灰白	79R0405	79R0409, 121と統合
685	常滑	甕	胴部	深井(1)	トレンチ カクラン層	64.2	外: 2.5Y7/2灰黄 内: 10YR6/4にぶい黄橙	79R0407	
686	須美	甕	底位区	トレンチ カクラン層		39.6	外: 10Y7/2黒褐 内: 5P4/1黄黄灰	79R0411	
687	陶製	甕	底位区	トレンチ カクラン層		24.6	外: 5Y2/1黒 内: 2.5Y5/2黄灰黄	79R0412	
688	常滑	甕	底位区	トレンチ カクラン層		34.3	外: N5/0灰 内: 5Y6/1黄灰	79R0415	
689	常滑	甕	口縁部	底位区	トレンチ カクラン層	18.9	外: 5Y7/1灰白 内: 7.5Y8/1灰白	79R0416	
690	陶製	甕	体部	底位区	トレンチ カクラン層	36	外: 10Y7/1灰白 内: 10YR6/1褐灰	79R0417	
691	和瓦	瓦	口縁部	底位区	トレンチ カクラン層	51.5	外: 2.5Y6/2灰青 内: 2.5Y6/2灰青	79R0420	
692	常滑	甕	口縁部	底位区	トレンチ カクラン層	19.5	外: 5Y8/4にぶい赤黄 内: 3Y5/4オリーブ	79R0423	
693	須美	甕	体部	72SD2 外堀	南トレンチ 表土	21	外: 5Y85/2灰褐 内: 7.5Y86/1褐灰	79R0428	
694	瀬夫	甕	体部	北谷原	表土 横出面	96	外: 5Y6/3オリーブ黄 内: 10YR6/1褐灰	79R0429	
695	常滑	甕	体部	北谷原	表土 横出面	48.9	外: 7.5Y8/4黄 内: 10YR6/3にぶい黄橙	79R0430	
696	須美	甕	体部	北谷原	表土 横出面	63.7	外: 10YR3/1褐灰 内: 10YR6/1褐灰	79R0431	
697	陶製	甕	底位区	北谷原	表土 横出面	74.5	外: 2.5Y7/1灰白 内: 2.5Y7/1灰白	79R0435	

表17-2 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	類別 (津路)	器種名	器区	出土地・産地名	層位	重量 (g)	色調	登録番号	後付関係
698	陶类	釜	底部	72SD1	横山田 基	37.7	外:10Y8/1黒1 内:5Y8/1黒L	79R0150	
	似磁器	釜	体部		表土	62.7	外:7.5Y2/1黒 内:8.5/0灰	79R01	
	甗	釜	体部		表土	62.5	外:10Y8/2オリーブ灰 内:8.8/0灰	79R03	
	甗	釜	体部		表土	49.8	外:8.5/0灰 内:8.6/1灰	79R04	
	甗	釜	体部		表土	24.2	外:5PB2/1褐色灰 内:K7/0灰白	79R05	
	甗	釜	体部		表土	21.2	外:2.5Y7/1灰白 内:5Y7/14黄灰	79R07	
	甗	釜	体部		表土	23.5	外:5Y6/3オリーブ灰 内:10YR 6.7/1.5V黄橙	79R08	
	甗	釜	体部		表土	6.9	外:8.4/0灰 内:8.6/1灰	79R09	
	甗	釜	体部		表土	23.7	外:2.5Y7/1灰内 内:8.6/1灰	79R011	
	陶类	釜	腹部		表土	9.8	外:2.5Y4/2オリーブ褐 内:2.5Y3/2黄灰	79R012	
	陶类	釜	体部		表土	11.2	外:5Y3/1灰 内:8.6/1灰	79R014	
	甗	釜	体部		表土	13.3	外:8.6/1灰 内:10YR7/1灰白	79R016	
	似磁器	釜	体部		表土	13.9	外:8.6/1灰 内:5.6/1黄灰	79R017	
	陶类	釜	体部		表土	10.8	外:5Y7/1黒L 内:2.5Y3/1黄灰	79R018	
	甗	釜	体部		表土	38.4	外:10YR7/1灰白 内:2.5Y7/1灰白	79R019	79R051と統合
	甗	釜	体部		表土	47.9	外:2.5Y3/1黄灰 内:5PB2/2黄灰	79R020	
	甗	釜	体部		表土	78.5	外:7.5Y5/2黄オリーブ 内:K7/0灰白	79R021	
	甗	釜	体部		表土	40.6	外:8.5/0灰 内:8.6/1灰	79R022	
	甗	釜	体部		表土	15.9	外:7.5Y5/2オリーブ 内:10YR5/3.5.5.1黄橙	79R023	
	甗	釜	体部		表土	26.2	外:10YR4/2黄黄橙 内:10YR7/3.4.5.1黄橙	79R025	
	甗	釜	体部		表土	51.3	外:5YR5/1黄灰 内:7.5Y3/1灰	79R026	
	甗	釜	体部		表土	46.3	外:7.5Y6/1灰 内:7.5Y7/1灰L	79R027	
	陶类	釜	体部		表土	19.9	外:8.6/1灰 内:5.1PB5/3.1.5.1黄	79R028	
	甗	釜	体部		表土	48.1	外:5Y8/1灰 内:1PB6/1.1.1.1黄	79R029	
	甗	釜	体部		表土	38.3	外:10B2/5.1.1.1黄灰 内:5PB7/1.1.1.1黄	79R030	
	甗	釜	体部		表土	14.9	外:5PB3/1褐色灰 内:10YR5/2灰黄橙	79R031	
	甗	釜	体部		表土	51.1	外:2.5Y7/2黄灰 内:2.5Y8/2灰白	79R032	
	甗	釜	体部		表土	23.9	外:2.5Y4/1黄灰 内:7.5YR4/4黄	79R035	79R0144と統合
	甗	釜	体部		表土	27	外:10YR4/2黄黄橙 内:7.5YR5/6黄橙	79R036	
	甗	釜	体部		表土	15.3	外:10YR5/3.1.5.1黄橙 内:10YR6/2黄黄橙	79R037	
	甗	釜	体部		表土	2.6	外:7.5YR5/1黄灰 内:10YR0/1黄灰	79R038	
	陶类	釜	体部		表土	36.4	外:8.4/0灰 内:8.6/1灰	79R040	
	甗	釜	体部		表土	14.3	外:2.5Y7/1黄オリーブ灰 内:2.5Y3/1黄灰	79R041	
	陶类	釜	体部		表土	4.4	外:5Y8/1灰 内:2.5Y7/1灰白	79R042	
	甗	釜	体部		表土	14.1	外:2.5YR/1灰白 内:7.5Y6/1灰	79R043	
	甗	釜	体部		表土	10.5	外:2.5Y8/4.1.5.1黄 内:2.5Y6/3.1.5.1黄	79R044	
	甗	釜	体部		表土	12.7	外:10Y6/2オリーブ灰 内:2.5Y7/3黄灰	79R046	
	甗	釜	体部		表土	20.7	外:10YR4/1黄灰 内:10YR7/1灰白	79R049	
	甗	釜	体部	72SD1 内層	表土	61.6	外:5YR6/2黄灰 内:2.5YR5/2黄橙	79R050	
	甗	釜	体部	72SD1 内層	表土	37.4	外:8.3/0灰 内:5Y7/2灰白	79R051	
	甗	片口鉢	体部	72SD1 内層	表土	14.1	外:2.5Y7/1灰1 内:5Y7/1灰L	79R052	

表17-3 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	発掘(調査)区	発掘名	部位	出土地点・遺構名	層位	重量(g)	他測	登録番号	保存関係
常滑	栗	伴部	72SD1	内堀	表土	11.9	外: 2.5V5/1黄灰 内: 2.5V5/2白灰	79R0453	
常滑	栗	伴部	72SD4	内堀	表土	14.9	外: 5V3/4オリーブ 内: 10YR3/1褐灰	79R0454	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	53.7	外: 2.5V5/1黄灰 内: 5Y7/1灰	79R0456	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	五十	42.1	外: 5Y7/1灰 内: 5Y6/1灰	79R0457	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	42.6	外: 5P7/1黄灰 内: 3P5/1黄灰	79R0458	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	13.7	外: 10Y7/1灰 内: 7.5Y7/1灰	79R0459	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	7.5	外: 7.5Y5/2オリーブ 内: 7.5Y5/1黄灰	79R0460	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	49.8	外: 3P5/1黄灰 内: 7.5G5/3白灰と 10Y8/1灰の内まじり	79R0461	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	19.1	外: 7.5Y5/2オリーブ 内: 10YR7/1黒	79R0463	79R0414と混合
短器器	栗	伴部	72SD2	外堀(外堀)	表土	5.9	外: 10Y4/1灰 内: 3P5/1黄灰	79R0464	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀	横山面	31.9	外: 2P6/1黄灰 内: 5R5/1赤灰	79R0465	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀	横山面	32	外: 7.5Y4/1黄灰 内: 2.5Y6/1黄灰	79R0466	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀	横山面	2.8	外: 10Y3/1オリーブ 内: 10Y4/1灰	79R0467	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀	横山面	23.3	外: 7.5Y4/1灰 内: 3P5/1黄灰	79R0468	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀	横山面	30.4	外: 10YR6/2黄灰 内: 10YR6/2黄灰	79R0470	
常滑	栗	伴部	72SD4	内堀	表土	20.5	外: 10Y5/2オリーブ 内: 5Y7/1灰	79R0472	
瀬安	栗	伴部	72SD4	内堀	表土	35.2	外: 10YR4/1黄灰 内: 10YR5/2黄灰	79R0473	
常滑	栗	伴部	72SD4	内堀	表土	36.6	外: 10YR4/1黄灰 内: 10Y5/2オリーブ灰	79R0474	
短器器	栗	伴部	72SD4	内堀	表土	12.8	外: 5G5/1黄灰 内: 10G5/1黄灰	79R0475	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀	遺構中	80.9	外: 2.5Y7/1灰 内: 5P7/1黄灰	79R0477	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀	遺構中	113	外: 2.5V5/1黄灰 内: 2.5Y7/1灰	79R0478	
瀬安	栗	伴部	72SD2	外堀	遺構中	61.4	外: 7.5Y6/2オリーブ 内: 3P6/1灰	79R0480	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀	遺構中	15	外: 2.5Y6/1黄灰 内: 10YR5/1黄灰	79R0481	
常滑	栗	伴部	72SD2	外堀	遺構中	3.1	外: 7.5YR6/1黄灰 内: 7.5YR5/1黄灰	79R0482	
常滑	山茶樹	伴部	内堀~外堀(仮定区)	横山面一括		1.7	外: 5P5/1黄灰 内: 5P47/1黄灰	79R0484	
瀬安	栗	伴部	内堀~外堀(仮定区)	横山面一括		10.1	外: 5R7/1黄灰 内: 5P17/1黄灰	79R0485	
瀬安	栗	伴部	内堀~外堀(仮定区)	横山面一括		17.8	外: 5Y5/3オリーブ 内: 2.5Y4/1黄灰	79R0486	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層一括		135.9	外: 5Y7/1灰 内: 7.5Y7/1灰	79R0488	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層一括		197.2	外: 2.5Y6/2黄灰 内: 5Y6/1灰	79R0489	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層一括		57.8	外: 7.5Y4/3オリーブ 内: 2.5Y5/1黄灰	79R0494	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層 積		32	外: 5YR4/2黄灰 内: 7.5YR5/4に赤い混	79R0495	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層 積		28.2	外: 2.5Y7/2黄灰 内: 10YR7/2に赤い混	79R0496	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層 積		13.6	外: 10Y8/1灰 内: 2.5Y7/1灰	79R0497	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層 積		16.1	外: 5Y7/1灰 内: 2.5Y7/2黄灰	79R0498	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層 積		11.8	外: 10YR5/2黄灰 内: 2.5Y7/2黄灰	79R0499	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層一括		29.8	外: 7.5YR4/3黄灰 内: 2.5Y5/1黄灰	79R04100	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層		43.5	外: 2.5Y5/1黄灰 内: 2.5Y6/1黄灰	79R04106	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層		37	外: 10YR3/1黄灰 内: 2.5Y4/1黄灰	79R04108	
瀬安	栗	伴部	内堀	カクラン層		57.8	外: 5P6/3黄灰 内: 3P6/1灰	79R04110	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層		107.7	外: 10YR5/1黒 内: 2.5Y5/1黄灰	79R04113	
常滑	栗	伴部	内堀	カクラン層		63.4	外: 5Y7/1灰 内: 10Y8/1灰	79R04114	

表17-4 79次遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	類別 (産地)	器種名	器形	出土地・産地名	層位	重量 (g)	色調	登録番号	保存関係
	陶器	釜	体部	高位区	トレンチ カクラン層	80	外: 2.5Y7/1灰白 内: 5Y6/1灰	79Rot118	
	陶器	釜	体部	高位区	トレンチ カクラン層	23.9	外: 5YR4/2灰赤褐色 内: 7.5YR4/6黄	79Rot119	
	陶器	釜	体部	高位区	トレンチ カクラン層	30.9	外: 2.5Y7/2黄 内: 2.5Y7/1灰白	79Rot122	
	甗	釜	体部	高位区	トレンチ カクラン層	4.4	外: 5YR4/3に赤い赤褐色 内: 7.5YR5/1に赤い黄	79Rot124	
	甗	釜	体部	高位区	トレンチ カクラン層	19.4	外: 2.5Y7/1灰白 内: 5Y6/1灰	79Rot125	
	甗	蓋	体部	高伊イ		15.7	外: 7.5R3/2暗赤褐色 内: 5YR4/2灰黄	79Rot126	
	甗	蓋	体部	25SD2 外製	南トレンチ 衣上	21.4	外: 5YR5/2灰黄 内: 10YR5/1褐色	79Rot127	
	甗	蓋	体部	北松浜	表上 横出面	58.9	外: 8k/1灰 内: 8k/2灰	79Rot132	
	甗	蓋	体部	北松浜	表上 横出面	47	外: 10YR6/1褐色 内: 10YR5/1褐色	79Rot133	
	陶器	釜	体部	北松浜	表上 横出面	108	外: 2.5Y6/2黄 内: 8.5/0黄	79Rot134	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	20	外: 2.5Y7/1灰白 内: 10YR5/1褐色	79Rot136	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	14.4	外: 10Y6/2オリーブ 内: 10YR5/3に赤い黄褐色	79Rot137	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	18.9	外: 10Y6/1褐色 内: 10YR5/1褐色	79Rot138	
	陶器	釜	体部	北松浜	表上 横出面	24	外: 2.5Y7/1灰白 内: 5Y6/1灰	79Rot139	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	25.6	外: 7.5Y5/3オリーブ 内: 10YR1/2灰黄褐色	79Rot140	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	26	外: 5Y4/2灰オリーブ 内: 7.5YR4/4黄	79Rot141	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	14.7	外: 2.5Y6/2黄 内: 10YR6/1褐色	79Rot142	
	甗	蓋	体部	北松浜	表上 横出面	9.5	外: 5YR4/4に赤い赤褐色 内: 7.5YR5/6黄褐色	79Rot145	
	甗	蓋	体部	北松浜	表上 横出面	11.4	外: 7.5YR5/2灰黄 内: 10YR6/2黄褐色	79Rot146	
	甗	蓋	体部	北松浜	表上 横出面	13.3	外: 10YR6/1褐色 内: 7.5YR5/1黄褐色	79Rot147	
	陶器	釜	体部	北松浜	表上 横出面	10.9	外: 2.5Y6/2黄 内: 2.5Y3/2黄褐色	79Rot148	
	甗	釜	体部	北松浜	表上 横出面	7.9	外: 5Y2/1黒 内: 10YR1/1褐色	79Rot149	
	甗	釜	体部	内帯	横出面 柄	30.1	外: 3P5/1黄灰 内: 5R6/1黄灰	79Rot151	
	甗	釜	体部	高位調査区	底張	101.1	外: 10Y5/2オリーブ 内: 2.5Y7/1灰白	79Rot152	
	甗	釜	体部	高位調査区	底張	66	外: 10YR5/3に赤い黄褐色 内: 10YR5/4に赤い黄褐色	79Rot153	
	甗	釜	体部	高位調査区	底張	57.7	外: 7.5Y5/1褐色 内: 5P6/1黄灰	79Rot154	
	甗	釜	体部	高位調査区	底張	20	外: 8.5/0灰 内: 2.5Y4/1黄灰	79Rot155	
	甗	蓋	体部		表上	76.5	外: 5YR5/1褐色 内: 7.5YR5/1褐色	79Rot156	
	甗	蓋	体部		表上	15.1	外: 5R7/1暗赤灰 内: 3P7/1暗赤灰	79Rot157	

表18 79次遺物観察表 (輸入陶磁器)

掲載番号	類別	器種名	器形	グリッド	出土地点	産地名	重量 (g)	備考	登録番号
699	白磁	壺	体部		高位区トレンチ	鹿児島 柄	13.5	目取	79Rot1
700	青磁	碗	体部		72ND2周辺		15.5	鹿児島系	79Rot2
701	古徳	碗	体部				8.5	鹿児島系	79Rot3
702	白磁	四耳瓶	体部				4.9		79Rot4
	白磁	碗	体部				2.5		79Rot5
	白磁	碗	11脚部				1.2		79Rot6